

戻ヲ爲スコト能ハサルニ至リ講ニ損害ヲ及ホスヘキ恐レアル場
合ト雖モ豫メ之ヲ支配人ニ賠償セシムルヲ得ス(法新五七六號
一二頁大分地判)

十四 貸貸人ハ其契約期間内ハ貸貸借ノ目的物ヲ貸借人ノ使用ニ
任スルノ債務ヲ負フ從テ貸貸物件ヲ他ヘ賣渡シ右債務ノ履行ヲ
不能ニ歸セシメ貸借人ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之カ賠償ノ
義務ヲ負フ(最近判五卷六一頁四十二年七月九日東地判)

十五 民法第四百十五條ニ因リテ債務者ハ債務ノ不履行ニ依リテ
當然之カ損害賠償ノ義務ヲ負擔シ債權者ハ必スシモ直接履行ヲ

求メサルヘカラサル義務ナキヲ以テ假令履行不能又ハ契約解除
後ニ非サルモ債權者ノ選擇ニ從ヒ直接履行又ハ之ニ代ルヘキ損
害賠償ノ請求ニ應スヘキ義務アルモノトス(法新五九四號九頁
四十二年七月十日東地判)

十六 債務不履行ノ場合ニ於テ債務者ニ損害賠償ノ責任ヲ發生ス
ルニハ債務ノ不履行若クハ履行不能カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事
由ニ原因スルコト換言スレハ債務者ノ故意又ハ過失ニ歸因スル
コトヲ要シ且之ニ因リテ債權者ニ損害ノ生シタルコトヲ要ス
(法新六三九號十二頁東地判)

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ

其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者ハ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシト
キハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

一 辯護士ニ支拂ヒタル報酬ニシテ訴訟費用ノ言渡中ニ包含セサ
ルモノハ損害賠償トシテ相手方ニ對シテ要求スルヲ得ス(三十
二年九卷五八頁大判)

二 債務ノ不履行ヲ原因トシ債務者ニ賠償セシムヘキ損害ハ其不
履行ニ因リテ通常生スヘキモノ又ハ特別ノ事情ニ依リテ生シタル
モ當事者ニ於テ之ヲ豫見シ若クハ豫見シ得ヘカリシモノニ限ル
コトハ普通ノ法理ナリトス(三十三年四卷十二頁大判)

三 損害賠償請求ノ訴權ハ現ニ損害ヲ受ケタル事實アリテ初メテ
發生スルモノナルカ故ニ單ニ損害ヲ受ケタルトキノ豫備トシテ
其支拂ヲ爲サシメントスルカ如キハ固ヨリ許容スヘカラサル不
當ノ請求ナリトス(三十三年五卷九頁大判)

四 債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害カ通常生スヘキモノナル
ヲ將テ特別ノ事情ニ因リテ生シタルモノナルヤハ事實上ノ問題
ニシテ法律上ノ問題ニアラス(三十四年二月二十三日大判)

五 貸貸借契約ニ基ク債務不履行ニ因ル損害賠償ノ請求額ハ現ニ
其使用ヲ爲サシメサリシ事實ニヨリテ發生スルモノトス從テ將
來被告ニ於テ使用ヲ爲サシムルニ適セシムルトキハ毫モ損害ヲ
生スルモノニ非ス(法新四六號八頁東地判)

六 貸貸人ハ貸借人ニ對シテ物件ヲ使用セシムル義務ヲ負フモノ
ナルニ貸借人ノ占據ヲ奪ヒ若クハ貸貸借關係ヲ存續セシメスシ
テ該物件ヲ第三者ニ賣却シ之カ爲メ貸借人ヲシテ使用ヲ爲サシ
メサルハ貸貸人ノ爲スヘキ義務ヲ履行セサルモノトス(法新四
六號八頁東地判)

七 不當ノ假處分ニヨリ買賣契約ヲ解除シ手附金償還ノ損害ヲ被
ムリシコトニ付テハ假處分申請者ニ於テ其當時手附金ノ關係ヲ
豫見シ若クハ豫見シ得ヘカリシヤ否ヤヲ確定シ以テ賠償責任ノ
有無ヲ判定セサルヘカラス(三十七年二月十日大判)

八 買賣契約ノ不履行ヲ原因トスル損害賠償請求ノ訴ニ於テ損害
ノ數額ヲ算定スルニハ必ラスシモ契約履行地ニ於ケル目的物ノ
價格ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス(三十八年六
月十日大判)

九 契約ノ不履行ニ因リテ生シタル損害賠償ノ責任ハ其不履行ニ
基キ該契約ノ解除セラレタルト否トニ從ヒテ之カ範圍ヲ異ニス
ルモノニ非ス(三十八年七月十日大判)

十 買賣ノ後其目的物ノ價格カ經濟上ノ趨勢ニ因リ自然ニ騰貴シ
タル場合ニ於テ賣主カ契約ヲ履行セサルトキハ買主ハ買受ケタ
ルト同一ノ代價ヲ以テ他人ニ其目的物ヲ賣渡シタルト否トニ拘

ラス賣主ニ對シテ騰貴額ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス(三十八年
十一月二十八日大判)

十一 民法第四百十六條第一項ニ依ル損害賠償ノ請求ハ債務ノ不
履行ニ依リ現ニ損害ヲ蒙リタルカ又ハ現ニ得ヘキ利益ヲ失ヒタ
ルコトヲ要ス(三十九年四月二十三日大判)

十二 契約締結後其目的物カ既ニ運滞ニ付セラレタルトキハ爾後經濟
上ノ趨勢ニ因リ其目的物ノ騰貴シタル價格ニ從ヒ損害賠償ス
ヘキモノトス(三十九年十月二十九日大判)

十三 債權者カ民法第四百十六條第二項ノ規定ニ基キ特別ノ事實
ヲ主張シテ損害賠償ノ請求スル場合ニ於テ反對ノ意思表示アラ
サル限り其請求ハ同條第一項ノ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ請求
スル旨趣ヲ包含スルモノトス(四十一年四月廿三日大判)

十四 賣主カ契約ノ目的タル架橋用石材時期限内ニ引渡ササル爲
メ買主ニ於テ其石材ノ供給ヲ約シタル第三者ニ對シ義務ヲ履行
スルコト能ハサルニ至リタルヨリ一時履行ノ猶豫ヲ求メ假橋架
設ノ用材ヲ供與シタルトキハ其出捐ハ民法第四百十六條第二項
ノ所謂特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス(四十一年
十月二十八日大判)

十五 買賣契約ノ不履行ニ因ル損害賠償額ニ付キ其實買物件カ轉
賣ノ目的トスル場合ナリトスルモ賣主カ事情ヲ豫見シ又ハ豫見
シ得ヘカリシモノト認ムル場合ノ外轉賣ニ依テ得ヘキ利益ノ算
定ハ買主ノ營業所ノ相場ニ從フモノニアラスシテ契約執行地ノ

當時ノ價格ヲ標準トスヘキモノトス(最近列六卷一九九頁四十年三月廿三日東控判)

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム

一 民法第四百十七條ニ所謂金錢トハ内國通用ノ貨幣ノミヲ指稱セルモノトス從テ被害者カ單ニ加害者ノ不法行為ヲ原因トナシ其損害賠償トシテ外國通用ノ貨幣ノ給付ヲ要メタルハ不適法ナリ(三十九年二月十九日大判)

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム

但シ約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

一 遲延利息ハ性質上民法ニ所謂損害賠償ニ外ナラス(三十四年十一月三十日大判)

二 不法行為ニ因ル賠償ノ遲延ヨリ生スル損害賠償額ハ法定利率ニ依リテ算定スヘキモノニシテ法定利率ハ年五分ナリトス(三十七年三八九頁大判)

三 消費貸借ノ場合ニ於テ借主カ遲滞ニ付セラレタルトキハ貸主ハ利息ニ關スル約定ノ有無ニ拘ラス法定利率ニ依リ損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利アリ(三十九年一月十六日大判)

四 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ履行ヲ爲ササル爲メ債權者ヨリ損害ノ賠償ヲ要メタル場合ニ若シ當事者間約定ノ利率アリテ其額カ法定ノ利率ニ超過スルトハ裁判所ハ民法第四百十九條第一項但書及利息制限法ニ依リ其制限ヲ超エサル程度ニ於テ賠償額ヲ算定セサル可カラス(三十九年四月二十九日大判)

五 金錢ヲ目的トスル債務ヲ履行セサル者カ其不履行ニ因ル損害ノ額ハ實際上生シタル損害ヲ補償セシムルヲ目的トスルモノナルカ故ニ其賠償ヲ求ムル者ハ實際ニ損害ノ生シタルコトヲ證明セサルヘカラス(法新五四四號一六頁四十二年十二月十一日大版控判)

六 財産上ノ損害賠償ハ民法四百十九條ノ如キ特別規定アラサル

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス

賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス
違約金ハ之ヲ損害賠償額ノ豫定ト推定ス

一 民法施行前後ヲ問ハス當事者ハ實質ノ違約ヨリ生スル損害額ヲ豫定スルコトヲ得裁判所ハ溢リニ其豫定額ヲ増減スルコトヲ得ス(三十二年九卷二十頁大判)

二 當事者カ契約不履行ノ際ニ違約者ノ支拂フヘキ金額ヲ豫定セル場合ニハ反對ノ契約ナキ以上ハ損害ノ有無又ハ多少ヲ問ハス違約者ヨリ其豫定金額ヲ支拂フヘキモノトス(四十年二月二日大判)

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非サルモノヲ以テ損害賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價格ノ全部ヲ受ケタルトキ

ハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フ事ヲ得但シ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ在ラス

一 民法第四百二十二條舊商法第七百六十五條同第四百條及民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡チ爲サシメタル原因トシテ而カモ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス(三十三年七月二十六頁大判)

二 民法第四百二十三條第一項ハ債權者カ債務者ニ代リテ債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得トノ法意ナリトス(三十四年二月二十二日大判)

三 債權者カ民法第四百二十三條ニ基キ債務者ノ權利ヲ行使スルハ自己ノ債權保全ノ爲メ即チ自己ノ利益ノ爲メ自己ノ名義ヲ以テ爲スヘキモノトス(法新一一八號八頁三十五年十月十三日大阪地判)

四 債權者ハ其債權ヲ保全スル爲メ自己固有ノ權利ニ因リ第三債務者ニ對シ自己ノ名義ヲ以テ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルト雖モ其訴訟ノ目的ハ必ラス第三債務者ヲシテ債務者ニ對シ債務ノ履行ヲ爲サシムル請求ヲササルヘカラス何トナレハ債權者ハ唯々債

務者ニ代リ其權利ヲ行使スルニ過キサレハ訴訟上第三債務者ニ對スル權利關係ハ即チ直接ノ權利者タル債務者ニ外ナラサレハナリ(法新一四七號九頁三十六年六月十九日大阪地判)

五 民法第四百二十三條ニ規定スル代位債權ハ債務者ニ於テ第三債務者ニ對シテ或ル權利ヲ有スル場合ニ於テ債權者カ其債務者ニ代リ其債務者ノ地位ニ立テテ第三債務者ニ係リ債務者ノ有スル權利ヲ自己ニ行フモノニ過キス故ニ債權者ハ代位債權ノ行使ニ依テ受ケタル給付ヲ直ニ其財産中ニ歸屬セシムルコトヲ得ス(三十六年七月大判)

六 民法第四百二十三條第一項ハ債權者ノ第三債務者ニ對シ直接自己ニ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ル權利ヲ附與シタルニ非ス之ヲ以テ第三債務者ニ對シ直接自己ニ債務ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ス(法新一四〇號一三頁三十六年三月二十六日大阪地判)

七 民法第四百二十三條第一項ノ規定即チ所謂間接訴訟ハ債務者カ自ラ其權利ヲ行使スヘキ時期ニ之ヲ行ハス爲メニ其時期ヲ失スルノ虞アル場合ニ於テ債權者カ債務者ニ代リ間接ニ其權利ヲ

行使シ以テ債務者ノ債權ヲ保全セシムルヲ以テ其目的トス故ニ債權者ハ自己ノ債權ニ充當セシムル爲メ第三債務者ヨリ直接辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得ス(三十六年十二月二十二日大判)

八 債權者ハ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ノ財産保全ノ爲メ不動産登記申請ヲ爲シ得ヘキ權利アルモ不動産登記法ハ代位登記申請手續ヲ規定セサルカ故ニ之ヲ許サス(法新三〇六號一一頁三十八年八月二十九日東地判)

九 民法第四百二十三條第一項ノ規定ハ債權者カ自己ノ利益ノ爲メニ第三債務者ヲシテ債務者ニ辨濟ヲ爲サシメ以テ債務者ノ財産ノ減少ヲ防クコトヲ許シタルニ過キスシテ直接ニ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ許シタルニ非ス(三十九年七月二十三日大判)(同主旨三十六年七月六日 判決三十六年十二月十一日)

十 代位訴訟ヲ行使スル債權者ノ地位ハ代理人ノ資格ヲ以テスル

第四百二十四條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所

ニ請求スルコトヲ得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

一 虛偽ノ意思表示ニ原因シテ變更セラレタル不動産ノ所有名義又ハ引渡サレタル動産ノ占有ハ該買買ノ無効タルニ拘ラス依然

トシテ存在シ債權者ノ爲メ害トナルハ勿論ナルカ故ニ債權者ハ買買ノ無効ヲ主張スルト同時ニ廢罷訴訟ニヨリ買買名義ニ依レ

ニ非スシテ自己ノ資格ヲ以テス(法新三六三號二三頁三十九年四月六日東地判)

十一 債權者ハ債務者ノ辨濟實力不充ナル場合ニ非レハ代位訴訟ヲ行フコトヲ得ス從テ債務者ノ爲シタル行爲ノ無効ヲ確認セシムルニハ其實力ノ不足トナリタルコトヲ立證セサル可ラス(三十九年十一月二十一日大判)

十二 債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條ノ場合ヲ除ク外其債權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セサルモノトス(三十九年十一月二十一日大判)

十三 民法第四百二十三條ニ於テ債權者ニ附與シタル代位訴訟ハ債務者カ其權利ヲ行ハサル場合ニ限リ債權保全ノ爲メ之ヲ行フコトヲ得ルニ過キサレハ苟モ債務者ニシテ既ニ其權利ヲ行ヒタルトキハ結果ノ良否如何ニ拘ラス債權者ハ更ニ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス(四十一年二月二十七日大判)

ル不動産ノ登記取消若クハ動産ノ所有取戻ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(三十四年五月十三日大判)

二 債務者ノ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シテ譲渡シタルトキハ假令其譲渡ハ虚偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非レハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之ヲ取消シ得ヘキモノトス(三十四年十月二十一日大判)

三 民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ハ其行爲ニ依リ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタル場合ニ於テ債權者カ其行爲ヲ取消シ得ル旨ノ規定ナルヲ以テ取消以前ニ於テハ其行爲ハ元ヨリ有效ナルモノトス(法新四七號一〇頁東控判)

四 民法第四百二十四條ノ規定ハ債權者ニ於テ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルモノタル上ハ其債權ニシテ共同擔保ニ過キサル場合ハト特別擔保ノ別無擔保ノ設定アル場合ハトテ論セテモ債務者カ爲シタル法律行爲ニ出テ債務者ヲ害スルモノナレハ一般ニ通シテ之ヲ適用スヘキモノト解釋セサルヘカラス(三十六年二月九日大判)

五 債務者以外ノ者ノ爲シタル法律行爲ニ對シテハ縱令債權者カ間接ニ害セサルヘキモノトスルモ民法第四百二十四條ノ規定ニ基キ其取消ヲ請求シ得ヘキニ非ス(三十六年二月九日大判)

六 民法第四百二十四條ニ謂フ債權者ハ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲トハ債權者ノ權利ヲ詐害スル行爲ヲ指シタ

大阪地判

十一 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債務者カ爲シタル詐害行爲ノ取消權ヲ有スル債權者ハ其債務者カ爲シタル虚構ノ債權ニ基キ其執行トシテ假裝ノ抵當不動産ヲ強制競賣ニ附セントスル者アルトキハ其競賣ヲ妨グル權利ヲ有スルヲ以テ民法第五百四十九條ニヨリ第三者トシテ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ(三十七年四月廿五日大判)

十二 債務者ト抵當權ノ目的タル物件ヲ他ニ賣却セル場合ニ於テ債權者ヨリ之ヲ詐害行爲トシテ其取消ヲ請求シ得ルニハ債務者ニ於テ他ニ完全ナル辨濟ヲ爲スヘキ資産ヲ有セザルコトヲ要ス(三十七年六月八日大判)(同主旨三十二年三卷五十一頁)

十三 債務者カ他人ト共謀シ抵當權設定ノ行爲ヲ假裝シテ登記シタル場合ニ於テハ債權者ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ取消權ヲ行フコトヲ得從テ金錢ヲ以テスル賠償ノ外抵當登記ノ抹消ヲ請求シ得ルモノト爲シタル判決ハ不法ナリ(三十七年七月八日大判)(同主旨三十五年十二月三日)

十四 民法第四百二十四條ノ第一要件タル債權者ヲ害スルコトハ債務者カ財產權ヲ目的トスル法律行爲ヲ爲シ之ニ因リ其債權者ノ爲メ一般擔保ヲ組成スル自己ノ財產ヲ減少シ辨濟ノ資力ヲ減弱ナラシメタル場合ヲ云フ(三十七年十月二十一日大判)

十五 債務者カ相當代價ヲ以テ或ル財產ヲ賣却シタル場合ニ其代價ニシテ債務者ノ手裡ニ存在スルカ又ハ之ヲ有益ニ利用轉換シ

ルモノニシテ債權ノ成立ニハ毫モ影響ヲ及ホスコトナク單ニ其實效上ニ不利利益ナル結果ヲ及ホスコト云フ(三十六年十一月十二日大判)

七 民法第四百二十四條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ債務者ノ債權者ニ對スル辨濟ノ資力ヲ減弱ナラシメ之カ爲メ債權者ニ現實ノ損害ヲ蒙ラシメタル以上ハ假令受益者又ハ轉得者ヨリ對價ヲ支拂ヒタリトスルモ斯ル事實ハ惡意ヲ以テ爲シタル法律行爲ニ因リ債權者ヲ害シタルトモ否ヤニ消長ナキモノトス(三十六年十一月十六日大判)

八 詐害行爲取消ノ訴ニ於テ債務者ノ爲シタル行爲ニ因リ利益ヲ受ケタル者カ民法第四百二十四條ノ適用ヲ受ケルニハ債權者ヲ害スルノ意思アルコトヲ必要トセス唯タ債務者ノ行爲ノ債權者ヲ害スルコトヲ知ルヲ以テ足ル(三十六年十一月二十七日大判)

九 民法第四百二十四條ニ於テ債權者ニ對シ債務者ノ爲シタル詐害行爲ノ取消ヲ許シタルハ債權者ノ受クヘキ損害ヲ救済スルニ在ルヲ以テ場合ノ如何ト行爲ノ何タルトハ問ハス債權者ノ爲シタル行爲全部ヲ取消シ全ク行爲アラサル最初ノ状態ニ復セシムルモノニ非ス故ニ其行爲ノ目的ニシテ分割シ得ルモノナルトキハ單ニ其一部ヲ取消スコトヲ得ルハ當然ナリ(三十六年十二月七日大判)

十 民法第四百二十四條ハ一般擔保ヲ減少シタル場合ニシテ其行爲ヲ廢止スルノ外他ニ債權者ノ損害ヲ救済スルニ遑ナキトキニ限り適用スヘキモノトス(法新一二八號九頁三十六年一月三日

テ賣却物件ニ代ルヘキ價格現存スルカ若クハ其代價ニテ優先權ヲ有スル他ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス(三十七年十月二十一日大判)

十六 債務者ノ詐害行爲廢止ノ場合ニ於テ債權者カ債務者ノ惡意ヲ證明シタル場合ニ於テハ之カ相手方タル受益者又ハ轉得者カ其善意ナリシコトヲ立證スルニ非レハ債權者ノ取消權ヲ否認スルコトヲ得ス(三十七年十二月三日大判)

十七 民法第四百二十四條ノ規定シタル債權者ノ取消權ハ債權者カ其債務者ヨリ一般擔保ヲ害セラレタルトキニ於テノミ之ヲ有スルモノナレハ債務者ノ行爲ニシテ債權者カ取消權ヲ有スルハ財產權ヲ目的トスルモノニ限リ又債權者ノ權利モ財產權ニ關スルモノナラサルヘカラス(三十八年二月十日大判)

十八 遺贈ノ不動産ニ付キ遺贈者カ生前債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタルトキハ受遺者ニ於テ之ヲ他ニ賣渡スト否トニ拘ラス債權者ハ其目的物ニ追隨シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルカ故ニ受遺者カ賣却ヲ爲シタル爲メ抵當權者ニ損害ヲ生ズルモノニ非ス(三十八年五月二十六日大判)

十九 民法第二百二十四條ノ規定ハ債務者カ他ニ債權者ノ辨濟ヲ爲スヘキ目的ナクシテ自己ノ財產ヲ賣却スル時ハ其價格ノ相當ナルト否トハ問ハス債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ナリト推定スル法意ナリ(三十九年二月五日大判)

二十 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ有償行爲ノ取消サルル場合ハ其對價ノ格外ニ低廉ナルトキノミニ限ラズ相當ノ對價ヲ以

ヲシタルトキト雖モ亦之ヲ適用スヘキモノナリ(三十九年二月五日大判)(同主旨三十六年二月十三日)

二十一 民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトノ故意ヲ以テ一般ノ共同擔保タル自己ノ財産ヲ減少スヘキ法律行為ヲ爲シタル場合ニ限リ其行為取消權ヲ債權者ニ附與スルモノトス從テ債務者ノ所有ニ屬スル建物ニ對シ一番抵當權ノ設定目的トシテ爭フ所ノ債權者ノ如キハ其性質上同條ニ所謂債權者ニ非ス(三十九年三月十四日大判)

二十二 民法第四百二十四條ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタルトキハ相手方ナル受益者若クハ轉得者モ亦其情ヲ知リタルモノト推定シ此推定ニ反スル但書ノ場合ニ於テハ受益者又ハ轉得者ヲシテ其情ヲ知ラザリシコトノ立證責任ヲ負ハシメタルモノトス(三十九年五月二十三日大判)(同主旨多クアリ)

二十三 債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ト雖モ民法第四百二十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取消スニ非レハ固ヨリ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ假令詐害ノ事實存在シ轉得者ニモ亦惡意アリトスルモ債權者ハ轉得者ヲシテ直ニ其買受ケタル物件ヲ返還セシムヘキ原由ナシ故ニ其手裡ニ現存セザル物件ニ付テモ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(三十九年七月九日大判)

二十四 債務者カ自己ノ財産ヲ他人ニ賣却スルハ正當ノ法律行為ヲ爲スモノニシテ固ヨリ不法行為ニ非ス唯之カ爲メニ總債權

リ作ラ任意ニ之ヲ爲シタル場合ノミヲ指稱シ法律上履行スヘキ債務ヲ履行シタル場合ノ如キハ之ヲ包含セズ(四十年三月十一日大判)

三十 原告ニ對スル債務辨濟ニ供スル客ニテ即時代金ヲ支拂ヒ建物買受ケタル場合ハ其買受ケ詐害行為ナリトシテ取消スコトヲ得ス(最近判一巻八三頁四十年三月三十日東地判)

三十一 債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ自己ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタル場合ト雖モ爾後隱居ヲ爲シ其旨ヲ債權者ニ通知シ且家督相續人ニ於テ該不動産ヲ債務ト共ニ承繼セル以上ハ債權者ハ隱居者ニ對シテ抵當權設定ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス(四十年四月一日大判)

三十二 特許權ノ賣買モ詐害行為ノ目的ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ他ニ資力ナキ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ特許權ヲ賣買シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得(最近判一巻一〇七頁四十年五月二十四日東地判)

三十三 債務者ノ爲シタル法律行為カ債權者ヲ害スルト否トハ其行為當時ノ事情ニ因リ之ヲ定ムヘキモノニシテ爾後時勢ノ變遷ニ從ヒ物價ノ騰貴シタル場合ニ比シ不利益ナリシカ如キ事由ハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス(四十年七月二日大判)

三十四 債務者カ一部ノ債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ一般擔保減少ノ結果損害ヲ蒙ルヘキ債權者アルトキハ詐害行為ヲ構成スルモノトス(四十年九月二十一日大判)

者ノ共同擔保ヲ減少シ債權者ヲ害スルノ虞アルヲ以テ特ニ民法第四百二十四條ノ規定ヲ設ケ之ヲ保護シタルモノトス(三十九年七月九日大判)

二十五 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ法律行為ノ取消權ヲ有スル債權者カ後日登記權利者ノ地位ニ立ツコトヲ豫想シ行為ノ取消ト共ニ登記ノ抹消ヲ請求スルハ違法ニ非ス(三十九年九月二十八日大判)

二十六 民法第四百二十四條第二項ニ所謂法律行為トハ其行為ニシテ賣買若クハ贈與ニ出テタル場合ニハ其賣買若クハ贈與ヲ指稱シ又其行為カ買權若シクハ抵當權ノ設定ニ出テタル場合ニハ其買權又ハ相抵當權ノ設定ヲ指稱スルモノトス(三十九年九月二十八日大判)

二十七 債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條等ノ場合ヲ除ク外其債權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セザルモノトス(三十九年十一月二十一日大判)

二十八 第三者カ其債務者ヨリ抵當不動産ヲ買受ケ自ラ其債務ヲ辨濟シ抵當權ヲ消滅セシメタル場合ニ於テ裁判所カ普通債權者ノ請求ニ依リ其實買ノ取消ヲ命スルニハ先ツ抵當權ヲ以テ擔保セザレタル債權額ト其不動産ノ價格トヲ比較審究セザル可ラス(四十年二月十三日大判)

二十九 民法第四百二十四條ニ所謂債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為トハ債務者カ之ヲ爲シ若クハ爲ササルヲ得ヘキ自由ヲ有スルトキニ於テ債權者ヲ害スルコトヲ知

三十五 債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタル場合ニ於テモ其行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者ハ其行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ債權者ハ其行為ノ取消ヲ請求シ得サルモノトス(法新四六七號六頁四十年十二月十二日長崎控判)

三十六 詐害行為ノ廢罷ノ訴タル目的ハ債權ノ效力上債權者ノ共同擔保トシテ債務者ノ財産ヲ保全スル總旨タルカ故ニ其目的ハ財産權ヲ目的トシテ而モ取消ヲ求ムル者ノ債權ハ其性質カ債務者ノ財産ニ對シ強制執行ヲ許シ得ヘキモノナラサルヘカラス契約ニ因テ抵當權設定登記ノ抹消ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒシ者カ其契約ヲ履行セス其抵當權ヲ他人ニ讓渡スガ如ク裝ヒ其登記手續ヲ爲シザリトテ詐害行為ヲ原因トシテ取消ヲ求ムルコトヲ得ス(最近判二巻一二二頁四十年四月十一日名古屋控判)

三十七 債務者ノ爲シタル法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セザル場合ニ於テハ縱令其行為ノ爲メ債權者ノ權利ヲ害スルモ民法第四百二十四條ノ廢罷訴權ヲ發生スルコトナシ(四十一年六月二十日大判)

三十八 債權者カ債務者ノ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ請求シ得ルニハ其法律行為カ債權者ヲ害スヘキモノナルコトヲ要ス故ニ若シ債務者ノ行為ニシテ債權者ノ共同擔保ヲ減少スルノ結果ヲ生セザルトキハ債權者ハ之ニ因リテ自己ノ債權ニ何等ノ實害ヲ被ラサルヲ以テ其法律行為ノ取消ヲ請求シ得サルモノトス(法新五三九號一三頁四十年十一月五日長崎控判)

三十九 民法第四百二十四條ハ法律行為カ有效ニ成立シタル場合ニテ取消スコトヲ得セシムル規定ナレハ法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セサル爲メ取消ノ必要ナキ場合ハ同條ヲ適用スヘキ限ニアラス(四十二年十一月十四日大判)

四十 民法第四百二十四條ニ所謂法律行為トハ賣買又ハ贈與ノ場合ニ於テハ其賣買若クハ贈與行為ヲ指稱シ質權又ハ抵當權ノ場合ニ在テハ其設定行為ヲ指稱スルモノニシテ登記法上ノ行為ハ茲ニ包含セス(同上)

四十一 債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ法律行為ノ取消ヲ求ムル場合ニ於テ其行為ノ取消サレルニ因リ其原因ニ歸スヘキ登記アルトキハ同時ニ其抹消手續ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(同上)

四十二 現ニ貸金ヲ爲シ抵當權設定登記ヲ爲スモ債務者ハ他ニ債務ヲ負擔シ然モ抵當不動産ノ外ニ財産ヲ有セザリシトキハ右抵當權設定行為ハ他ノ債權者ヲ害スルモノト謂フヘク而シテ抵當不動産以外ニ債務者カ財産ヲ有セザルニ拘ラス抵當權設定シタルトキハ他ノ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知悉セシモノト認メラレ其抵當權ハ取消ササルヲ得ス(最近判三卷一三六頁四十二年十一月廿六日長崎控判)

四十三 債權者カ債務者及ヒ受益者ニ對シ詐害行為ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ受益者カ爭ヒタル事實ニ付キ爲シタル債務者ノ自白ニ依リ心證ヲ形成シ以テ其詐害事實ヲ認メ受益者ニ於テモ亦債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルモノト推定シタル判決ハ

不法ナリ(四十一年十二月十一日大判)

四十四 民法第四百二十四條ノ債權者ノ取消權行使ハ債務者ノ爲シタル法律行為ニ對スルモノナラサルヘカラス換言スレハ實體上ノ行為ニ對スルモノナラサルヘカラス從テ單ニ登記ノ如キ形式的行為ニ關スルモノノミヲ取消サントスルカ如キハ固ヨリ不當ナリトス又民法第四百二十四條ノ債權者ハ法文上何等ノ區別ナク唯タニ金錢的給付ノ債權者ノミヲ意味スルモノニ非ストスルモ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ヲ直接ノ目的トスル債權者ニ對シテハ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノト解セサル可ラス然ラサレハ民法百七十七條及ヒ不動産登記法ノ規定ハ全ク其效用ヲ生セサルニ至ルヘシ(法新五八一號一三頁四十二年五月三十一日水戸地下妻支部判)

四十五 民法第四百二十四條ニ依ル詐害行為ノ取消ハ其目的該行為ニ因リテ生シタル債權者ノ損害ヲ救済スルニアリ從テ其行為ノ目的カ分割シ得ルモノナラザルキハ債權者ノ損害ヲ救済スル程度ニ於テ其一部ヲ取消スコトヲ得(四十二年六月八日大判)

四十六 債權者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタルトキハ縱令其結果ノ一部債權者ヲ害スルニ止ルモ單一ナル詐害行為タルコトヲ失ハス(同上)

四十七 民法第四百二十四條ニ於テ債權者ヲシテ債務者ノ詐害行為ヲ取消スコトヲ得セシメタルハ債權者ノ總財產ハ債權者ノ共同擔保ナリトノ理由ニ基キタルコト勿論ナレトモ同條ニ依リ併合セザルヘキ債權ハ獨リ金錢給付ヲ目的トスル場合ニ限ラス

金錢以外ノモノノ給付ヲ目的トスル場合ト雖モ其物カ特定物ナラサル以上ハ債務者ノ資力ハ其權利ノ保全ニ緊接ノ關係ヲ有スルヲ以テ有モ債務者ノ詐害ノ意思ヲ以テ無資力ノ結果ヲ來スヘキ行為ヲ爲シタル以上ハ債權者ハ廢罷訴訟權ヲ行使シ其行為ノ取消ヲ求メ得ヘキモノトス(法新六〇六號一二頁四十二年七月七日東京控判)

四十八 債權者ノ取消請求權ハ債權效力ノ一ニ外ナラサレハ債權讓受人ハ其債權ヲ取得スルト同時ニ右取消請求權ヲ承繼ス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス

第四百二十六條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタルトキヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

一 債權讓渡人ニ於テ讓渡前詐害行為ノ事實アリタル事ヲ知レリト認ムヘキ事實アラサルトキハ債權讓受人ハ債權讓受ノ當時ニ於テ始メテ詐害行為ノ事實ヲ知リタルモノト云フヘク從テ讓受

債權效力 雜部

一 債務關係ハ債權者及ヒ債務者間ノ關係ニ過キサルヲ以テ我民法上ニ於ケル債權ノ效力ハ第三者ニ及フコトナキヲ以テ原則ト爲シ只例外トシテ民法第四百二十三條ニ於テ所謂代位ノ訴權及ヒ民法第四百二十四條ニ於テ所謂廢罷訴訟權ノ二種ノ權利ヲ認メ

債權ノ效力トシテ第三者ニ及フコトアルヲ認メタルモノトス故ニ此以外ニ於テハ債權ノ效力ハ第三者ニ及フコトナキモノトス(法新三六九號一〇頁三十九年一月二十六日名古屋地判)

二 債權者ハ特約ナキ限りハ擔保物ノ有無ニ拘ラス債務者ノ總テ

(最近判五卷一六五頁四十二年九月八日宮城控判)

四十九 亡父カ生前或者ニ財產ノ一部ヲ分與セントスル意思アリシヲ以テ其相續人カ亡父ノ遺志ヲ實行シテ其者ニ財產ヲ分與シタルトスルモ此亡父ノ遺志實行ハ相續人ノ義務ニ非ス然レニ其義務ニ非サル贈與ヲ實行シテ財產ヲ減少シ之カ爲メ自己ノ義務タル負債ノ償却ヲ爲スコト能ハサルニ至ラシメタル行為アル場合ニ於テハ債權者ヲ詐害シタルモノト認メラレハシ(法新六二〇號一四頁大分地豆田支部判)

ノ財産ニ付キ辨濟ヲ求ムルコトヲ得故ニ或ル特別ノ場合ヲ除ク外債權者カ先ツ擔保物ニ付辨濟ヲ受クヘキカ將タ直ニ債務者ノ他ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキカ全ク其自由ナリトス(法新一〇號九頁三十五年十月十四日東地判)

三 總テ債務者カ債務ノ不履行ニ因リテ損害賠償ノ責任スルニハ其債務ヲ履行セサルニ付キ故意又ハ過失ノ存在スルコトヲ必要トス(法新四四〇號三頁東地判)

四 當事者カ債權ノ擔保トシテ物件ノ質入ヲ爲スヘキコトヲ契約スル場合ニ當事者ハ其契約ニ因リ單ニ後日質權設定契約ヲ締結スヘキ債權ノミテ生ゼシムルコトヲ目的ト爲スコトアリ或ハ右ノ債權ヲ生ゼシムルト共ニ當事者ノ一方カ債權者ニ物ノ交付ヲ爲スコトキハ更ニ質權設定ノ意思表示ヲ要セスシテ直ニ質權ヲ成立セシムヘキ停止條件附質權設定契約ヲ締結スルコトアルヘシ此後ノ場合ニ於テハ質權者ハ相手方ニ對シ單ニ物ノ交付ノミヲ要求シ得ルモノトス(法新五一三號一二頁四十二年七月十日長崎控判)

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

一 民法第四百二十七條ノ規定ハ數人ノ主タル債務者ノ者メニ保

證ヲ爲シタル者カ債務ノ履行ヲ爲シタルニ因リ主タル債務者ニ

對シテ求償權ヲ行フ場合ニモ亦適用セラレヘキモノトス(三十七年一月十六日大判)

二 數人ノ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナケルハ各債權者ハ平等ノ割合ヲ於テ其債務ヲ負擔シタルモノト推定スヘキ法則ハ裁判所カ數人ノ債務者ニ對シ或ル金額ノ支拂ヲ命シタル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス(三十八年十月五日大判)

場合ハ格別ナレトモ假令其内ノ或者カ全部ヲ使用セシトテ其負擔部分ハ各自平等ニテ負擔スヘキナリ(最近判一卷一二頁名古屋控判卅九年十二月十一日判決)

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

一 民法施行前ニアリテモ債務ノ目的不可分ナル以上ハ其各債權者ハ債務者ニ對シ債務全部ノ請求ヲ爲シ得タルモノトス(三十年十卷六五頁大判)

シテ其代價ヲ定ムルモ其目的物ハ元來可分ナルカ故ニ之ヲ以テ直ニ不可分ノ合意ナリト云フコトヲ得ス(三十四年二月八日大判)

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但其一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百二十四條乃至四百十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 不可分債務カ可分債務ニ變シタル時ハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責ニ任ス

不可分債務 雜部

一 貸借上債權者二名宛ニテ抵當附借金證書ヲ交付スヘキ旨ノ契約ヲ取結ヒタル場合ニ於テハ民法典不可分ノ原則ニ從ヒ二名ノ債權者中其一名ヨリ債務者ニ對シテ二名宛ノ抵當附借金證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得(三十五年十月三十一日大判)

二 擔保權ハ不可分ノ原則ニ依ルヘキモノナルカ故ニ借用金ノ爲メニ地所ノ抵當權登記ヲ爲スヘキ義務ノ如キモ亦不可分ノ原則ニ從ハサルヘカラス(三十五年十月三十一日大判)

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

一 金圓借用證ニ單ニ連借人トノミ記載シタル場合ニ於テハ右記載ハ連帶債務ノ成立ヲ證スルニ足ラス(法新三七號二頁東地判)

二 連帶債務ハ平等分擔ノ常態ニ反スル變態ニシテ變態ノ義務ハ法律ノ規定又ハ當事者ノ特約ニ因ラサレハ發生セサルモノトス(法新一〇號九頁三十五年九月二十三日東地判)

三 萬一期日違約ノトキハ保證人ハ本人ニ代リ辨濟可仕候トノ特約ハ連帶債務アルモノト認メ難シ保證人本來ノ義務ハ即チ本人ニ代リ辨濟ヲ爲スヘキモノナレハナリ(法新一一六號二四頁)
四 主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル保證人ハ債權者ニ對スル連帶關係ニ於テハ全然主タル債務者ト同一ノ地位ニ立ツモノトス(三十七年二月大判)
五 契約證書中ニ「拙者保證人ト相成タルニ付テハ本人不在ハ勿論保證人何様ノ事故之アリ候トモ保證人一名ニテモ必ラス期

日ニ返濟致可候ト記載アル文意ヲ解スルハ事實承審官ノ認定ニ關スルモ保證人カ主タル債務者ト連帶債務ヲ負ヒタルモノト解スルヲ相當トス(法新二九四號一九頁三十八年東地判)
六 民法施行前ニ成立シタル金錢ノ貸借ニシテ二人以上ノ債務者アル場合ニ於テ各債務者カ貸證書ニ連印シ然モ特ニ分借ノ旨趣ヲ表示セサリシトキハ連帶債務ヲ負擔シタルモノト推定セサル可ラス(四十年十月二十一日大判)

第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無效又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

一 民法施行前ニアリテモ債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ其債務者カ債權者ノ承諾ヲ得テ延期證ヲ差入レタルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ亦出訴期限ノ進行

ヲ中断スルモノトス(四十年十一月十一日大判)(同主旨三十二年十一卷一頁)

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタル時ハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ

相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

一 債權者カ連帶債務者中ノ一人ニ對シテ負擔ヲ許シ其餘ノ債務ヲ免除シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生スヘキモ之カ爲メ他ノ債務者カ債務ノ總額ヲ平分シテ一部宛負擔スヘキ條理ナシ(三十一年十卷三八頁大判)

二 民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務ニ付キ各債務者ノ利益ヲ受ケタル割合ニ應ジ又ハ債務者間ノ合意ニ依リテ定マルヘキモノトス(三十七年二月一日大判)

三 民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分債務者間ノ合意又ハ各債務者カ其債務ニ付キ實際利益ヲ受ケタル割合等債務者ノ間ニ存スル事實ニ依リテ定マルモノトス(四十二年九月廿七日大判)

四 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ免除ヲ爲スニ當リ其債務者ノ負擔部分ノ割合ヲ知ラサルモ之カ爲メ他ノ債務者ニ及ホスヘキ免除ノ效力ニ何等ノ消長ヲ來スヘキモノニ非ス(同上)

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者一人ノ爲メニ時効カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ求債權ヲ有ス

前項ノ求債ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

一 主タル債務ニ付キ連帶ノ義務アル者ハ之ニ附隨スル債務ニ付テモ亦連帶ノ義務アリ從テ連帶債務者ハ訴訟費用ニ付キ連帶ノ義務ヲ負フモノトス(三十八年五月十一日大判)(同主旨三十六年二月十二日)

二 二人ニテ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ孰レモ其負擔ニヨリテ利益スル所ナキトキハ辨濟ヲ爲シタル債務者ハ他ノ一人ニ

對シテ半額ヲ求償シ得ルモノトス(三十九年七月五日大判)

三 連帶債務者ノ一人カ他ノ連帶債務者ニ對シ償還ヲ求ムル辨濟金ノ利率ハ連帶債務者ト其債權者トノ間ニ於ケル特定利率ニヨルヘキモノニアラスシテ法定利率ニ依ルヘキモノトス(四十年六月二十九日大判)

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ行ヘキ事由ヲ有セントキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債

務者ハ自己ノ辨濟其他免責ノ行爲ヲ有效ナリシモノト看做スコトヲ得

一 民法第四百四十三條ハ數人カ債權者ニ對シテ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ一人ハ債權者ニ對シテ債務ヲ負擔シ他ハ之ニ對シテ債務ヲ負擔セサル場合ニ適用スヘキモノニ非ス(三十五年四月十七日大判)

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求

債者及他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求債者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

一 各連帶債務者ノ負擔部分ハ債務ニ付キ各債務者ノ受ケタル利益ノ割合ニ應シ或ハ債務者間ノ合意ニ依テ定マルヘキモノトス(三十七年二月大判)

二 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタル場合ニハ其内部關係ニ於テ全然同一ノ地位ニ在ル他ノ債務者ハ無資力者ノ不償還部分ニ付キ分擔ノ責ニ任セサルヘカラス而シテ其間別ニ意思表示ナケレハ雙方平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリ(三十九年五月二十二日大判)

三 連帶債務者ノ一人カ辨濟シテ共同債務者ニ免責ヲ得セシメタ

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其ノ無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

一 民法第四百四十五條ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ト無資力ト爲リタル者トノ外尙債務ヲ辨濟シテ求償權ヲ有スル者若クハ未タ之ヲ辨濟セザルモ其資力アルモノト少クモ三名以上ノ連帶債務者

アリタル場合ニ非レハ之ヲ適用スルコトヲ得ス(三十七年二月二日大判)

第四款 保證債務

第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

一 主タル債務者カ辨濟期日ニ其債務ヲ履行セサルニ於テハ其資力ノ有無ニ拘ラス保證人ヨリ直ニ辨濟スヘシトノ保證契約ハ有效ナリトス(三十一年十一月五七日大判)

二 保證債務ハ其性質從タル債務ナレハ主タル債務ト離レテ出訴期限又ハ時効ニ據ルモノニ非ス而シテ此法理ハ民法施行前ニ於テモ亦認メラレタリ(法新九〇號八頁三十五年五月十二日東控判)

三 保證債務ハ從タル債務ナルヲ以テ其履行ハ主タル債務ノ履行期前ニ到來スルモノニ非ス然レトモ保證債務ノ履行期到來シタルヲ以テ主タル債務ノ履行期到來シタリト推斷スルヲ得ス(法新九九號六頁三十五年七月五日東控判)

四 元來保證人ハ主債務者カ債務ヲ履行セサル場合ニ始メテ辨濟ヲ爲ス責ニ任ス隨テ辨濟期日到來シタルハトテ主債務者ノ如ク直ニ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル責アルモノニ非ス(三十五年十月二日大判)

五 金穀以外ノ物ノ消費貸借ニ於ケル普通ノ保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲スノ責ニ任スヘ

キハ民法施行前ニ於テモ法理トシテ認ムヘキモノナリ
六 買賣契約ノ履行ニ關スル債務ト該契約解除後代金ヲ返還スヘキ債務トハ其發生原因ヲ害シ全ク別個ノモノナレハ買賣契約ノ保證ヲ爲シタル者ハ右代金返還ノ債務ニ付テモ亦當然保證シタルモノトモ云フヘカラス(三十六年四月二十三日大判)
七 賣買ニ付キ賣主ノ保證人トナリタルモノハ買主ニ對シ賣主ヲシテ目的物ヲ引渡シタルノ義務ヲ負フモノナレハ賣主カ契約ノ履行ヲ爲ササル爲メ買主ヨリ保證義務ノ履行ヲ請求セラレタ場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ買主ニ對シテハ常ニ其權利ヲ尊重スル義務ヲ負フヘキモノトス(三十六年七月六日大判)
八 主債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ債務消滅ノ事由ニ非ルハ勿論新債務ヲ創設スルモノニ非サルカ故ニ假令保證人カ自ラ之ニ關與セザリシニモ辨濟期限延長ノ效力ハ當然保證債務ニモ及フヘキコトハ民法施行前後ニ通スル法理ナリトス(法新二五八號七頁三十八年大聯合判)

九 保證債務ハ保證契約ト同時ニ其效力ヲ生スルモノニシテ主タル債務者カ不履行ノ責ヲ負フヘキトキニ始メテ成立スルモノニ

非ス(三十九年五月三日大判)

十 保證契約ハ主タル契約ノ履行ヲ確保スル爲メノ從タル契約ニシテ主タル契約ト運命ヲ同フスル性質ノモノナレハ主タル契約カ解除セラレル場合ニハ保證契約モ解除セラレヘキハ理ノ當然ナルヘシテ保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔スルモ尙主タル債務者ナル點ニ於テ差異アルコトナシ(四十年七月二日大判)

十一 市ハ市會ノ決議ニ依テ書記又ハ其他ノ附屬員ニ租稅滯納處分ニ與ラシムルコトヲ得ルカ故ニ身元保證ヲ爲サレタル書記カ之等ノ事務ヲ取扱ヒ市ニ損失ヲ被ラシメタルトキハ身元保證人ハ其責任ヲ盡ササルヘカラス如此事務ヲ取扱ハシメタルハ市ノ越權ニシテ身元保證人ニ責任ヲシトスルヲ得ス(最近判二卷五三頁四十一一年一月廿七日東控判)

十二 主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔セル保證人ト雖モ一ノ保證人タルヲ失ハサルカ故ニ之ヲ連帶債務者ト同視スヘキニ非ス而シテ債權者カ主タル債務者ニ對シ履行期間中任意ニ契約ヲ解除スルニ於テハ該債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル保證人ノ債務ト雖モ亦當然消滅スルモノトス(四十一年二月二十八日大判)

十三 債務者カ債務ヲ辨濟セサルトキハ其辨濟期限ヨリ向フ六ヶ月ニ擔保物件ヲ提供シテ代償ヲ求メラルトキハ保證人ニ於テ元利金ヲ辨濟スヘシトノ契約ハ終期附ノ一種ノ保證債務ニシテ其義務ハ辨濟期後六ヶ月ヲ經過スルト同時ニ當然消滅ス而シテ

其債務ハ右保證人カ承諾ノ上辨濟ノ延期ヲ爲シタルトキト雖モ延期ノ期限到來後六ヶ月ヲ經過スルトキハ又保證ノ效力ヲ失フ(最近判四卷五四頁四十二年一月二十二日東控判)

十四 身元保證ニ付テハ法文上特ニ規定シタル所ナシト雖モ其性質上ヨリ見ルトキハ民法上ノ保證債務ノ一ナルコト明ナリ而シテ此債務ハ保證契約ト同時ニ其效力ヲ生スルモノニシテ決シテ現實ノ義務ノ發生ヲ俟テ始メテ成立スルモノニ非サルノミナラス所謂財產權上ノ債務ニ屬スルヲ以テ相續人ニ於テ承繼サルヘキモノトス(法新五七九號一九頁福岡地判)

第四百四十七條 ノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノミ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

- 一 民法上保證人ノ義務ニ關シテハ其第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ノ外之カ範圍ヲ定メタル法條ナキヲ以テ保證人ハ保證ノ目的ヲサリシ債務並ニ之ニ從屬スル債務ニ付テ履行ノ責任スヘキモノニ非ス(三十六年四月二十三日大判)
- 二 債務不履行ニ因ル遲延利息及訴訟費用ノ如キハ主タル債務ニ附隨スルモノニシテ特別ノ事情ナクハ債權者ニ於テ之レヲ負擔スヘキハ當然ナリ從テ主タル債務者カ辨濟ヲ爲ササル場合ニハ債權者ハ保證人ニ對シテ之カ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス(三十九年六月二日大判)(同主旨三十八年七月十日)
- 三 甲者カ乙者ヲ欺罔シテ債權取立ノ委任ヲ爲サシメ債務者ヨリ取立テタル金銭ヲ費消シタルトキハ乙者ハ民法第六百四十七條ニ依リ其引渡ノ請求ノ外尙利息及ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有スレトモ甲者ノ取立テタル金額ヲ損害賠償トシテ請求スル權利ナシ(三十九年三月十六日大判)
- 四 主債務者カ買賣契約ヲ履行セサル場合ニ債權者ニ於テ解除權ヲ行使シ主債務者ニ對シ原狀回復及ヒ損害賠償ヲ求メタルモ辨濟ノ實力ナキニ依リ保證人ニ對シ其辨濟ヲ請求シタル後更ニ訴訟ヲ提起シ單純ナル損害賠償ヲ求メ保證人ヲシテ其債務ヲ履行セシメントスルハ違法ニ非ス(三十九年十月二十二日大判)
- 五 契約ニ因ル保證債務ニハ契約ノ解除ニ因リテ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ其給付シタル物ノ返還ヲ請求スル場合ノ保證ヲ包含セス(四十一年六月四日大判)
- 六 保證契約ノ當事者カ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ義務ヲモ包含セシメテ保證ヲ約スルハ違法ニ非ス(四十二年五月十九日大判)
- 七 債權者カ主タル債務者ノ物品引取ヲ怠リタルヨリ生シタル損害ヲ保證人ニ要求スルニ付キ先ツ保證人ニ對シテ右物品ノ引取ヲ求メタルコトヲ要件トスルモノニ非ス
- 八 契約カ解除サレ主タル債務者カ消滅シタル場合ニ於テモ其解除ノ原因カ債務者ノ事由ノ爲メナルトキニ於テハ已存ノ損害原因ノ爲メニ生シタル損害ニ付テハ債權者カ要償權ヲ拋棄シタルコトノ見ルヘキモノナキ限リ債務者及ヒ其保證人ハ其賠償ノ義務アルモノトス(法新六四一號一五頁四十二年四月六日神戸地判)
- 九 主タル債務者ノ不履行ニ因リ相手方ニ損害ヲ生セシメタルトキハ主債務者ハ既ニ契約ノ解除アリタルト否トニ論ナク其損害ヲ

時ニ之ヲ擔保シタルモノトス(同上)

賠償スル責ニ任セサルヘカラス從テ主タル債務ヲ擔保セル保證債務モ亦特別ノ事情ナキ限りハ其損害賠償ノ責任ヲ包含スルモノトス(四十三年四月十五日大判)

十 訴訟費用ハ主タル債務ニ附從スルモノナルヲ以テ保證人ハ別ニ之ヲ支拂フヘキ約束ヲ爲ササルモ主タル債務ヲ保證スルト同

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第四百五十條 債務者カ保證ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

- 一 能力者タルコト
 - 二 辨濟ノ資力ヲ有スルコト
 - 三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト
- 保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ

以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百五十一條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此ノ限ニアラス

一 保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セント欲セハ其住所ヲ立證スルヲ以テ足ルモノニ非ス必ラ

スヤ其所在ヲ證明スルヲ要ス(三十三年八卷三十四頁大判)

二 保證人ハ民法第四百五十二條ニ於ケル催告ノ請求ヲ爲サスシテ直ニ同法第四百五十三條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シ得ルモノトス(三十六年十一月七日大判)

三 保證人ニ於テ第四百五十二條ノ抗辯權ヲ拋棄シタルトキハ債權者ハ主債務者ニ催告ヲ爲サスシテ直ニ保證債務ノ履行ヲ請求シ得ルモノトス(三十七年九月二十二日大判)

四 民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘ

キ特約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ(三十八年七月八日大判)

五 催告ノ抗辯ト檢索ノ抗辯トハ全ク相異ル抗辯ナリ故ニ保證人ハ催告ノ抗辯ヲ拋棄シテ檢索ノ抗辯ノミヲ留保スルコトヲ得又催告ノ抗辯ヲ留保シテ檢索ノ抗辯ヲ拋棄スルコトヲ得兩者互ニ相離ルルコトヲ得サルモノニアラス(最近判一卷一五五頁四十年十月十二日東控判)

六 消費貸借證書ニ若シ其期限ニ至リ本人遲滞候節ハ屹度辨濟仕リ云々ト記載ヲ爲スカ如キハ消費貸借ニ對シ普通ノ保證債務ヲ負擔セル場合ニ一般ニ用ヒラルル文例ナリ從テ右ノ記載ハ保證人カ民法第四百五十二條第四百五十三條ノ所謂催告檢索及ヒ分別ノ利益ヲ拋棄スルノ特約ヲ爲シタルモノト解スルハ誤リナリ(法新五〇七號二一頁四一年五月九日東控判)

七 「來ル月日迄本人返済出來兼候節ハ拙者ニ於テ元利共返済可仕候」トアル保證契約ハ通常ノ保證債務負擔ニアラスシテ保證人ニ於テ直ニ主タル債務者ニ代リ辨濟スヘキ特約ナリト認ム(最近判三卷二頁四十一一年七月六日長崎控判)

八 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方知レサルトキノ

外保證人ハ債權者ニ對シ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ヘキコトハ民法第四百五十二條ノ定ムル所ナリ(法新六〇六號一〇頁東地判)

第四百五十三條

債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

一 保證人カ債權者ニ對シ所謂檢索ノ利益ヲ對抗シ得ルハ債權者カ保證人ノ財産ニ付キ執行ヲ爲ス場合ニ限ルモノトス故ニ債權者カ保證人ニ對シ單ニ債務ノ履行ヲ請求スルハ不當ナルヲ免レ

判)

(法新二三號一一頁三十四年二月六日東地判)

二 民法第四百五十三條ハ債權者カ保證人ノ請求ニ因リ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ尙保證人カ其證明ヲ爲シタルト

四 債權者ハ債務ノ一部辨濟ヲ受ケサルヘカラサルモノニ非ス從テ民法第四百五十三條ノ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリト云ヘルハ債務全部ヲ辨濟スヘキ資力アルノ意ナリトス(三十九年十月十五日大判)

キハ債權者ハ必ラス先主タル債務者ニ對シ執行ヲ爲ササルヘカラサルコトヲ規定シタルモノニシテ保證人ハ催告ヲ爲シタル後ト非ンハ其證明ヲ爲ストノ意義ニ非ス(三十六年十一月七日大判)

五 民法第四百五十三條ニ規定スル保證人ノ抗辯ハ債權者ノ請求ニ對スル本案ノ抗辯ニシテ民事訴訟法第二百六條第七號ノ延期ノ抗辯ニ非ス又其他ノ妨訴抗辯ニモ非ンハ保證人ハ第二審ニ於テ始メテ之ヲ提出スルモ違法ニ非ス(四十年二月二十三日大判)

三 民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ヲ定メタルニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘキ特約ヲ爲スコトヲ得ヘシ(三十八年七月八日大判)

六 保證債務ノ履行請求ヲ受ケタル者カ其債務ハ辨濟金額ヲ供託シテ既ニ消滅シタルトノ抗辯ヲ採テ保證人ハ檢索ノ利益ヲ主張シタルト判決スルハ不當ナリ檢索ノ利益ハ之ヲ主張セサルハ拋

棄シタルト見ルヘキモノナレハ此抗辯ナキニ之ヲ採用スルヲ得ス(最近判一卷一四三頁四十年十月一日東地判)

新五二八號一四頁四十一一年四月十七日長崎控判)

七 債務者カ債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ル資力ヲ有セサルモ其一部ヲ辨濟スル資力ヲ有スル場合ニ債權者ハ一部ノ辨濟ヲ得ルカ爲メ債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ強要セザルモノトス(法

八 民法第四百五十三條ニ所謂債務辨濟ノ資力アリトハ主タル債務者カ其債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ルヘキ資産ヲ有スルノ義ナリ(四十二年一月廿一日大判)

九 同上(四十二年六月廿九日大判)

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラズ債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直チニ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

一 抵當アル債務ノ保證ハ抵當ト其成立ヲ異ニシ抵當權ト共ニ消滅スヘキモノニ非ス唯タ抵當權ノ消滅カ債權者ノ懈怠ニ依ルトキハ保證人ハ債權者カ其消滅ノ爲メ辨濟ヲ受ケ能ハサルニ至リ

タル限度ニ於テ其責ヲ免ルモノトス(三十七年十二月十二日大判)

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條 主たる債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十九條 保證人カ主たる債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主たる債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主たる債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

一 主たる債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲シタル保證人カ主たる債務者ニ對シテ求償ヲ爲シ得ル利息ハ辨濟ノ日以後ノ法定利息ナリ

(法記一八卷四號二七頁四十二年二月二十二日決議)

第四百六十條 保證人カ主たる債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主たる債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

- 一 主たる債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキ
- 二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主たる債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス
- 三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主たる債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主たる債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主たる債務者ハ供託ヲ爲シ擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百六十二條 主たる債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主たる債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主たる債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主たる債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主たる債務者カ現ニ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主たる債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス
保證人カ主たる債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主たる債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルモノハ他ノ債務者ニ對

シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨

濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四

百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シ

タルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

一 或ル債務ニ付キ保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ擔保ニ供シタル者トカ併存スル場合ニ於テ保證人カ主タル債務者ニ代リテ債務ヲ辨濟シタルカ爲メ共同保證人ニ對シ債權者ニ代位シテ權利ヲ行ハントスルニハ其頭數ニ應スルコトヲ要スルモ(五〇一

條)債權者ニ代位セス保證人固有ノ求償權ヲ行フニ當リテハ單ニ共同保證人トノ關係ニ基キ求償ノ範圍ヲ定ムヘキモノニシテ物上擔保共與者ノ存否ニ關スルモノニアラス(法新六三七號一六頁四十二年二月廿一日宮城控判)

保證債務 雜部

一 主タル債務者ト債權者カ保證人ノ承諾ナクシテ貸借證書ノ成立月日及ビ年賦期限ヲ改訂スルモ義務ノ更改ヲ爲ササル場合ニ

於テハ必ラスシモ債權者カ其保證契約上ノ權利ヲ拋棄シ若クハ喪失シタルモノト看做スヘキモノニ非ス(三十二年九卷三六頁大判)

二 雇傭契約ニ於テ「本人萬一不其ノ心ヲ生シ損耗等相生シ候テハ不成相放爲ト其人物御見定メノ上ナラテハ大切ノ品御預ケ被成間敷事」トノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ引受人ハ被雇人カ金

圓ヲ持逃スルモ金圓其他貴重品ノ取扱ニ關シテハ凡テ雇主カ被雇人ニ對スル信用ニ一任シタルコト明白ナルヲ以テ其金圓取扱ノ結果ニ付キ責任ヲ負フヘキモノニ非ス(法新三號七頁東控判)

三 雇傭契約ニ於テ「本人持逃等致候節ハ搜索方ハ雇主ニ不拘總テ引受人ニ於テ取計ラヒ萬事引受ケ御迷惑且損害相掛ケ申間敷候」トノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ持逃等ヲ爲スモ引受人ハ其搜索方ナラシメ雇主ニ對シ迷惑ヲ被損害ヲ被掛ケスト云フニ止

リ而シテ其損害トハ搜索ニ付キ生スヘキ損害ト認ムヘキヲ以テ引受人ニ於テ被雇人カ持逃シタル金員ニ付テハ其損害ヲ賠償スヘキモノニ非ス(法新三號七頁東控判)

四 買賣契約ノ保證ハ民法上保證債務ノ當事者ナルヲ以テ保證人ノ一般ノ相續人ニ至テモ尙其當事者ニシテ第三者ト云フヲ得ス(三十三年五卷七一頁大判)

五 保證債務ハ主タル債務ヲ須テ存立シ之ト共ニ消滅スヘキモノナルモ主タル債務ト同一ナルニ非ルヲ以テ保證人カ其債務ノ存立ヲ認メタル行爲ハ當然主タル債務者ニ其效力ヲ及ボスモノト云フヘカラス(三十四年六月二十七日大判)

六 民法上ノ保證債務ハ主タル債務ニシテ存在スル以上ハ其債務カ手形ヨリ生セシモノナルト否トニ拘ラス有效ニ成立シ得ルモノトス(三十六年三月十九日大判)

七 身元保證ハ民法上ノ保證ノ一ナリ(法新二一五號二一頁三十七年五月二十八日東地判)

八 保證契約ハ必ラスシモ締約當時ニ於テ債務ノ存在スルコトヲ要セス未來ノ債務ト雖モ之ヲ保證シ得ルハ勿論ニシテ此場合ニアリテハ後日主タル債務成立スルハ保證債務モ亦其效力ヲ發生スルモノトス(三十七年六月七日大判)(同主旨三十五年十二月二十三日)

九 當事者カ保證契約ヲ締結スルニ至リタル緣由ニ錯誤ヲ生シタル場合ト雖モ特ニ其緣由ノ實在ヲ以テ契約ノ要件ト爲ササル以上ハ法律行爲ノ無効ヲ惹起スヘキニ非ス(三十八年十二月十九

日大判)

十 權利義務ニ關スル證書ニ證人トシテ加名セル場合ニ其證人ノ意義ニ付キ他ニ何等ノ見ルヘキ點ナキトキハ普通保證人ノ意義ト解スヘキモノトス(法新三五三號一〇頁三十九年四月三十日長崎控判)

十一 保證債務關係カ一旦有效ニ成立シタル以上ハ假令後日ニ至リ主タル債務者カ保證人ノ承諾ヲ得シテ該證書ノ日附期限及ビ利率ヲ變更スルモ以テ保證債務ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス(法新三六一號九頁三十九年六月六日東地判)

十二 主タル債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ消滅セシムル事由ニ非ス又別ニ新債務ヲ創設スルモノニモ非サレバ假令保證ニ於テ自ラ之ニ關與セサルモ其效力ノ當然保證債務ニ及フヘキコトハ民法施行前後ニ通スル法理ナリトス(四十年六月十八日大判同主旨三十七年一五九一頁)

十三 保證契約後債務ノ辨濟期ニ付キ債權者カ保證人ノ承諾ナク主タル債務者ニ許與シタル期限ハ保證人ニ對抗スルヲ得ス(三十四年五卷一四六頁)

十四 保證人カ主債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ト雖モ主タル契約ニシテ解除セラルル以上ハ保證契約モ亦當然解除ニ歸スヘキモノトス(四十年七月二日大判)

十五 將來發生スヘキ債務ニ付キ保證債務ヲ負擔スルノ意思表示ヲ爲シ得ルコトハ當然ニシテ此場合ニ於テハ其基本債務ノ發生ト同時ニ保證債務モ亦其效力ヲ發生スヘキモノトス而シテ主タ

ル債務ノ履行ヲ確保スル爲メ物上擔保及ヒ對人擔保ノ併存スル
場合ニ於テモ債權者ハ特約ナキ限り其選擇ニ從ヒ直ニ保證人ニ

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

第四節 債權ノ讓渡

第四百六十六條

債權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意

ノ第三者ニ對抗スルヲ得ス

一 諸頁報酬金ノ如キ後日金額ニ増減ヲ生スヘキモノト雖モ之ヲ

讓渡シ得ヘキハ勿論之ヲ差押且ツ之ヲ轉付スルコトヲ得ルモノ

トス(法新一九號九頁東地判)

二 衆議院議員ノ歳費ナルモノハ公法上ノ債權ニ屬シ性質上民法

ノ規定ニ從ヒ讓渡スルコトヲ得サルモノトス(法新四六號一〇

頁三十四年六月十九日東地判)

三 買戻權ハ一ノ財產權ニシテ其性質一身ニ專屬スルモノニ非ス

又之ヲ第三者ニ讓渡スルモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ違反スル

モノニ非サルヲ以テ其讓渡ハ有效ナリトス(三十四年九月十四

日大判)

四 帝國議會ノ議員ノ受ケル歳費ヲ請求スルノ權利ハ議員タル地

位ニ伴ヒ法律上存スル所ナリ故ニ其權利タルヤ公權ニシテ私權

ニ非スサレバ假令帝國議會ノ議員力之ヲ他人ニ讓渡スルノ契約

ヲ爲スモ其契約ノ毫モ私法上ノ效力ヲ生セサルヲ以テ其契約ノ

相手方ハ國庫ニ對シ歳費ヲ請求スルノ債權ヲ取得スルモノニ非

ス(三十八年二月二十八日大判)

九 民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買

爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及契約ノ費用ヲ返還スルニ

於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノ

ニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレバ債權讓渡ノ規定ニ從

ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ(三十八年三月十日大判)

十 會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニアルモノノ支拂ヲ求

ムル權利ハ一ノ債權ニシテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故

ニ特別ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲ス

ニ妨ケナキモノトス(三十八年四月十五日大判)

十一 債權ノ性質カ讓渡ヲ許スモノナルヤ否ヤハ或ル特別ノ關係

カ債權發生ノ原因タルヤ否ヤ又債權者ノ特別ノ行為ヲ要スル場

合ナルヤ否ヤニ繫ルモノニシテ債權ノ目的カ金錢ノ支拂ナルヤ

否ヤハ毫モ之ニ影響スルコトナシ(三十九年四月十日大判)

十二 株式會社カ其株主ニ對スル株金拂込請求金ハ兩者ノ間ニ於

ケル特別ノ關係ニ基クモノニシテ拂込催告ノ前後ニ拘ラス獨リ

會社ノミ之ヲ保有シ得ヘキモノトス故ニ該請求權ハ讓渡ヲ許サ

サル債權ナリ(三十九年四月十日大判)

十三 債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非レバ株金拂込請求權ノ

性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

對シテ之カ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(法新六二三號三三
頁四十二年十二月八日東地判)

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非レハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルヲコト得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非レハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルヲ得ス

一 債權ノ移付行爲ハ假令形式上瑕疵ナキモ實體上不適法ナル場合ニ利害關係人ヨリ異議ヲ唱フルトキハ法律上何等ノ効チモ生ゼサルモノトス(三十四年五月二十二日大判)

二 民法第四百六十七條ニ所謂債務者トハ主タル債務者ノミヲ指シタルニ非スシテ保證債務者モ亦其債務者中ニ包含スルモノト解釋スルヲ妥當トスルヲ以テ主タル債務者ニ爲シタル通知ノ効力ヲ以テ直ニ保證人ニ對抗シ得ヘキモノニ非ス(法新七六號七頁三十五年一月二十二日大阪控判)

三 工事請負契約ノ讓渡ハ法律上債權ノ讓渡並ニ債務ノ引受ニ相當ス故ニ請負人ヨリ他ノ者ニ其契約ヲ讓渡シタルトキ請負人ノ權利ニシテ債權ノ讓渡ニ當ル部分ニ付テハ確定日附アル證書ニヨリ注文者ノ承諾ヲ證明スルニ非レハ讓受人タル他ノ者ニ於テ之ヲ以テ注文者以外ノ第三者ニ對抗スルヲ得ス(三十五年十一月七日大判)

四 債權ノ讓渡ニ於ケル債務者ノ承諾若クハ通知ナルモノハ權利ノ行使ニ關スル要件ニ外ナラスシテ其成立ニ關スルモノニ非レハ假令起訴ノ當時ニ於テハ未タ債務ノ承諾若クハ通知アラサシ

セシメンニハ其讓渡人若クハ讓受人ヨリ少クモ債務者ニ對シ之カ通知ヲ爲スコトヲ要ス(三十七年一月二十日大判)

九 指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セシメテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ其讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケケル力ヲ讓受人ニ損失ヲ及ボシタルモノトス(三十七年五月三十一日大判)

十 買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第三項ニ所謂第三者ニ該當セス(三十八年三月十日大判)

十一 債權讓渡ノ契約ト要式契約ニ非レハ苟モ當事者間ニ於テ讓渡ニ付キ意思ノ合致アルトキハ完全ニ成立シ直ニ其効力ヲ生スルモノトス(三十八年十月七日大判)

十二 債務者其他ノ第三者ハ假令債權讓渡ノ當事者カ民法第四百六十七條ノ手續ヲ履踐セサルトキト雖モ該當事者ニ對シ讓渡ノ事實ヲ主張シテ其効チ致サシムルコトヲ得(三十八年十月七日大判)

十三 差押後爲シタル債權讓渡ノ通知ハ有效ナリ(法新三一六號二〇頁三十八年東控判)

十四 民法施行前ニ於ケル金穀貸借ノ債權ヲ施行後ニ讓渡サントスルトキハ債務者ニ其旨ヲ通知スルヲ以テ足り必ラスシモ債務者ノ承諾ヲ要スルモノニ非ス(法新三九〇號一七頁大判)

テ訴訟進行中讓渡ノ通知アリトスルモ裁判所ハ其判決當時ノ情態ニ依リ債務者ニ對シ敗訴ヲ謂渡スヘキモノトス(三十六年三月十日大判)

五 指名債權ノ債務者カ一旦債權讓渡ノ通知ヲ受ケ若クハ之ヲ承諾スルトキハ確定日附アル證書ノ有無ニ拘ラス讓受人ト自己トノ間ニ債務關係存立スルヲ以テ他ト同一ノ債權ヲ主張スル者アラハ之ヲ排斥スルノ權利ヲ有ス(三十六年四月十八日大判)

六 民法第四百六十七條第二項ニ所謂「確定日附アル證書ヲ以テスルニ非レハ」云々ト確定日附アル證書ヲ以テ債務者ニ通知スルニ非スシテ債務者ニ於テ受ケタルコトヲ確定日附アル證書ヲ以テ證明スル趣旨ナリ(三十六年三月大判)

七 民法施行前ニ生シタル債權ト雖モ其施行後ニ至リ之ヲ讓リ渡シタル場合ニハ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通スレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗シ得ルモノトス(三十六年四月三十日大判)

八 民法施行以前ト雖モ債權ノ讓渡ヲシテ契約者以外ノ者ニ對抗

十五 債權讓渡ノ通知ニ付テハ別ニ一定ノ形式アルニ非レハ債務者ヲシテ債權讓渡ノ事實ヲ適切ニ認識スルコトヲ得セシムレハ足ル(四十年三月二日大判)

十六 主タル債務者ニ對スル債權讓渡ノ通知ノ効力ハ保證人ニ對シテモ其効力ヲ生ス(四十年四月一日大判)

十七 民法第四百六十七條第二項ハ債權讓渡人ハ確定日附アル證書ヲ以テ債務者カ通知ヲ受ケタル日ヲ證明スルニ非レハ債權讓渡ヲ第三者ニ對抗スルヲ得サル旨趣ニシテ讓受人ト第三者トノ關係ヲ率スルニ止ル規定ナリ(四十年十一月二十六日大判)同主旨三十六年三月一日)

十八 指名債權ノ讓渡ニ付テハ如何ナル場合ト雖モ民法第四百六十七條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲ス方又ハ債務者ノ承諾ナキトキハ第三者ニ對シテ讓渡ノ効力ナキ故ニ抵當權設定登記ヲ以テ擔保セラレタル債權ヲ讓渡シ之ニ對シ權利移轉ノ登記ヲ爲スモ右ノ規定ニ從ヒ其通知又ハ承諾ノ手續ヲ經サリシトキハ債務者ニ對シ債權讓渡ノ効力ヲ生セス(最近判二卷五三頁四一年二月十八日名古屋控判)

十九 民法第四百六十七條第二項ニ依レハ債權讓渡ノ場合ニ讓渡人ヨリ債務者ニ對スル讓渡ノ通知ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ債務者以外ノ第三者ニ對抗シ得サルモノトス(法新四九五號七頁四一年四月二日東控判)

二十 債權讓渡ノ通知ハ相手方ニ到達スルヲ要スル意思表示ナルヲ以テ民訴法ノ送達方法トシテ適當ナル場合ト雖モ之ヲ以テ直

二十 民法上適法ノ意思表示アリタリト爲スヲ得ス從ツテ債權讓渡ノ通知書ヲ村役場ニ預ケ住居ノ戶ニ告知書ヲ貼付シ隣佐ニ其旨ヲ告ケ置キタルニ過キサル場合ハ未タ以テ該意思表示ヲ相手方ノ知り得ヘキ地位ニ置カレタリト爲スヲ得ス（最近判五卷七八頁四十二年六月六日長崎地方民決）

二十一 債權讓渡ノ承諾ナルモノハ債務者カ將來讓受人ニ對スル債務者ナルコトヲ承認スルト同時ニ異議ヲ止メサルトキハ讓渡人ニ對シテ有シタル抗辯權ヲ讓受人ニ對シテ拋棄スルノ效果ヲ生スル單獨行爲ナルヲ以テ其意思表示ハ其利益ヲ受クヘキ讓受人ニ對シテ爲スヘキモノトス（法新五〇八號二頁四十二年六月二十五日長野地松本支部判）

二十二 事實裁判所ハ民法第四百六十七條又ハ第九百八十八條ノ如キ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外證書カ其日付ノ日ニ作成セラレタルトキ自由ナル心證ニ因リテ判斷シ得ルモノトス（四十二年七月八日大判）

二十三 債務者カ證書ニ債權者ヲ指名シ而モ其證書所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル債權ハ指圖債權ニアラス又指名債權ニモアラス一種特別ノ債權ニシテ其讓渡ノ手續モ亦民法第四百六十七條ノ規定ニ依ルヲ要セス單ニ證書ノ交付ニ依リテ有效ニ其讓渡ヲ完成シ且讓受人ハ其證書ヲ所持セル事實ニ依リテ債務者其他ノ第三者ニ讓受テ對抗スルコトヲ得（法新五四九號九頁四十二年十二月十九日大阪控判）

二十四 指名債權讓渡ノ場合ニ於テ之ヲ債務者其他ノ第三者ニ對テモ有效ニ讓渡シタルモノト云フコトヲ得ヘシ（法新六〇五號一四頁四十二年七月九日東控判）

二十九 證書ニ債權者ヲ指名シタルモノ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ於テハ其債權ハ單純ノ指名債權若クハ指圖債權ニアラス又純然タル無記名債權ニモアラスシテ記名式所持人拂ナル特種ノ證券ノ權利ニ屬シ證書ノ交付ノミニヨリテ讓渡ノ效力ヲ生スルモノトス（四七一號參照）（四十二年十一月二十四日大判）

第四百六十八條

債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモノ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止ルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クル迄ニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

- 一 債權ノ讓渡ハ債務者カ之ヲ承諾シタル場合ノ外讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス（三十四年二月二十一日大判）
- 二 債權讓渡ノ通知ヲ受ケタルトキ辨濟期未タ到來セザリシ場合ニ於テハ債務者カ其以前ニ期限ノ利益ヲ拋棄シタル事實アルニ

抗セシムル條件トシテ爲スヘキ通知ハ必ラス讓渡人ヨリセサルヘカラス故ニ讓受人ヨリ直ニ爲シタル通知ハ無効ナリトス（法新五二七號一五頁浦和地判）

二十五 債權讓渡ノ通知ハ必ラスシモ訴訟提起前ニ存スルコトヲ必要トセス判決當時ニ於テ讓渡ノ通知ニ依リ既ニ債務者ニ對スル效力ノ發生シ居ルヲ以テ足ル（法新五五六號一〇頁四十二年二月二十六日東地判）

二十六 債權讓渡ノ通知ハ相手方ニ到達スルヲ要スル意思表示ナルヲ以テ相手方ニ於テ必ラスシモ通知ヲ了知スルコトヲ要セスト雖モ相手方カ了知シ得ヘキ地位ニ置カレ且其了知ヲ推定シ得ヘキ事情存スルコトヲ要ス之ヲ以テ假令民事訴訟法上適法ノ送達アリトスルモ苟モ債務者ヲシテ其意思表示ヲ知り得ヘキ地位ニ置キタルニ非レハ適法ノ讓渡通知アリタルモノト云フヲ得ス（法新五八四號一三頁四十二年六月六日長崎地判）

二十七 債權讓渡人カ民法第四百六十七條ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シタル以上ハ特ニ其保證人ニ通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シテ從タル債權ノ讓渡ヲ請求シ得ヘキモノナリ（法新五八二號一六頁四十二年六月二十九日大判）

二十八 民法第四百六十七條ニ從ヒ讓渡ノ通知ヲ爲スヲ要スルモノハ指名債權ニ限リ無記名債權又ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモノ其證書ノ持參人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル債權ハ右同條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス單純ナル交付ニヨリ債務者ニ對シ

三十 債權ヲ讓渡シタル者ハ別段ハ意思表示ナキ限りニ連ニ讓渡ノ通知ヲ爲スコトヲ要スルモノニテ之ヲ怠リタルトキニ其責任セサルヘカラス（法記一八卷四號二五頁四十二年二月廿二日決議）

三十一 指名債權ノ讓渡ヲ保證人ニ對抗スルニハ債務者ヘノ通知書又ハ債務者ノ承諾書ニ確定日附アルコトヲ要セス（法記一九卷四號三七頁）

三十二 債權者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモノ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止ルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クル迄ニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

- 一 債權ノ讓渡ハ債務者カ之ヲ承諾シタル場合ノ外讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス（三十五年七月三日大判）
- 三 民法第四百六十八條ニ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由トハ讓渡人ノ請求權自體ニ付キ發生シタル異議ノ原因ヲ指スモノニシテ讓渡人ニ對シ債權者有スルコトノ如キハ此ニ屬セス（法新

二五五號四頁三十七年十二月十九日大阪控判)

四 民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由トハ讓渡ニ係ル債權ニ關シ讓渡人ニ對シテ生シタル異議ノ原因ヲ指スモノトス從テ債務者カ讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未ダ相殺ニ適セザルモノノ如キハ之ニ包含セズ (三十八年三月十六日大判)

五 民法第九十四條第二項ノ規定ハ虛偽ノ意思表示カ物權ニ關スルト否トニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス從テ債權ヲ生セシムル意思表示ノ虛偽ナルコトハ同第四百六十八條第二項ノ所謂讓渡ノ通知ヲ受ケル迄ニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由中ニ包含セズ (四十年六月一日大判) (反對主旨三十七年一月二十八日三十八年六月六日)

六 虛偽ノ實質契約ヲ締結シタル後賣主カ其假裝ノ債權ヲ他ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條ニ所謂讓渡ノ通知ヲ受ケル迄ニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ買主ハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得 (三十七年一月二十八日大判)

七 虛偽ノ寄託契約ヲ締結シタル後寄託者カ其假裝ノ債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡ノ通知前讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ寄託者ハ讓受人ノ善意ナルト否トニ拘ラズ此事由ヲ以テ對抗スルコトヲ得 (三十八年六月六日大判)

八 民法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於テ債務者カ讓渡人ニ對得ス (四十一年五月三十日大判)

十三 適法ノ手續ヲ以テ抵當權ヲ讓受ケタリトスルモ其抵當權カ元來根抵當ニシテ既ニ讓受以前ニ於テ取引終了シ債權ノ存在セザリシトキハ讓受人ニ於テ何等ノ權利ヲ取得スヘキモノニ非ス (最近判三卷一頁四十一一年六月廿二日長崎控判)

十四 買戻權ハ一種ノ債權ナルヲ以テ買戻權ノ讓渡ヲ受ケタル者ト買主即チ買戻ノ請求ヲ受ケヘキ義務者トノ權利關係ニ付テハ債權讓渡ニ關スル法則ヲ適用スルヲ以テ買主カ單ニ通知ヲ受ケタルニ止ルトキハ其以前賣買當事者カ買戻特約ニ於テ定メタル約定事項ハ讓受人カ斯ル約定ノ存否ヲ知テ讓受ケタルト否ト又期限其他ノ買戻權消滅ノ約定原因ニ相當スル事實ノ到來カ讓渡ノ以前ニ在リタルト以後ニ在リタルトヲ問ハス買主ハ之ヲ以テ

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非レハ之ヲ債務者ヲ他其第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但シ債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効トス

一 民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタル原因トシテ而モ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス (三十三年七月二六頁大判)

シテ有スル他ノ債權ヲ以テ之ト相殺セントスルニハ債權讓渡ノ通知ノ當時既ニ雙方ノ債務カ相殺ヲ爲スニ適スルモノ即チ孰レモ同種ノ目的ヲ有シ且辨濟期ニ在ルコトヲ要ス (四十年七月八日大判)

九 虛偽ノ意思表示ニ因テ成立セル債權ト雖モ第三者カ善意ニテ其權ヲ讓受ケタル以上ハ最早債務者ハ第三者ニ對シ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得ス此場合ハ民法第四百六十八條ヲ適用セシテ第九十四條ヲ適用セザルヘカラス (最近判二卷二九頁四十四年一月廿八日大阪控判)

十 債權ノ讓渡人カ讓渡ニ關シ債務者ノ承諾ヲ得ス單ニ通知ヲ爲シタルニ止ルトキハ債務者ハ其通知ヲ受ケタル以後ニ於テ讓渡人ニ對抗シ得ヘキ事由アルモノ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルハ民法第四百六十八條第二項ノ規定スル所ナリ從テ債務者カ讓渡人ニ對シテ有スル債權ノ辨濟期以前ニ於テ讓渡ノ通知ヲ受ケタル場合ニアリテハ債務者ハ其債權ヲ以テ讓受人ニ對シ相殺ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (法新四九二號四頁東控判)

十一 債務者ト債權讓渡人トノ間ノ法律關係カ相通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ニシテ其當事者間ニハ無効ナリト雖モ民法第九十四條第二項ニ依リ善意ノ第三者ニ對シテハ之カ無効ヲ主張シ得サル場合ニハ民法第四百六十八條第二項ヲ適用スルコトヲ得ス (法新四九二號八頁四十四年三月廿七日大判)

十二 債務者カ債權讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未ダ相殺ニ適セザリシトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ讓受人ニ對抗シ得ルモノトス (法新五一二號八頁四十四年六月二十五日長崎控判)

十五 相殺ノ抗辯ハ最終ノ辯論期日マテニ之ヲ提出セス判決確定後ニ於テ之ヲ主張スルハ債務ノ本旨ニ從ヒテ履行ヲ爲ス債務ヲ免カレントスルニアリテ確定判決ノ效力ヲ無視スルモノナルヲ以テ之ヲ許サス又斯ル場合ハ民法四六八條第二項ノ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由ニ該當スルモノニアラス (最近判四卷九頁四十四年十月三十日大阪控判)

十六 指名債權ノ讓渡ニ對スル債務者ノ承諾ハ讓渡ニ對シテ讓受ヲ承諾シタリト民法第四百六十八條第一項ノ效力ヲ生ス (法新五三七號一一頁四十四年十一月十一日大田原區判)

二 偽造ノ小切手ニ對シ債務者カ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者ニ故意又ハ重大ナル過失ナカリシトキハ其辨濟ハ有效ナリトス故ニ斯ル場合ニ於ケル被害者ハ債務者ニ非スシテ債權者ニアリトス (法新二二號一一頁大判)

三 小切手ノ支拂人ハ指圖債權ノ債務者ニアラス從テ民法第四百

七十條ヲ適用スヘキニアラサルヲ以テ雇人カ偽造セシ主人名義ノ小切手ニ對シ支拂ヲ爲スコトアルモ支拂人ハ之ヲ以テ主人ニ

對スル責任ヲ免ルルモノニアラス(法新七九號六頁三十五年二月二十五日東地判)

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

一 民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權證書ノ持參人ハ債務者ニ對シ其支拂ヲ請求スル權利ヲ有セサルモ債務者ハ其證書ノ持參

人ニ支拂ヲ爲シテ債權ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス(四十年九月十九日東地判)

第四百七十二條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

一 民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗シ得ヘカリシ事由ハ相殺者クハ債務ノ免除又ハ其辨濟等ノ如ク債務ノ由テ生シタル法律行為ノ有效無效ニ影響セスシテ單ニ其履行ノミニ影響スヘキモノヲ指稱ス(三十九年五月十七日大判)

二 後見人カ親族會ノ同意ヲ得シテ被後見人ニ代リ約束手形ヲ振出シタル事由ハ手形債務ノ原因タル振出行爲ノ有效無效ニ影響ヲ及スヘキモノナルヲ以テ民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗スヘカリシ事由ニ該當ス(三十九年五月十七日大判)

第四百七十三條 前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス

債權ノ讓渡 雜部

一 權利拋棄ノ場合ニハ獨リ權利者ノ權利消滅スルノミナラス義務者ノ義務モ亦絕對的ニ消滅スル結果ヲ生スト雖モ權利讓渡ノ場合ニハ其有償行為ナルト無償行為ナルトヲ問ハズ唯權利者ノ變更アルニ過キスシテ義務ハ消滅スルモノニ非ス(三十二年五月八日大判)

二 債權ノ讓受人ハ讓渡人ノ特別承繼人ノ地位ニ於テ讓渡人ノ享有シタル權利ヲ其儘承繼ス故ニ讓渡人カ有セシ詐害行為取消請求權ノ如キモ其債權ノ讓渡人ト共ニ當然讓受人ニ移轉スルモノトス(三十七年二月二十四日大判)

三 組合カ第三者ニ對シテ有スル權利ヲ組合員中ノ一人ニ讓渡ス

ルノ行為ハ該債權ニ對スル他ノ組合員ノ持分ナキ一人ニ移轉スルモノニシテ債權讓渡ニ外ナラス從テ民法施行前ニアリテ明治九年布告第九十九號ノ手續ヲ踐マサレハ讓渡ノ效力ヲ生セサルモノトス(三十七年九月二十二日大判)

券ハ無記名證券等シテ證券ノ交付ニ因リ其債權ノ讓渡ヲ完成スルモノトス(法新三六三號一頁三十九年五月二十二日大判)

四 債權ノ讓受人カ債務者ヨリ債權全部ヲ辨濟ヲ受ケタル後更ニ其債務者ノ爲メ債務ヲ代辨シタル場合ニ於テ其債權讓渡カ假裝

八 債權及其擔保タル抵當權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ抵當權設定登記カ形式上何等ノ原因ナクシテ既ニ抹消セラレタルトキハ讓渡人ハ移轉登記ノ義務ヲ履行スル爲メ先抹消登記ノ無効ヲ主張シ登記更正ノ手續ヲ爲ササルヘカラス(四十年十一月十一日大判)

ナリシトキハ該讓受人ハ債務者ヨリ受取リタル金圓ヲ返還スヘキ義務アルト同時ニ債務者ニ對シテ立替金ノ辨濟ヲ請求スルノ權利ヲ有シ此ノ義務ト權利トハ互ニ兩立シテ特別ノ事由アルニ非レハ消滅セサルモノトス(三十八年一月二十八日大判)

九 證書ニ債權者ノ氏名アリ而モ「此證書持參人へ御渡シ可申候也」ト記載アル債權中ニハ證書ノ持參人カ權利トシテ請求シ得ヘキ場合ト權利ヲ有セスシテ唯タ債務者カ證書持參人ニ辨濟セハ債務消滅スル場合ノ二種アリ即チ前記ノ場合ハ無記名債權トナリ後記ノ場合ハ指圖債權ト爲ル此區別ヲ立テテ直ニ當然此債權ヲ指圖債權ナリト判決セルハ不法ナリ(最近判一卷一八七頁四十年九月十九日東地判)

五 債務者カ漁業權ヲ以テ債權ノ擔保ト爲シタル場合ニ債權者ニ於テ其債權ノミ他人ニ讓渡シタルトキハ爾來其擔保ハ消滅ニ歸シタルモノナレハ讓渡人ヨリ之ヲ債務者ニ返還セサルヘカラス(三十八年九月二十九日大判)

十 如上ノ場合ニ於テ抵當權ノ目的物ヲ取得シタル第三者カ抵當權ノ現存ヲ否認シ抹消登記ノ更正ヲ承諾セサルトキハ債權讓渡人ハ訴ヲ以テ抹消登記ノ無効及更正ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得(四十年十一月十一日大判)

六 債權證書ハ債權者カ其債權ヲ行使スルニ必要ナル證書ナレハ債權讓渡ノ場合ニ於テ反對ノ意思表示ナキ以上ハ讓渡人ハ讓受人ニ對シ其債權證書ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス(三十八年十月二十四日大判)

七 債權者ヲ指名シタルモ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル證書

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事

者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十六條 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債權者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限り其效力ヲ有ス
一 債權ノ準占有者ニ對スル辨濟者ハ辨濟者ノ無過失ナルコトヲ要セサルヲ以テ其辨濟ノ效力ヲ定ムルニ付キ過失ノ有無ヲ決ス
ルノ要ナシ(三十八年六月七日大判)

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

一 町村長ハ區ノ行政事務ヲ管理スルノ權限ヲ有スト雖モ區ノ出納及ヒ會計ノ事務ニ至テハ自ラ之ヲ處理スルノ權限ナシ故ニ區ニ對スル債務者ヨリ町村長ニ爲シタル金圓ノ交付ハ假令債務辨濟ノ意思ヲ以テスルモ辨濟ノ效力ヲ生セス(三十六年六月六日大判)

大判)

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

一 民法第四百八十條ノ規定ハ真正ノ受取證書持參人ノ場合ニ限り偽造ノ受取證書ノ場合ニハ之ヲ適用セス故ニ銀行ノ通帳ヲ寫取シテ其通帳ノ受取證書ノ部ニ捺シ届ケアル印鑑ト相違スル印ヲ捺捺シタル者ニ對シテ爲シタル辨濟ハ無効ナリ斯ノ如キ場合ハ銀行ハ重ネテ辨濟ヲ爲ス義務アリ(最近判一卷一七五頁四十年十月十八日東控判)

二 民法第四百八十條ハ單ニ受取證書ヲ持參スル者ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做シ辨濟受領ノ委任狀等他ニ其權限ヲ證明スル要ナキコトヲ規定シタルモノニシテ受取書其物ノ正當ニ成立シタルモノナルコトヲ要スルハ當然ニシテ事實偽造ノ受取書ナ

第四百八十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ限り請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十二條 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

一 代物辨濟ノ場合ニ於テ引渡スヘキ物件ノ價格債務額ヨリ多ク

シテ餘金ヲ生スルトスルモ爲メニ代物辨濟ノ性質ヲ變スルコト

ナシ(三十二年五卷三二頁大判)
 二 代物辨濟ニハ必スシモ有體物ヲ以テ辨濟ニ代フルコトヲ要セ
 ス給付ニ代フル給付ヲ以テスレハ可ナリ故ニ債權ノ讓渡モ亦一

ノ給付ニ外ナラザレハ之ヲ代物辨濟ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ
 (最近判三卷九八頁四十二年十月六日東地判)

第四百八十三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物
 ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當
 時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 當事者ニ於テ履行地ノ定メナキ金錢債權ノ履行ハ契約成立當
 時ノ債權者ノ住所地ニ非スシテ債權者現時ノ住所地ナリトス
 (法新二六〇號六頁三十八年二月廿三日東地判)

一三頁四十二年十一月四日東地判)

二 債務ノ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ
 特定物ノ引渡ノ場合ヲ除キ其他ノ辨濟ハ凡テ債權者現時ノ住所
 ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニテ其間債權ノ讓渡アリタル爲メ
 債權者ノ住所ニ移動ヲ來シタルト否トヲ問ハス(法新五三九號

三 民法施行前ノ債權ト雖モ特別ノ契約アル場合ハ格別、不特定
 物ニ付テハ辨濟以前ニハ確定不動ノ辨濟場所ナシ、故ニ債權讓
 受人ハ其住所地ヲ辨濟ノ場所ト爲シ同地ノ裁判所ニ之ヲ出訴ス
 ルヲ得ヘク、債務者ハ之ニ對シ債權讓渡人ニ對シテ生シタル事
 由ナリトシテ管轄違ヒノ抗辯ヲ爲スヲ得ス(最近判四卷四三頁
 四十二年二月十日東地判)

第四百八十五條 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者カ
 住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請

求スルコトヲ得

第四百八十八條 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數箇ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於
 テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其
 辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得
 但辨濟者カ其充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百八十九條 當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當ス

- 一 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス
- 二 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ
 先ニス
- 三 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ
 先ニス

四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス

一 債務者カ數箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタ

ル場合ニ於テ總債務執レモ辨濟期ニ在リ且同一物件ヲ以テ共ニ

擔保ノ目的ト爲シ其何レヲ先ニ辨濟スルヤニ付テ何等ノ利益ヲ有セサルトキハ民法第四百八十九條第三號ニ從ヒ辨濟期ノ先ニ至リタル債務ノ辨濟ニ充當セサルヘカラス(三十七年五月十日大判)

當セサル可ラス(最近判一卷一四四頁四十年東地判)

二 數個ノ債務ヲ負擔スル者カ相殺ノ意思表示ヲ爲シ何レノ債務ト相殺ヲ爲スヤノ意思表示ヲ爲ササルトキハ辨濟期ノ先ニ達シタルモノニ充當スルカ本則ナリ然レトモ之ト異リタル債務ト相殺スル特別ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ表示サレタル債務ニ充

三 債務者同一ノ債權者ニ對シテ單純債務ト連帶債務トヲ負擔シ孰レモ辨濟期ニアル場合ニ於テ當事者ノ辨濟ノ充當ヲ爲サザリシトキハ其辨濟ハ之ヲ單純債務ニ充當スヘキモノトス(四十年十二月十三日大判)

四 充當スヘキ債務ヲ指定シタリトノ立證ナキ場合ニ於テハ其充當方法ハ法律上ノ方法ニ依リ多額ノ債務ヨリ順次小額ノ債務ニ充當スルヲ相當トス(法新五四三號一三頁統監府法務院)

第四百九十條 一箇ノ債務ノ辨濟トシテ數箇ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十一條 債務者カ一箇又ハ數箇ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用、利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

一 民法第四百九十一條ニ所謂利息ハ遲延利息ヲモ包含セルモノトス(三十七年二月二日大判)

二 債務者カ債務ヲ辨濟スルニ當リテハ其利息ヲ生ズルトキハ先

三 利息ヲ辨濟シ然レ後元本ヲ辨濟スルヲ普通トスルヲ以テ元本辨濟ノ事實アル以上ハ利息モ亦辨濟セラレタリト認メラルヘシ(法新五四號一二頁四十二年七月六日東地判)

第四百九十二條 辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生ズヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

延利ヲ支拂フヘキ債務等ヲ免レルモ主タル債務ハ其提供ノミ

依テ之ヲ免ルヘキモノニ非ス(三十八年二月二十五日大判)

二 辨濟ノ提供ナルモノハ唯々其提供アリタル時ヨリ不履行ニ因リテ生ズル一切ノ責任ヲ免ルル效力アルコト止リ債務其モノヲ免脱セシムルモノニアラス(法新五三三號六頁四十二年十月廿九日東地判)

三 辨濟ノ提供ハ單ニ其時ヨリ債務者ヲシテ不履行ニ因リテ生ズヘキ一切ノ責任ヲ免レシムルニ止マリ債務其モノヲ消滅セシムル效果ヲ生ズルモノニ非ス(法新五八七號九頁四十二年六月十四日東地判)

第四百九十三條 辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

一 債務者カ契約ノ本旨ニ從ヒテ辨濟ヲ行フ爲メニ目的物ヲ携ヘ辨濟ノ場所ニ赴キタル債權者ノ行爲ニ因リ辨濟ヲ遂ケ能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ現實ニ辨濟ノ手續ヲ盡シタルモノトス從テ辨濟ノ提供アリタルモノト爲スヘキハ當然ナリ(三十八年三月十一日大判)

二 當事者カ郵便爲替券ノ送附ヲ以テ金員辨濟ノ方法ト爲シタル場合ニハ債務者ニ於テ現實ニ爲替券ヲ債權者ニ交付シ債權者之ヲ受領セル以上ハ債務者ハ正シク辨濟ノ提供ヲ爲シタルモノトス(三十九年三月十三日大判)

四 債務者カ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルニハ債務ノ本旨ニ從ヒタル現實ノ提供又ハ辨濟ノ準備ヲ通知シ受領ヲ催告シ債權者ニ於テ其受領ヲ拒絶シタルコトヲ前提トス故ニ若シ現實ノ提供ナク又ハ辨濟ノ準備ヲ通知シテ受領ノ催告ヲ爲スコトナク直ニ供託スルコトアルモ債務ヲ免ルルコトヲ得ス(法新四九八號六頁四十二年二月廿五日東地判)

三 債權者カ豫メ辨濟ノ受了ヲ拒絶シタル場合ト雖モ辨濟者ハ適法ノ提供ヲ爲シ辨濟ノ受領ヲ拒絶セラレタルトキニ在ラザレハ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ス(四十年五月二十日大判)

五 債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スル場合ニ於テハ現實ノ提供ヲ爲ササルモ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シ其受領ノ催告ヲ爲シタル以上ハ辨濟ノ提供ノ效力ヲ生ジ債務不履行ノ責任ヲ免レ得ヘキモノトス(法新五四九號一頁長崎地判)

三 債權者カ豫メ辨濟ノ受了ヲ拒絶シタル場合ト雖モ辨濟者ハ適法ノ提供ヲ爲シ辨濟ノ受領ヲ拒絶セラレタルトキニ在ラザレハ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ス(四十年五月二十日大判)

六 債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スル場合ニ於テハ債務者ハ民法第四百九十三條ニ則リ債權者ニ其履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルニ非レハ遲滞ノ責任ヲ免レサルモノトス(法新六

○七號一四頁長崎控判)

七 金錢ノ債務辨濟ハ特約ナキ限りハ通貨ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ債務額ニ相當スル郵便爲替等ヲ送附シタルハトテ之ヲ以テ直チニ有效ノ辨濟アリタリト謂フヲ得ス(最近判五卷一三五頁四十二年七月十日東控判)

八 辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要スルトモ小額ノ金錢債務ニシテ然モ遠隔且不便ノ當事者間ニ在リテハ郵便小爲替券及ヒ其端金ニ付テハ郵便切手ヲ送附シ依テ以テ之ヲ金員辨濟ノ方法ニ供スルカ如キハ取引上一般ニ行ハルル慣例ナリ(法新六二八號一二頁大阪地判)

第四百九十四條 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

- 一 供託ハ辨濟ノ提供ヲ爲セハ足ルヘキ場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ要セス(三十五年四月二十三日大判)
- 二 債權者ノ主張スル債權額カ現實ノ債務額ニ超過スルコトアルモ債務者ハ辨濟ノ提供ノミヲ以テ強制執行ヲ免ルヘキモノニ非ス(三十八年十二月二十五日大判)
- 三 債務ノ目的物ノ供託ハ債務者チシテ其債務ヲ免レシメ其結果

トシテ以後債務者ニ遲滞ノ責ヲ生セサルノ效力ヲ發生スルモノトス故ニ債務者ノ爲シタル供託ノ適法ナルトキハ債權者ハ其以後ノ遲滞利息ノ請求權ヲ有セザレトモ若シ供託ノ不適法ナルトキハ債權者ハ其請求權ヲ有スルモノトス(法新五〇六號六頁四十二年四月廿一日東控判)

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

三 供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス
供託者ハ遲滞ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス

一 供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ヲ除キ債權者カ供託ヲ受諾スル又ハ供託ヲ有效ト宣言シタル判決カ確定スル迄ハ債務ハ供託ニヨリテ絶對ニ消滅スルモノニ非スシテ債務者ノ供託物取戻ニ因リ供託ハ以前ノ狀態ヲ持續スヘシ而シテ供託物ノ取戻ハ債務者ノ任意ニ出テタルト將タ他人ノ行爲ニ因リテ強制セラレタルトニ因リテ區別ヲ生スルコトナシ(法新二八七號五頁三十八年東控判)

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

- 一 租税ノ納付ハ民法上ノ辨濟ニ非レハ義務者ニ代テ租税ヲ納付スルモ民法ノ規定ニ從テ國庫ニ代位スルコトヲ得ス而シテ其代納者カ義務者ノ財産ニ付キ利害關係ヲ有スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ(三十七年十二月八日大判)
- 二 貸借中ノ船舶利用ノ爲メ生シタル費用ニ付キ貸主ハ貸借人ニ代リ其費用ヲ辨濟スヘキ正當ノ利益ヲ有スルモノナルヲ以テ貸主カ貸借主ノ費用ヲ辨濟シタルトキハ假令貸借主カ其費

用ノ辨濟ヲ受ケタル者ニ對シテ債權ヲ有シ租税ノ主張ヲ爲シテ其辨濟ヲ免レ得ヘキモノトスルモ貸借主ハ貸借主ニ對シ辨濟ノ責アルモノトス(法新五二二號一四頁四十一一年七月二十二日大判地判)

三 豫先ノ承諾ニ基ク代位辨濟ハ別ニ通知ヲ用ヒシテ債務者ニ對抗スルコトヲ得(法新五八四號一二頁東地判)

第五百一條

前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

- 一 保證人ハ豫メ先取特權不動産質權又ハ抵當權ノ登記其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス
- 二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス
- 三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス
- 四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス
- 五 保證人下自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非

サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキ保證人ノ負擔部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財産ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財產カ不動産ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス

- 一 保證人カ代位スヘキ權利ハ其保證ヲ約シタル當時現在スルモノニ限ラスシテ其後債權者ノ取得シタル權利ヲモ包含スルモノトス(三十四年二月五日大判)
- 二 或ル債務ニ付キ保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トカ併存スル場合ニ於テ保證人カ主タル債務者ニ代リテ債務ヲ辨濟シタルカ爲メ共同保證人ニ對シ債權者ニ代位

シテ權利ヲ行ハントスルニハ其頭數ニ應スルコトヲ要スルモ若シ債權者ニ代位セス保證人固有ノ求償權ヲ行フニ當リテハ單ニ共同保證人トノ關係ニ基キ求償ノ範圍ヲ定ムヘキモノニシテ物上擔保供與者ノ存否ニ關スルモノニアラス(法新六三七號一六頁四十三三年二月二十一日宮城地判)

第五百二條

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百三條

代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシ

テ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

一 債權者カ擔保物ヲ減少シタル場合ニ於ケル保證人ノ免責ノ限度ハ保證人カ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル時期ニ於ケル擔保物ノ價格ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス(三十五年十月二日大判)

二 民法第五百四條ハ抵當債權ノ保證人又ハ抵當不動産ノ第三取得者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ依リ他ノ擔保ヲ喪失又ハ減少シ辨濟ニ依リテ代位スヘキ保證人等ノ權利ヲ害シ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ保證人等ヲシテ其害ヲ受クヘキ限度ニ於テ保護セントスルノ趣意ナリトス(三十九年六月二十九日大判)

辨濟 雜部

一 債務ノ引受トハ通常第三者カ辨濟期日ニ至リ主債務者ニ代リテ債務ヲ辨濟スルコトヲ約スルノ謂ナリ故ニ其契約ニ因リ主債務者ハ當然引受額ニ相當スル金品ヲ引受者ニ對シテ直ニ給付スヘキ債務ヲ負フモノニ非ス(三十六年十月三日大判)

第二款 相殺

異時舊債務關係ヲ復活セシムヘキ意思表示ヲ爲スモ其行爲ハ新ナル債務關係ヲ發生スヘキ效力アルニ止リ之カ爲メ一旦消滅シタル債務關係ヲ復活セシムルコトヲ得ス(三十七年十二月一日大判)

第五百五條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限リニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

一 相殺スヘキ債務ヲ負擔セサリシ事ヲ理由ト爲シ相殺ノ不當ナルコトヲ主張スル如キハ從前ノ債權カ相殺ノ爲メ消滅セサリシコトヲ主張スルニ外ナラサルニ付キ其債權ノ辨濟ヲ請求スルコトハ格別ナル相殺ニ因リ控除シタル物ヲ不當トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス(三十五年二月十三日大判)

三 假執行ノ宣言ニ依リテ受ケタル支拂ニ基ク債權ト普通ノ債權ト相殺スルコトヲ禁シタル法令ナキニ依リ此兩債務ヲ相殺スルモ妨ケナキモノトス(法新四九〇號一〇頁四十二年三月十一日大判)

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其效力ヲ生ス

三 民法第五百六條第一項ニ所謂相手方トハ意思表示ヲ爲ス債務者カ自己ノ債務ヲ履行スヘキ其人ヲ指稱ス從テ同法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於ケル讓受人ノ如キモ亦之ニ包含セラレルモノトス(三十八年六月三日大判)

四 金錢ノ請求ヲ受ケタル被告カ原告ニ對シテ同シク金錢ノ請求權ヲ有スル場合ト雖モ被告ニ於テ相殺ノ意思ヲ表示セザル以上ハ裁判所ハ原告ノ請求金額ヨリ被告カ請求權ヲ有スル金額ヲ控除シ得ルモノニ非ス(四十一年四月二十一日大判)

五 相殺ノ意思表示ハ民法上ノ法律行為ナリト雖モ當事者ノ一方

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條 時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 債務カ不法行為ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權

者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

相殺 雜部

一 賦與金下付ノ後之ヲ取回センカ爲メ復縁處分ニ因リテ廢除者カ得ヘキ餘高ト相殺シタル行為ハ私法上ノ行為ニシテ行政處分

ニ非ス(三十二年六卷六三頁大判)

第三款 更改

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス條件附債務ヲ無條件債務トシ無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ

一 手形ノ振出人及ヒ裏書讓渡人カ別ニ連帶支拂ノ契約ヲ爲シタルト雖モ該契約ハ手形上ノ債務ノ確認ニ外ナラスシテ債務ノ要素ヲ變更シタルモノニ非ス(法新一二號七頁三十三年十一月二十四日東地判)

二 約束手形ニ付キ其支拂期日ニ至リ支拂ハサルトキハ直ニ強制執行ヲ受ケルモ異議ナシトノ契約ハ債務ノ履行ニ付テノ方法ヲ定メタルモノニシテ債務ノ要素ヲ變更シタルモノニ非ス(法新一二號七頁三十三年十一月二十四日東地判)

三 債務ノ要素トハ債務ノ成立ニ必須ノ事項ヲ指スモノニシテ利息ノ割合ヲ増加シ又ハ附擔ヲ忘リタルトキ期日前ノ遅延利息ヲ

カ相手方ヨリ裁判上ノ請求ヲ受ケルニ當リ相殺ノ意思ヲ表示シテ其請求ヲ拒ムコトハ法律上妨ケナキ所ナレハ訴訟上防禦方法トシテ相殺ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(法新五五八號一五頁四十二年二月二十日大判)

六 被告カ原告ニ對シ相殺ニ適スル債權ヲ有スルモ口頭辯論終結前相殺ノ意思表示ヲ爲サザリシトキハ未タ債務消滅ノ事由發生セザリシモノナレハ敗訴ノ判決確定後ニ到リ相殺ノ意思ヲ表示シ以テ其債務ヲ消滅セシムルコトヲ得(四十二年四月十七日大判)

四 當座借越金ヲ約束手形ニ改メタルハ債務ノ要素ヲ變更シタルモノニアラサルヲ以テ債務ノ更改アリト云フヲ得ス(法新六一號八頁三十四年十月十九日東地判)

五 代金ノ賣買ヲ組成スル一要素ナレハ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ト更改セラレタルモノトス(三十五年二月十日大判)

六 金錢債務ノ履行ニ代ヘ約束手形ヲ振出シタルトキハ債務ノ要素ヲ變更シタルニ非サルカ故ニ之ヲ更改ト云フヲ得ス(法新九

四號六頁三十五年六月五日東地判)

七 當事者間ニ於テ數多ノ舊債權ヲ一個ノ債權ニ更改シタルトキ

ハ新舊債權ノ數額同シカラス即チ債權ノ目的同一ナラサルコトハ自明ノ理ナルヲ以テ更改ノ要素ヲ具備セシヤ否ヤノ點ニ付キ特ニ判斷スルノ要ナシ(三十五年十一月二十九日大判)

八 寶掛代金ノ債務ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ約束手形ヲ振出しタルトキハ法理上更改アリタルモノトス(三十八年十一月十九日大判)

九 手形ハ他ノ證書ノ如ク當ニ債務ヲ證明スル具タルニ止ラス債務ノ成立ニ缺クヘカヲサレ要件ナルヲ以テ手形以上ノ債務ヲ手形ニ變更シ又ハ手形債務ヲ他ノ債務ニ變更スルハ民法第五百十三條ノ更改ニ該當ス(三十八年十二月十九日大判)(同主旨三十八年七月八日同九月三十日)

十 手形ノ當事者ニ於テ手形債務ヲ消費貸借ニ更改スルニ當リ第三者カ特ニ其當事者ト連帶シテ新債務ヲ負擔スヘキコトヲ約諾スルハ違法ニ非ス(三十九年十月十五日大判)

十一 保證人カ債務者ト連帶シテ其責任ニ任スヘキモノナルト否トヲ問ハス新ニ保證ヲ加ヘ若シクハ之ヲ除クカ如キハ債務ノ擔保ヲ増減スルニ過キスシテ債務ノ目的又ハ主體ヲ變更スルモノニ非レハ債務ノ更改ニ非ス(法新四五〇號八頁四十年九月四日長崎地判)

十二 利息ヲ元本ニ組入ル若クハ更ニ返済期限ヲ約シテ證書ヲ書キ換フルカ如キハ債務ノ要素ヲ變更セルモノニ非レハ民法ノ所

謂更改ニ該當セス(四十年十二月四日大判)

十三 甲者カ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ乙者之ニ加ハリ債權者ニ對シテ共ニ連帶債務ヲ約定スルハ債務ノ體様ヲ變シタルニ過キサレハ之ヲ以テ債務者ノ更代ニヨル更改ナリト云フヲ得ス(四十年十二月四日大判)

十四 更改トハ現存ノ法律行為ニ代フルニ他ノ法律關係ヲ以テスルノ謂ナレハ既ニ解除ニ因リ消滅シタル法律關係ナルコトヲ知リナカラ之ニ代ルヘキ法律關係ヲ消滅セシムルモ更改ニ非ス從テ當初ノ寶買契約カ解除セラレタレハトテ新ナル寶買契約ハ無效ニ非ス(法新四九六號八頁四十年四月十八日名古屋地判)

十五 當事者間ニ舊時債務關係アリテ債權者カ其證書ヲ所持シ異日新債務ニ變更シテ更ニ證書ヲ授與シタル場合ニ於テハ舊證書ハ債務者ニ返付シ若クハ破毀スルハ通例ナレトモ舊證書依然トシテ債權者ノ掌裡ニ留存シタリトテ新債務ノ成立ヲ妨クヘキ理アラス(法新五三八號一八頁四十年十月四日大判)

十六 民法第五百十三條ノ所謂債務ノ要素トハ債權關係ニ於ケル當事者及口其目的ヲ云フモノナリトス又連帶債務ニ於テハ債務者ト債務者間ニ債務者ノ數ニ應スル數個ノ債務關係ヲ生スルモノナルニ因リ數人ノ中一人若クハ二人間ニ債務ノ更改アリトスルモ更改ナキ他ノ連帶債務者ト債權者ニ更改ノ效力ヲ及ボスヘキモノニアラス(法新五六五號九頁四十二年一月廿日宮城地判)

十七 組合ノ解散シタル場合ニ於テ計算ノ結果或組合員ノ負擔ニモ亦全然民法ノ規定ニ依ルヘキモノトス(四十二年十月四日大判)

歸セシ債務ヲ消費貸借上ノ債務ニ更改シタルトキハ假令其更改前ノ債務ハ商行爲ニ因リテ生シタリトスルモ新債務ハ其性質ヲ變シテ民法上ノ債務ト爲ササルモノナレハ之ニ適用スヘキ時效

第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 債務者ノ更替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ニ因リテ成立スルヲ原則トシ舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲ス場合ハ例外ナレハ例外ノ場合ニ該當スルコトヲ主張シテ更改ノ效力ヲ爭フ者ハ其事實ヲ證明スヘキ責任アリ(四十二年四月廿二日大判)

二 債權者ノ更代ニ依ル更改契約ハ新舊債權者及ヒ債務者ヲ當事者トシ右當事者間ニ於テ債務者ト舊債權者間ノ舊債務ヲ消滅セシメ更ニ債務者ト新債權者間ニ新債務ヲ發生セシムル效果ヲ生スル一個ノ法律行為ナレハ新舊債權者ニ於テハ債權ノ讓渡行為

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附ノ證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ依リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル理由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル債權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

更改 雜部

一 債務者及ヒ新舊債務者間ノ契約ニ因リ他人ノ債務ヲ引受クルコトヲ得(法記一七卷二二號二七頁四十年十二月十四日決議)

第四款 免除

第五百十九條

債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

- 一 權利ノ拋棄ハ相手方ニ對シ其意思ヲ表示スルニ非レハ其效力ヲ生セス(三十六年六卷一頁大判)
- 二 權利ノ拋棄ハ權利者カ其意思ヲ表示スルト同時ニ其效力ヲ生シ一旦其意思ヲ表示シタル上ハ之ヲ取消スコトヲ得ス(三十三年三卷一四〇頁大判)
- 三 債務ノ免除ハ獨リ明示ノ意思表示ヲ以テスルコトヲ得ルノミ

第五款 混同

第五百二十條

債權及債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

一 債權及債務カ同一人ニ歸シタル場合ニ於テ其債權ハ混同ニヨリ當然消滅スヘキコトハ民法施行前ニアリテモ亦法理トシテ認

メラレタル所ナリトス(三十八年十二月十三日大判)

第二章 契約

一 當籤者クハ落札ノ前後ニ因リ議員ノ利害ニ著シク懸隔シ早ク

當籤者クハ落札シタル者ハ自ら爲シタル掛込額以上ノ金額ヲ取得スルモ其以上ノ金額ニ對シ債務ヲ負擔スルコトナク又掛込金ハ若干ノ金員ヲ取得シ得ヘキ俸進ヲ有スル抽籤ヲ購フ爲メ講元ニ對シテ之ヲ支拂フモノタルカ如キ場合ニ於テハ其契約ハ全然射倖ノ性質ヲ有スルモノトス(三十八年十一月三十日大判)

二 如上ノ場合ニ於テ未當籤者又ハ未落札者ハ議會ニ對シ抽籤者クハ入札ノ權利ヲ有スルモ其權利ハ議會ト消長ナ同フスヘキハ

當然ナリ(三十八年十一月三十日大判)

三 甲者カ乙者ニ對シ第三者ノ建築工事ヲ請買ハシメタル場合ニハ其契約ハ絕對ニ無効ナリト雖モ甲者カ第三者ヲシテ其建築工事ヲ乙者ニ請買ハシムヘキコトヲ乙者ト約定シタル場合ニハ其契約ハ常ニ有效ナリトス故ニ第三者ノ建築工事請買ヲ以テ目的ト爲シタル契約ヲ解釋スルニハ必スヤ其何レノ場合ニ該當スルモノナルヤヲ判定セサルヘカラス(三十九年九月二十八日大判)

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十二條

承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘ

カリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
申込者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セサリシモノト看做ス

第五百二十三條 遅延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得
第五百二十四條 承諾ノ期間ヲ定メスシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クル相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

一 承諾ノ期間ヲ定メスシテ對話者ニ爲シタル申込ハ直ニ承諾ヲ爲スニ非レハ契約成立スルコトナシ(三十九年十一月二日大判)

第五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セザリシモノト看做ス

第五百二十八條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絕ト

共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條 前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス

第五百三十一條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノミ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條

廣告ニ定メタル行為ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限リ其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行為カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メザリシトキハ廣告者之ヲ判定ス

應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
數人ノ行為カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

契約ノ成立 雜部

一 事實裁判所ハ事情ニ依リ契約ノ眞意ト其契約書ノ明文トカ相符合セサルモノト認ムルトキハ其明文ニ反シテ其契約ノ旨趣ヲ解釋スルコトヲ得ヘシ(三十二年二卷八三頁大判)

二 行政上ノ濫取取締規則ニ背反スル契約ハ假令其規則發布以前ノ締結ニ係ルモノト雖モ當然無効ニ歸ス(三十二年三卷一頁大判)

三 契約ノ要素タル目的ノ錯誤ハ其承諾ヲ阻却スルモノトス(三十二年九卷六二頁大判)

四 一旦適法ニ成立シ後日或ル事由ニ依リテ消滅シタル契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ其效力ヲ復活スルコトヲ得(三十二年十一卷一〇四頁大判)

五 契約ハ法律上書面ヲ要スル要式契約ヲ除ク外當事者相互ノ同意

思表示ノミニ因リ成立ス(三十三年二卷七〇頁大判)

六 貸座敷營業者ト娼妓トノ間ニ於ケル金錢貸借上ノ契約ト身體ヲ拘束スル目的トスル契約トハ各自獨立ニシテ身體ノ拘束ヲ目的トスル契約ハ無効ナリ(三十三年二卷八一頁大判)

七 當事者ニ於テ或ル債務履行ノ爲メ期間ヲ定メ其期間ノ經過ノミニ因リ直ニ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ特約スルコトハ自由ニシテ斯クノ如キ契約ハ民法實施前後ヲ問ハズ有效ナリ(三十三年四卷八四頁大判)

八 當事者ノ一方ハ其相手人ニ對シテ某寺ノ住職ニ推舉スルコトヲ約シ他ノ一方ハ其相手人ニ對シテ該寺ノ住僧ヲ分擔スルコトヲ約シ右二個ノ約束相互ニ約因ト爲リテ組成シタル契約ハ民法上無効ニ非ス(三十三年五卷八一頁大判)

九 入札及契約ニ關スル條件ヲ公告シテ競争契約者ヲ召集スルトキハ政府ハ契約ノ申込人ニシテ之ニ應募スルモノハ承諾者ナリ(三十四年五月三十一日大判)

十 入札者カ承諾ノ意思ヲ表示シタル時期ハ其入札ノ開投ヲ始メタルトキニ在ルモノトス(三十四年五月三十一日大判)

十一 期限ニ辨濟ヲ怠ルトキハ抵當物件ヲ以テ辨濟ニ充ツヘシトシテ契約ハ裁判上有效ノ契約ト認メサル慣例ナリ(三十四年十二月二十日大判)

十二 甲者カ乙者ヨリ讓受ケタル營業ニシテ他ノ關係上其營業自體ニ制限アルトキハ甲者ハ前營業者ノ有セサル過大ノ權利ヲ讓受ケヘキ理ナキニヨリ制限ヲ逾越シテ他人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得ザルハ勿論ナルモ之レ前營業者ノ契約上ノ義務ヲ承繼シタルニ非スシテ制限アル營業ヲ爲スノ權利ヲ承繼シタルモノトス(三十六年三月六日大判)

十三 手形ニ署名セスシテ内實手形債務ヲ負擔シタル者カ更ニ普通契約ヲ以テ手形面ノ金額ノ支拂ヲ約シタルトキハ諸約者ハ該契約ヨリ生スル債務ヲ履行スヘキ責任ヲ負フモノトス(三十七年二月二十三日大判)

十四 宅地ノ一部ヲ賣渡シタル者カ後日分割ノ上名義書換ノ手續ヲ行フヘキ特約ヲ以テ便宜上其宅地ノ全部ニ付キ賣買登記ヲ了シタル場合ニ於テハ該契約ハ一種ノ無名契約ト云フヲ得ヘキモ敢テ法律ノ禁止セル事項ニ非ス故ニ判決ヲ以テ該契約ノ履行ヲ命セラルトキハ其判決ハ即チ登記原因ニシテ訴狀申此他ニ登

記原因ヲ表示スル必要ナシ(三十八年二月二十三日大判)

十五 一定ノ人ノ間ニ於テ或ル契約ヲ爲スニ當リ其責任ノ範圍若クハ態様ヲ定ムル爲メ手形振出人又ハ裏書人ノ責任ヲ以テ之カ標準トスルハ違法ニ非ス(三十八年十二月二十三日大判)

十六 債權者タルモノハ一ニ債務者其人ヲ信用シテ貸借關係ヲ惹起スルモノナレバ債務者ノ生命若クハ健康ハ自己ノ債權辨濟ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ債權者タル者ハ債務者ノ生命ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スルモノタルヲ疑フニ從テ債權者カ債務者ノ爲メニ爲シタル保險契約ハ無効ニ非ス(法新二號八頁東控判)

十七 親母子ノ規約ニ從テ落札金トシテ現實ニ請取リタル金額以上ノ金員ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲ス如キハ法律上固ヨリ有效ニシテ而モ之カ契約ヲ公正證書ニ作成シタル場合ハ其公正證書ハ法定ノ效力ヲ有ス(最近判四卷二〇頁四十一一年十月十九日大判控判)

十八 相續戶主放蕩ニシテ家産ヲ蕩盡スル虞アルヲ以テ家産保全ノ爲メ協議ヲ遂ケ相續財產ヲ母ニ贈與シ相續戶主ノ品行方正業ヲ繼續スルヲ得ルニ至リタルトキ右財產ヲ母ヨリ相續戶主ニ贈與スルコトヲ得セシムル契約ハ法律上有效ニシテ右財產ノ所有權ハ完全ニ母ニ移轉シタルモノト認定ス(最近判五卷六三頁四十二年六月二十三日東地判)

十九 法律上當然負擔スルコトアルヘキ義務ヲ目的トスル合意ハ契約ニアラス(法新六〇九號一〇頁神戶地判)

二十 契約ノ效力ハ履行後尙存續スルモノナレハ當事者カ契約履行後將來一向テ契約ノ效力ヲ消滅セシムル合意ヲ爲スモ之ヲ以テ不能ノ事項ヲ目的トスルモノト云フヲ得ス從テ合意ハ有效ナリ(法新六四〇號一頁四十二年十月十二日東判)

二十一 他人ノ所有權ヲ侵害セスト云フ不行爲ノ特約ヲ爲スモ何等債權ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス從テ該特約ノ不履行ノ原因トシテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(法新六二四號一頁四十二年十二月二十七日東判)

第二款 契約ノ效力

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

一 雙務契約者ノ一方カ一部ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テハ他ノ一方ハ之ニ應スル一部ノ履行ヲ拒ムヲ得ヘキモ他ニ特別ノ理由ナキ限りハ之ヲ以テ全部ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス(三十二年二卷二八頁大判)

二 雙務契約ノ履行ニ付キ相手方ノ行爲ヲ要スル場合ニ在テハ現實物件ノ提供ヲ爲ササルモ提供ノ準備ヲ爲シ之ヲ相手方ニ通知シテ辨濟ヲ受クヘキ旨ヲ催告スルトキハ提供アリタルモノト看做スヘキモノトス(三十三年三卷一一二頁大判)

三 同時履行ノ原則ハ契約當事者ノ一方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ相手方ニ自己ノ債務履行ヲ拒絶スヘキ權利ヲ附與シタルニ過キスシテ當事者雙方ノ義務カ同時ニ履行セラレタリトノ推定ヲ生セシムルモノニ非ス(三十七年一月十九日大判)

四 雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルニ拘テ相手方ニ對シテ債務ノ履行ヲ請求スルトキハ相手方ハ契約ヲ解除スルコトヲ得他ノ一方カ其債務ノ履行ヲ提供スル迄自己ノ債務ノ履行ヲ拒絶シ得ルモノトス(卅八年五月十日大判)

五 雙務契約ノ時當事者ノ一方カ自己ノ債務履行ヲ拒ミ得ル場合ハ相手方ヨリ債務履行ヲ受ケサル時ニ限ル故ニ一旦貸借物件ノ引渡ヲ受ケタル以上ハ縱令貸借人カ債務ヲ盡ササルモ契約ノ貸料支拂ヲ拒ム權利無シ但シ其義務ノ強要、損害ノ要償、契約ノ解除權ハ別ナリ(最近判一卷二六頁東判四十年二月十三日判決)

六 同一ノ雙務契約ヨリ生シタル雙方ノ債務ハ特別ノ意思表示アラサル限り其目的物ノ性質可分タルト不可分タルトヲ問ハス各一個ノ債務ヲ構成スルニ過キサレハ假令其履行ハ分割シテ之ヲ爲スヘキ場合ト雖モ依然トシテ一個ノ債務存在スルニ外ナラス(四十一年四月廿三日大判)

七 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ前ノ辨濟期ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供セサルコトヲ理由トシテ後ノ辨濟期ニ屬スル自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス(同上)

八 雙務契約當事者ノ一方カ相手方ヨリ債務履行ノ請求ヲ受ケタルトキ同時履行ノ抗辯權ヲ行使セシメテ債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ訴訟提起アリタル後之ヲ行使セントスルハ時期ヲ失シタルモノナリ(同上)

九 負擔付贈與ハ雙務契約ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ受贈者カ其負擔ニ屬スル債務ノ提供ナキマテハ贈與者ハ贈與ノ履行ヲ拒ムコトヲ得(最近判五卷二五頁四十二年五月一日東判)

十 買主カ賣主ニ對シテ以テ代金ト引換ニ目的物ノ引渡ヲ爲ス

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタルトキヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

一 民法第五百三十四條ニ所謂物ノ滅失ノ事由カ債務者ノ責ニ歸スヘキトキトハ其滅失カ債務ノ行爲又ハ過失ト事實上原因結果

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三編 債權 第二章 契約

二四三

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

ノ關係ヲ有シ其行爲若クハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ(三十四年十一月二十八日大判)

物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス
物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ債權者ハ條件成就ノ場合ニ於テ其選擇ニ
從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務
ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス

債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ
受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコ
トヲ要ス

一 請負ニ係ル建築物カ其竣工前天災ニ罹リ破壊シタルトキハ之
ニ因テ生シタル損害ハ所有者タル請負人ノ負擔ニ歸スヘキモノ

ナルヲ以テ特別ノ事情ナキ限ハ注文者ニ對シテ其工事ニ關スル
費用ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(三十五年十一月百頁大判)

第五百三十七條 契約ニ因リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ
其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタ
ル時ニ發生ス

一 株式會社ノ發起人ノ一人カ會社ノ成立前未來ニ成立スヘキ會
社ノ計算ニ於テ第三者ト賣買契約ヲ爲シタルハ則チ會社ノ成立
ヲ條件ト爲スト同時ニ會社成立ノ上ハ其會社ノ計算ニ歸セシム

ル趣旨ノ法律行為ト見ルチ相當トスルヲ以テ會社カ成立セシ後
右契約ノ效果ヲ享受スルノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依リテ
代金支拂ノ義務アルモノトス(法新九四號八頁三十五年五月二

十八日大限地判)

二 第三者ノ爲メニスル契約モ自己ノ爲メニスル契約ト同シク
之ニ因テ生スル債務ノ期限若クハ條件ヲ附著セシム得ルモノト
ス(三十六年三月十日大判)

三 他日成立スヘキ會社ノ爲メニ締結スル契約ハ其會社ノ成立ヲ
條件トスル契約ニ外ナラシメテ斯ル場合ニハ其利益ヲ享受スヘ
キ第三者ハ其契約當時必ラシモ現存スルコトヲ要セス(三十
六年三月十日大判)

四 民法第五百三十七條ハ當事者カ第三者ノ利益ノ爲メニス
ル場合ハ勿論第三者カ契約ヨリ生スル利益ヲ享受セント欲セハ
自ラ反對給付ヲ爲ササルヘカシサルカ如キ場合ヲモ併セテ規定
シタル法條ナリトス(三十六年三月十日大判)

五 民法第五百三十七條ハ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對
シテ或ル給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ノ規定ニシテ其第
三者ハ債務者ニ對シ直接ニ契約ノ目的タル給付ヲ請求スル權利
ヲ取得スルモノナレハ第三者カ給付ヲ受クヘキ債權關係ハ契約
當事者ノ一方ト第三者トノ間ニ於テ未ダ嘗テ存在セサルモノナ
ルヲ要ス(三十七年四月二十日大判)

六 民法施行前ニマリテモ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對
シテ或ル給付ヲ爲スヘキ事ヲ約シタル場合ニ第三者カ債務者ニ
對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ其表意ノト
キヨリ直接ニ該給付ヲ請求スルノ權利ヲ取得スルモノトス(三
十八年三月二十日大判)(同主旨三十七年五月六日 三十七年六

月六日)

七 未登記ノ貸借契約アル地所ヲ賣買スルニ當リ買主カ賣主ニ
對シ賣主ト賃借人即チ其地上ニ在ル建物所有者トニ契約サレタ
ル同一ノ條項ヲ以テ引續キ貸貸スルトノ意思表示ヲ爲シタリト
テ買主ト建物所有者間ニ貸借成立セシ(最近判一卷七七頁四
十年五月一日東地判)

八 當事者ノ一方カ相手方ニ對シ一定ノ貨料ヲ取りテ第三者ニ地
所ヲ使用セシムルコトノ契約ヲ爲シ第三者カ之ニ對シ受約ノ意
思表示ヲ爲スモ第三者ト債務者間ニ右契約ノ效力ヲ生スルモノ
ニアラス(法新五〇八號二一頁四十一月六月一九日東地判)

九 他人ノ債務ヲ辨濟スル旨ヲ約シタル場合ニ於ケル該契約ハ即
チ第三者ニ給付ヲ無スコトヲ約シタルニ外ナラサレハ其契約ハ
民法第五百三十七條ニ所謂第三者ニ對シ給付ヲ無スヘキ契約ニ
該當ス(法新五一八號一六頁四十一月七月十日東地判)

十 民法施行前ニ於テモ契約當事者カ自己ニ屬スル特定物ニ關ス
ル物權ヲ第三者ニ移轉スルコトヲ約シタルトキハ該物權ハ其第
三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル
トキニ移轉スルモノニシテ物權移轉ノ爲メニハ第三者ト債務者
トノ間ニ於テ更ニ契約締結スルコトヲ要セザリシモノトス(四
十一年九月廿二日大判)

十一 契約ハ當事者ヲ拘束スルニ止マリ第三者ニ其效力ヲ及ボサ
サルチ原則トスルカ故ニ民法第五百三十七條ノ如キ特別ノ規定
アルニ非レハ第三者ハ其契約ニ基キ直接ニ履行ヲ請求スルコト

ヲ得ス(四十二年二月十七日大判)

十二 契約當事者ノ一方ヲ第三者ニ對シ既ニ負擔セル債務ヲ相手方ニ引受ケシムヘキコトヲ約シタル場合ノ如キハ民法第五三七條ノ規定ニ該當セス(同上)

十三 債務者方他人ヲシテ其債務ヲ引受ケシムヘキコトヲ契約シタル場合ニ於テ債權者ガ其他人ニ對シ直接ニ其債務ノ履行ヲ請求スルニハ自己モ亦契約一般ノ規定ニ從ヒ該契約ノ當事者ニ加入シタル事實ナカルヘカラス(同上)

十四 契約ハ其當事者ニ於テノミ効力ヲ生スルモノニシテ彼ノ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ノ如ク法規ノ存スル場合ハ格別然

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

ナシ(四十一年九月廿日大判)

一 民法施行前ニ於テモ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ハ書面ヲ以テ締結セザレハ之ヲ取消スコトヲ得トノ規定存在シタルコト

第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辯ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

契約ノ効力 雜部

一 契約ハ債權即チ對人關係ナルヲ以テ一般ノ承繼人ノ外當事者以外ノ者ニ其効力ヲ及ボスコトヲ得サルモノトス(三十六年三月六日大判)

二 身元引受契約ニ付テハ法令ニ於テ特別ノ効力ヲ付與シ若クハ

一定ノ範圍ヲ指示シタル規定ナケレハ一ニ表意者ノ意思解釋ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス(三十九年十一月十五日大判)

三 第三者ノ所有スル地所ニ工事ヲ施スコトヲ契約シタル場合ト雖モ其履行ヲ爲サントスルニ當リ第三者之ヲ承諾スルニ於テハ履行可能ナルカ故ニ該契約ハ不能ノ事項ヲ約シタル無効ノ行爲ナリト云フヲ得ス從テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ其履行ヲ請求スルハ不能ノ事項ヲ強フルモノニ非ス(四十年十一月四日大判)

四 第三者カ債務者ニ對シテ豫メ其債務ヲ辨濟スヘキ旨ヲ約スル契約ハ有效ナルヲ以テ第三者カ其約旨ニ基キ辨濟ヲ爲ササルトキハ債務者ニ對シテ不履行ノ責アルモノトス(四十年十二月二十四日大判)

五 戦後ニ關スル行賞賜金ニ付テハ之ヲ目的トシテ實質讓渡又ハ其豫約ヲ爲シ若クハ債務辨濟ノ擔保ニ供スルカ如キ契約ヲ爲ス

第三款 契約ノ解除

第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

一 契約ノ解除權ヲ有スルモノカ其權利ヲ實行セントスルニハ相手方ニ向テ之カ意思表示ヲ爲スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ

第三編 債權 第二章 契約

尙之ニ異ラス(三十三年四卷八七頁大判)

二 契約ノ解除ハ意思表示ヲ以テ足り訴ヲ以テスルヲ要セザルニ

コトハ法律ノ許ササル所トス(法新五三九號一五頁四十二年十一月廿七日東地判)

六 債務ノ引受ヲ認メタル規定ヲ存セザル我法制ニ於テハ債務者カ第三者トノ間ニ其第三者カ債務ノ引受ヲ爲スヘキ契約ヲ爲シタリトスルモ債權者ハ右契約者ヨリノ通知ヲ受ケテ之ヲ知りタルト否トニ拘ラス其第三者ニ對シテハ直接ニ債務ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ス(法第五四六號四〇頁四十二年十二月十二日大判控判)

七 甲者ヨリ乙者ニ財產ヲ贈與スルニ當リ乙者ノ濫費センコトヲ憂ヒ丙丁等ノ名ニ於テ之ヲ受ケ同人等ハ乙者ノ爲メ其財產ヲ保管シ甲者ノ委託セル範圍内ニ於テ適當ノ所置ヲ爲シ乙者ヲシテ該財產ノ收益ヨリ安穩ナル生活ヲ得セシメントスル約旨ニ依ル贈與契約ニ對シテハ右丙丁等ニ於テ甲者ニ對シテ之カ交付ヲ求ムルハ格別乙者ハ自ラ直接ニ之カ交付ヲ甲者ニ請求スルハ不法ナリ(最近判六卷二〇四頁四十二年四月九日東地判)

- 付キ裁判上契約解除ノ承認ヲ言渡スカ如キハ失當ナリ(三十四年四月大判)
- 三 契約ノ解除ハ解除ノ意思ヲ相手方ニ表示スルヲ以テ當然解除セラルモノトス然レトモ訴ハ契約ニ止マラス物ノ返還若クハ損害賠償又ハ其他ノ行為ヲ併セテ請求スルモノニ付テハ訴狀ヲ相手方ニ送達スルト同時ニ契約解除ノ意思ハ相手方ニ表示セリレタルモノト看做スヘキモノトス(三十四年五月八日大判)
- 四 契約ノ存續ト全ク相容レサル請求ヲ爲シタルトキハ暗黙ニ解除ノ意思ヲ表示シタルモノトス(三十四年六月八日大判)
- 五 契約解除ノ意思表示ニハ法律上特ニ法式ノ規定ナキニ因リ買戻契約ノ當事者間ニ於テ買戻ヲ請求スル訴狀カ相手方ヘ送達セリレタルトキハ買戻契約ノ解除ハ其訴狀ノ到達ノ時ニ於テ效力ヲ生スルモノトス(三十五年三月五日大判)
- 六 家屋明渡ヲ請求スルノ記載アル訴狀ヲ被告ヘ送達スルモ之カ爲メ貸借契約解除ノ意思表示ヲ爲シタル效果ヲ生セス(法新八一號八頁三十五年三月七日東地判)
- 七 契約ノ解除ハ條件ノ成就ニ依リ解除權發生スルモ相手方ニ對シ解除ノ意思表示ヲ爲スニ非レハ解除ノ效力ヲ生セス(法新八九號九頁三十五年五月六日東地判)
- 八 訴訟上ニ於テ爲シタル契約解除ノ意思表示ハ訴狀カ相手方ニ送達セラルルト共ニ其意思表示モ共ニ到達スルヲ以テ契約解除ノ效力ヲ發生スルモノトス(三十六年五月十六日大判)
- 九 當事者ハ一旦成立シタル契約ヲ解除シ又ハ其契約ヲ變更シ得

- ルモ一度解除シタル契約ヲ復活シテ最初ヨリ解除セラレザリシカ如ク爲スコトヲ得ス(三十七年二月十五日大判)
- 十 違約者ハ違約セサル相手方ニ對シテ契約解除ノ權利ヲ有セス(三十七年三月五日大判)
- 十一 契約ニ依リ當事者ノ一方ニ解除權ヲ付與シタル場合ニ於テ相手方カ債務ヲ履行セサルヘキハ敢テ履行ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ直ニ解除權ヲ行使スルトヲ得ヘシ(三十七年六月十八日大判)
- 十二 雙務契約ノ場合ニ於テ一方カ他方ノ義務違背ニ依リ契約ヲ解除セントスルトキハ自己モ亦其義務ヲ違背セサルコトヲ要ス若シ自己カ其義務ヲ違背シタルトキハ假令他方ハ義務違背アルモ解除權ヲ行フコト能ハサルモノトス(法新二七一號七頁三十八年三月十日東地判)
- 十三 契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニ非レハ訴訟當事者ハ訴狀答辯書若クハ口頭辯論ニ於テ攻擊又ハ防禦ノ方法トシテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス(三十八年十二月廿一日大判)(同主旨三十四年六月八日、三十五年三月五日、三十六年五月十六日)
- 十四 月賦辨濟ノ契約ニ於テ債務者カ月賦辨濟ヲ怠リタルトキハ一時ニ殘金金額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ旨ノ約定アル場合ニハ假令債務者カ辨濟ヲ怠ルモ其請求權ヲ行使スルト否トハ債權者ノ自由ナレハ苟モ債權者ニ於テ取消ノ意思ヲ表示セサル限り該契約ハ依然トシテ有效ニ存在スルモノトス(三十九年十二月一日

大判)

十五 民法施行前ニ成立シタル買戻契約ニ依リ其施行後解除權ヲ

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セザルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告

告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

- 一 手附流ノ契約ト雖モ履行時期ノ徒過ハ契約解除ノ原因タルニ止リ之カ爲メニ其義務ハ當然消滅スルモノニ非ス(三十二年二月卷一〇九頁大判)
- 二 契約解除ノ通知ヲ爲スモ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シタルニ非レハ該通知ノミニテ直ニ契約ヲ解除シタルモノト云フヲ得ス(法新八號一一頁三十二年十月十九日東地判)
- 三 債務不履行ノ原因トスル契約ノ解除權ノ發生ヲ當事者ノ一方カ一定ノ期間ヲ定メ履行ヲ催告シタルモ其效力ナカリシトキニ於テ始メテ發生スルモノナルヲ通則トスルモ特ニ當事者ノ意思表示ニ依テ其手續ヲ要セザル旨ヲ定メタルトキハ此通則ニ拘ラサルモノトス(三十六年三月三日大判)
- 四 甲カ或土地ヲ乙ニ賣渡スヘキ契約ヲ締結シタル後其土地ヲ再モ他人ニ賣渡シタルトキハ甲ハ民法第五百四十三條ニヨリ解除スルニアラスシテ第五百四十一條ニヨリ解除セザルヘカラス(三十七年十一月十五日大判)
- 五 民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其履行ノ後ニ至リテモ尙ホ之ヲ履行セザルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(三十八年三月二十七日大

- 行使スルニハ民法ノ規定ニ依リ相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ是ルモノトス(四十一年二月廿一日大判)
- 六 不履行ニ依リ解除權ヲ行フニハ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルニ及ハス(法新二八九號一五頁梅博士說)
- 七 土地賣買ノ契約履行ニ確定期限アルモ其期限ヲ經過シタル一事ノミニテハ其契約ハ當然解除サルモノニアラス更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後ニアラサレハ解除スルコトヲ得ス而シテ其履行請求ノ期間カ催告ヲ受ケタル日ヨリ僅々二日ト定ムルモノヲ以テ不相當ナリト云フヲ得ス(最近判一卷一六三頁四十年七月二十三日大阪地判)
- 八 雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ自ら盡スヘキ債務ノ提供ヲ爲シ相手方ノ債務履行ヲ要求セルニ拘ラス其相手方カ債務ヲ履行セザルトキハ民法第五百四十一條ノ債務ノ不履行者タルヲ免レス(四十一年四月一日大判)
- 九 不動産ノ賣買契約ヲ爲シタル者カ或ル一定ノ日時及ヒ一定ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケヘキ旨約束シタルニ不相當者ノ一方カ其日時ニ於テ該登記所ニ來ラザリシトスルモ特約ナキ限り之ヲ以テ催告ヲ俟タズ直ニ該契約ヲ解除シ得サルモノトス(法新五四七號一二頁大阪地判)

第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一 民法第五百四十三條ハ契約ノ履行カ債務者ノ責ニ期スヘキ事由ニ因リ絕對ニ不能ト爲リタル場合ヲ規定シタルモノニシテ其履行カ單ニ困難ト爲リタル場合又ハ債務者ニ於テ其債務ヲ履行セザルコトヲ明言シタル場合ヲ規定シタルモノニアラス(三十七年十一月十五日大判)

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス
解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

一 契約ノ解除ナルモノハ當事者相互ニ相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ生スルノミニシテ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルモノトス故ニ假令契約ノ解除セラレルモ其契約以前ニ有效ニ成立シタル貸借ハ之カ爲メニ影響ヲ受クルモノニ非ス(法新八號八頁東地判)

二 賣主ハ賣買ノ條件ヲ履行セザル買主ニ對シテ賣買ヲ解除スル

モ買主ノ轉賣ニ付キ保證人タルトキハ原賣買ノ條件ヲ了知セザル轉得者ニ對シ轉賣者ノ承認人ナリトシテ原賣買ノ解除アリタルコトヲ主張スルヲ得ス(三十五年五月三十日大判)

三 既ニ受テシタル契約ノ目的物ヲ返却シ代金ノ返還ヲ求ムルカ如キハ契約ヲ爲ササル以前ノ原狀ニ復セシムルモノナルカ故ニ契約ノ解除ヲ爲サシテ損害賠償ニ依リ代金ノ返還及目的物返却ノ爲メニ要シタル費用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(三十六年三月九日大判)

四 契約ノ解除ハ反對ノ規定若クハ反對ノ意思表示アラザル場合ニ於テハ當事者間ニ未タ法律關係ヲ存セザルカ如ク看做スヘキモノナレハ當事者相互ニ相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フモノトス(三十七年二月六日大判)

五 契約ヲ解除シタルトキハ雙方ノ當事者相互ニ其相手方ヲシテ契約締結以前ノ情態ニ復セシムルヲ以テ足ル故ニ特定物ノ買主ハ其原物ヲ返還シ不特定物即チ代替物ノ買主ハ其原物若クハ之ト同種類同品位ノ物ヲ返還スルヲ以テ足ルモノトス(三十七年二月十七日大判)

六 買主カ手附金ヲ交付スヘキ債務ヲ負擔セル場合ニ於テハ賣主ニ對スル債權トシテ相殺シタルトキハ假令其賣買契約ハ解除セラルルモ相殺ハ依然其效力ヲ存スヘキモノナレハ買主ハ手附金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得(三十八年四月二十二日大判)

七 契約ノ不履行ニ因リテ現貨ノ損害ヲ被リタル當事者ハ相手方ニ對シテ契約ヲ解除シタルニ拘ラス其損害賠償ヲ請求スルノ權

利アリ(四十年六月二十五日大判)

八 契約當事者ノ一方カ相手方ノ債務不履行ニ基キ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フニ止リ其行為ヲシテ初メヨリ無効タラシムル效果ヲ生セス故ニ一旦受贈者ニ移轉シタル所有權ハ解除ニ因リ當然贈與者ニ復歸シ又ハ初メヨリ受贈者ニ移轉セザリシモノト看做サルコトナシ(法新四七七號七頁四十年十二月二十六日長崎地判)

九 解除權ノ效力ハ債權的效力ヲ生シ當事者間ニノ原狀回復ノ債權關係ヲ生スルニ過キサレハ之カ爲メ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス而シテ民法第四百四十五條第一項ニ所謂第三者ノ權利トアルハ物權タルト債權タルト區別セザルヲ以テ契約解除前債權ヲ讓受セ特ニ其辨濟ヲ受ケタル者ハ其辨濟金ヲ返還スルノ義務ヲ負フモノトス(法新四九五號三頁東地判)

十 債務ノ不履行ニ基キ損害賠償ハ債權ノ效力ニ外ナラザルヲ以テ債權ノ存在中現貨ニ生シタル分ニ限り之ヲ認容スヘキ債權消滅ノ後ニ於テハ假令債權存在セハ損害ノ生スヘキコトヲ豫想シ得ヘキトキト雖モ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス又民法第五百四十五條第三項亦既ニ生シタル損害賠償ノ請求權ハ契約ノ解除ニ依リ其行使ヲ妨ケザルコトヲ定メタルニ止リ契約解除ノ後ニ生スヘキ損害ノ賠償ヲ認容シタルモノニ非ス(法新五八八號一頁長崎地判)

十一 不動産ノ賣主ヨリ其買主ニ讓受セタル者ハ即チ賣主ノ承認人ナルヲ以テ賣主其人ト看做スヘキモノトス故ニ其讓受ニ於

ヲ買戻權ヲ行使シ買賣契約解除シタルトキハ其結果トシテ不動
産ノ所有權ハ當然讓受人ニ歸屬スルモノトス(四十一年七月八
日大判)

十二 雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者カ其債權ヲ第三者ニ讓渡シ
タル場合ニ於テ雙務契約不成立ト爲リ又ハ解除セラレタルトキ
ハ債權讓受人ハ其債權ヲ履行セシムルコトヲ得ス又既ニ債務者
ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキハ其受ケタルモノヲ返還スヘキヲ當然
トス(四十二年五月十四日大判)

十三 民法第五百四十五條第一項但書ニ所謂第三者トハ如上ノ場
合ニ於テハ特別ナル原因ニ基キ雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者
ヨリ其受ケタル給付ノ物體ニ付キ或ル權利ヲ取得シタル者ヲ指

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期
間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通
知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若ク
ハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シ
タルトキハ解除權ハ消滅ス
契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行爲又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除權ハ

消滅セス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ
受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

一 明治三年卒族解放ノ結果廢祿ト爲リタル者ニ對スル贈與金ノ
下付ハ畢竟贈與ニ外ナラス(三十二年六月六日三頁大判)

二 贈與ハ贈與者ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フルモノニシテ其
財産ハ現在既ニ存在スルモノナルト將來取得スヘキモノナルト

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終リタル部分ニ付テハ此
限ニ在ラス

一 民法第五百五十條ハ主トシテ一方ニハ贈與者カ贈與ヲ爲スニ
當リテ其意思ノ明確ナルコトヲ期シ他ノ一方ニハ輕忽ニ贈與ヲ
爲スコトヲ豫防セントスルノ旨趣ニ出テタル規定ニシテ當事者
雙方ノ意思表示ニ付キ書面ヲ作成スヘキコトヲ命ジタルモノニ
非ス(四十年五月六日大判)

二 贈與契約ニ要スル書面ハ敢テ方式ヲ要セスト雖モ其書面ハ少
クとも贈與契約ノ成立ヲ證明スルノ意義ニ於テ作成セラレタル
モノナルコトヲ要ス一片ノ通信文ニ於テ偶々贈與ノ意ヲ漏シタ
ルニ過キサルモノノ如キハ之ヲ以テ贈與契約ノ書面ナリト爲ス

稱シ解除セラレタル契約ヲ基礎トシテ生シタル債權ヲ讓受ケタ
ルモノノ如キハ之ニ包含セス(同上)

十四 契約解除ノ效力ハ原狀ニ回復スヘキ義務アルモノニシテ前
キニ移轉セル權利其物ノ回復ニ付キ更ニ何等カノ行爲ヲ要スル
カ如キ觀ナキニアラスト雖モ契約當事者カ依然トシテ該物件ノ
主タル場合ハ原狀回復ノ義務ハ即時ニ其效力ヲ發生シ致テ一方
ヨリ他方ニ所有權移轉ノ意思表示ヲ覆ヘスノ要ナキモノトス故
ニ權利者ハ解約ト同時ニ當然回復シタル所有權トシテ之ニ關ス
ル賣買登記抹消ヲ請求シ得ヘシ(最近判五卷一五六頁四十二年
七月六日東控判)

一 問フ所ニ非ス(三十八年十二月十四日大判)
二 當事者カ第三者所有ノ財産ヲ以テ直ニ贈與ノ目的物トスルハ
法律ノ認メサル所ナリ(三十八年十二月十四日大判)

三 民法第五百五十條ハ主トシテ贈與者ノ意思即チ贈與ノ約束カ
明確ナルコトヲ期シ輕忽ナル財産ノ無償處分ヲ豫防スル趣旨ニ
基ク規定ナレハ完全ナル贈與ノ成立ニハ當事者雙方若クハ少ク
トモ贈與者ノ意思カ書面ニ依リテ明確ニ表示セラレルコトヲ要
ス從テ贈與者ノ意思カ書面ニ依リテ表示セラレサル贈與契約ハ
其贈與者ノ取消ノ意思表示ニ依リテ最初ヨリ全然無効ナリシモ
ノト看做サルヘキモノトス(法新五九四號一四頁四十二年六月
三十日大阪地判)

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル者又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケザリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

一 負擔附贈與者ハ雙務契約ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ受贈者カ其負擔ニ關スル債務ノ提供ナキ迄ハ贈與者ハ贈與ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス(最近判五卷二五頁四十二年五月一日東控判)

第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第二節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或ル財産權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一且取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス(三十五年二卷五三頁大判)

二 賣買ニ於テハ賣主及買主ノ意思ハ通常相手方ノ誰タルト問ハズ單ニ權利ヲ移轉シ又ハ自己ニ取得シ金錢ヲ與ヘ又ハ之ヲ得シ

ト欲スルニ過キサレハ當事者ノ何人ナルヤハ其要素ト爲スニ足ラサルモノトス(四十年二月二十五日大判)

三 葬式ニ關スル物品ノ買入ヨリ生シシ債務ハ何人カ取引ヲ爲シタルニセヨ反證ナキ限りハ其賣主即チ相續人ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス(最近判一卷一〇一頁四十年七月十月東地判)

四 注文者カ材料ヲ供給シテ建具類ヲ製作セシメ其出來ト同時ニ相當ノ金錢ヲ支拂フテ其所有權ヲ取得スルカ如キ契約カ賣買ナルヤ請負ナルヤハ當事者ノ意思カ重キヲ製作セラレタル建具類其物ノ所有權ヲ取得スルコトニ置キシヤ又斯ル建具類ヲ製作スルト云フ仕事其モノニ置キシヤニ依リテ決スヘキモノトス而シテ普通一般ハ製作者カ斯ル品物ヲ製作スルト云フ仕事其モノニ重キヲ置クニ非スシテ唯々注文通リニ製作セラレタル品物ノ所有權ヲ取得スルニアレハ賣買契約トスルヲ相當トス(法新五一八號二二頁四一年五月二八日東地判)

五 賣買ハ單ニ賣主ヨリ買主ニ權利ヲ移轉スルヲ目的トシ請負ハ請負人カ注文者ノ爲メニ仕事ヲ完成スルコトヲ目的トス從テ注文者監督ノ下ニ機械ヲ製作セシメ其引渡ト同時ニ代金ヲ支拂フカ如キハ請負契約ナリ(法新五四八號一五頁四一年十二月廿六日東地判)

六 賣買契約ニ於テ其目的物ノ所有權移轉ニ付キ特約ナキ限りハ

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタルトキヨリ賣買ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ豫約者ト相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

賣買ノ意思表示ト同時ニ目的物ノ所有權ハ買主ニ移轉スヘシト雖モ賣主ニ於テ之カ占有ヲ持續スルトキハ買主ハ未ダ目的物ノ占有ヲ獲得セサルカ故ニ右目的物ニ對スル占有權ハ依然トシテ賣主ニ存スヘク從ツテ買主ハ目的物ノ引渡ヲ請求スルハ格別之ニ對シ占有妨害ヲ排除スル權利ナシ(最近判四卷一頁四一年十二月八日東地判)

七 係爭立木ノ價格ニ比シテ賣買代金カ其五分ノ一ニモ達セサル少額ナル場合ハ人事ノ情態上賣買ニアラスシテ名ヲ賣買ニ假リタル擔保ナリト認ムルヲ適當トス(最近判五卷二七八頁四十二年十月廿八日東地判)

八 賣買代金ハ當該賣買當事者ノ意思如何ニ依リテ定マルヘキモノニシテ必ラス相當價格ニ符合スヘキモノニアラス又亦小作權ノ價格ハ時ノ相物ニ依リ定マリ必ラスシモ該權利ノ將來存續スヘキ期間ニ於ケル純益ノ高ト一致スルモノト云フヲ得ス(法新六二三號一四頁四十二年十二月三日東地判)

一 買賣契約ヲ履行セザル爲メ期間ヲ定メテ催告ヲ受ケルモ該催告期間カ相當ナラストセハ之ニ應ズルト否トハ催告ヲ受ケル者ノ隨意ナルヲ以テ其催告ノ爲メ何等ノ利害關係ヲ及ボスモノニ非ス（法新三六號五頁東地判）

二 買賣ノ一方ノ豫約ニ基キ權利者ヨリ相手方ニ對シテ買賣ノ締結ヲ請求スルコトハ所謂方式ニ屬スルモノナレハ其請求當時ノ法律ニ從フヘキモノトス（三十七年四月八日大判）

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スル迄ハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

一 金錢以外ノ物件ヲ手附トシテ授受シタル場合ニハ必ラズ遲滞ニ付シタル後ニ非レハ手附流ヲ認ムルヲ得ストノ規定ナシ（三十四年五月八日大判）

二 普通ニ用ユル手附金ノ名義ヲ用ヒス契約證書ニ買賣證トシテ受領スル旨ノ記載アル場合ハ當事者ノ意思手附金ニアリスシテ

第五百五十八條 買賣契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十九條 本節ノ規定ハ買賣以外ノ有價契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

賣買 雜部

一 不法ノ相續人カ前手主ノ不動產ヲ自己ノ名義ニ移轉シタル場合ニ於テ其不動產ヲ他人ニ賣却スルモ真正ノ所有者ニ非サルヲ以テ該不動產ノ賣買ハ無効トス（法新二二號八頁鹿兒島地判）

二 或ル期間中契約者雙方隨意ニ解除ヲ爲シ得ヘキ約款ヲ附シタル買賣契約ヲ其儘存在セシメ其代金支拂期日ヲ該期間終了前ニ短縮スルモ當事者ノ隨意ニシテ不適法ノ契約ニ非ス（三十二年一卷二六頁大判）

三 再賣買ノ豫約ハ法律上之ヲ許スヘキモノトス從テ一旦豫約ヲ爲シタル以上ハ法律上時効ニ罹リ若クハ事實上豫約權利者カ明ニ權利ヲ擔塞セサル限りハ之ヲ無効視スルコトヲ得ス（三十三年二卷七〇頁大判）

四 買戻契約ハ必ラズヤ買賣契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ買賣契約ノ後ニ至リテ之ヲ爲ストキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス（三十三年九卷二六頁大判）

五 買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ラズ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得（三十三年九卷二六頁大判）

六 賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス（三十三年十一卷七一頁大判）

七 所有權ヲ有セザル表見相續人ノ爲シタル不動產ノ賣買ハ特ニ法律ニ規定セル場合ノ外其效力ヲ生スルモノニ非ス（三十四年三月二十二日大判）

八 金錢以外ノ物件ヲ手附トシテ授受シタル場合ニハ必ラズ遲滞ニ付シタル後ニ非レハ手附流ヲ認ムルヲ得ストノ規定ナシ（三十四年五月八日大判）

三 期間ヲ定メテ賣渡ノ豫約ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ該四ノ賣買完結ノ意思ヲ表示スルニハ期間内ニ該豫約ノ發送アリシコトヲ必要トス（三十八年六月九日大判）

買賣ノ證據金即チ契約履行ヲ確保スル證據金ナリト推定ス手附金ニアリスト認定セラレタル以上ハ倍額ヲ提供スルモ契約ヲ解除スルコトヲ得ス（最近判一卷一七六頁四十年十一月八日大判控判）

九 世ニ所謂賣渡抵當トハ所有權移轉ノ效果ヲ生スル買戻條件又ハ再賣買ノ豫約ヲ付シタル賣買ニ外ナラス（法新五九號六頁三十四年十月十八日東地判）

十 礦業再賣買ノ契約ヲ取消シ先ニ締結セル礦業買賣契約ニ因リニ付キ受領シタル代金ヲ提供セザルヘカラス（三十四年十一月十一日大判）

十一 數筆ノ田畑ヲ併合シテ賣買シ其契約證ニ掲ケタル合反別ニ僅ノ過不足アルモ其目的物カ適合スル以上ハ該契約ヲ有効ト認ムルニ妨ナシ（三十四年十一月二十七日大判）

十二 被相續人ノ生存中既ニ他人ニ讓渡サレタル地所カ公簿上被相續人ノ名義ナルナ奇貨トシ相續人ヲ欺罔シ保存登記ヲ爲サシメ更ニ相續人ヨリ買受ノ登記ヲ受ケタレハトテ眞ノ所有者ノ權利ヲ喪失セシムルモノニ非ス（三十五年一月二十三日大判）

十三 名ハ土地賣買ナルモ其買罪ノ手段タルニ於テハ其賣買ハ絕對ニ無効ニシテ民法上ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ此無効ノ賣買ニ付キ爲サレタル登記モ亦無効ナリトス（三十五年五卷五八頁大判）

十四 係爭山林ノ登記ヲ經サル先買者ハ均シク登記ヲ經サル他ノ買得者ニ對シ其權利ノ確證ヲ求ムルコトヲ得（三十五年六月四日大判）

十五 住職カ寺院附屬ノ財產ヲ管轄官廳ノ許可ヲ得シテ賣買スルモ其賣買ハ其效力ヲ生セス（三十五年五月三十日大判）

十六 假令裁判所ノ競賣ニ依リ地所ヲ買受ケタル者ト雖モ實際其被競賣者ニ所有權ナク他ニ第三者ニ對抗シ得ヘキ正當ノ手續ニ依テ之ヲ所有スル者アルトキハ其真正ノ所有者ニ對抗スルヲ得ス(三十五年七月二日大判)

十七 法律ニ買戻ノ特約ト稱スルモノハ買戻契約ノ當時賣主ニ其買戻解除ノ權利ヲ留保スルノ特約ヲ指稱スルモノナレハ契約ノ當時賣主ト買戻權ヲ有スル者カ其人ヲ異ニシテ買戻代金ト買戻金ト其額ヲ異ニスル契約ハ買戻又ハ買戻ノ契約ニ非スシテ再買買ノ豫約ナリ(三十八年四月二十四日大判)

十八 債權ノ履行ヲ斷買ナラシムル爲メ債務者所有ノ石炭ヲ賣買名義ニテ其擔保物ノ所有權ヲ一時債權者ニ移スカ如キ契約ハ法

ノ禁セサル所ニシテ此法律關係ノ名義ハ賣買ナルモ其實一種ノ擔保タルニ過キサルモノニシテ固ヨリ法定ノ質權ニアラサルヤ疑ナシトス(三十九年十月五日大判)

十九 賣買ニ付キ相手方カ產權ヲ移轉スルノ意思表示ナキニ拘ラス擅ニ不動産賣買證書ヲ作製シ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スモノニ因テ所有權ヲ取得スルモノニ非ス隨テ其不動産カ數回轉讓シテ登記簿上他人ノ名義ニ變更セラレルモ其轉得ハ元來所有權ヲ有セサル者ヨリ取得シタルモノナレハ登記ノミニ因リテハ其所有權ヲ取得シ得サルモノトス(法新四一六號七頁三十年三月一日宮崎地判)

第二款 買買ノ效力

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ買買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

一 他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シ若クハ他人ノ物件ナルコトヲ知りテ第三者ニ賣渡シタルトキハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ買受ケテ買受人ニ引渡スノ義務アリ(三十三年八月一頁大判)

二 町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ノ所有物ヲ賣買ノ目的ト爲シ之ヲ賣渡スヘキコトヲ締結シタルトキト雖モ契約履行ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス(三十三年八月一頁大判)

三 係争地カ他人ニ屬スル事實アルモ之カ爲メ其土地ニ付キ賣買登記手續カ不能ニ歸スルモノニ非ス(法新九一號八頁三十四年五月二十八日東地判)

四 他人ノ所有物ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ其賣買無効ニ非サルコトハ民法施行前ト雖モ是認セラレタル法理ナリ(三十四年十一月二十八日大判)

五 不動産ノ賣買カ當事者一方ノ冒認罪ニ原因シタル場合ト雖モ

當事者相方ノ間ニ財產權ヲ移轉セシムルコトヲ以テ目的トスルトキハ當然其效力ヲ生セサルモノニ非ス(三十八年十月二十日大判)

六 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ假令其賣買カ犯罪ノ手段ニ供セラルルモ當事者間ノ權利義務ハ一ニ賣買ナル法律行為ノ效力ニ因リテ之ヲ定ムヘキモノトス(四十年四月五日大判)

七 礦業權ヲ讓渡スヘキ契約ハ他人ノ權利ヲ目的ト爲シタル場合ニ於テモ無効ニ非ス(四十一年二月二十八日大判)

八 土地ノ共有者カ甲者ニ對シテ其土地ノ一部ヲ分割移轉シ且登記手續ヲ爲スヘキ契約上ノ債務ヲ有スル場合ニ於テ或共有者カ該部分ノ共有權ヲ乙者ニ賣却シタルトキハ更ニ乙者ヨリ之ヲ買戻シ其共有權ヲ得テ他ノ共有者ト俱ニ契約上ノ債務ヲ履行スルノ責アルモノトス(四十一年六月八日大判)

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知りタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

一 他人ノ不動産ヲ賣買ノ目的ト爲シ所有權移轉登記ノ期日ヲ定メタル場合ト雖モ賣主ハ其期日以前ニ於テ其瑕疵(他人ノ物)ヲ除却シ置クノ準備ヲ要スルモノニアラス唯期日ニ於テ其手續ヲ了シ能ハサリシトキ始メテ義務不履行ノ效果ヲ生スルニ過キス(最近判三卷五一頁四十年六月三十日名古屋控訴民)

モノトシテ賣渡シノ意思表示ヲ爲シ買主ハ其賣買ニヨリ直チニ目的物件ノ所有權ヲ取得シ得ルモノト思惟シ買受ケノ意思表示ヲ爲シタルニ係ラス賣買物件ノ所有權賣主ニ屬セサルカ爲メ買主ハ賣買ヲ爲シタル目的ヲ達スルヲ得サルトキハ其賣買ハ重要ナル事項ニ付キ買主ノ意思表示ニ錯誤アルモノニシテ無効ナリ(法新五三四號一五頁四十年十月二十九日長崎控訴民)

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタル時ハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ買主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタルトキヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

一 民法第五百六十四條ハ買主カ代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ヲ爲シ併セテ損害賠償ヲ請求スル場合ハ勿論單獨ニ損害賠償ヲ請求スル場合ヲモ包含セルモノトス(三十八年十月六日大判)

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

一 民法第五百六十五條ハ賣買ノ目的物ニ一部ノ欠缺アル場合ニ於ケル賣主ノ擔保責任ヲ定メタルモノニ過キサレハ數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ其數量ヲ超過スル場合ニハ賣主ニ代金増額ノ請求權アルコトヲ包含スルノ旨趣ニ非ス(四十一年三月十八日大判)

二 土地ノ賣買ニ坪數ヲ表示スルハ登記簿ト符合セシムルカ爲メ

ニシテ坪數ノ數量ヲ確保スルカ爲メニ非ス從テ坪數ノ數量ヲ確保セントスルニハ特ニ其旨ヲ約スヘキモノトス右ノ如ク普通ノ土地賣買ハ坪數ヲ指示セル賣買ニ非サルカ故ニ縱合實測坪數ニ

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ

買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限り買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル賃貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所

有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 賣買物件カ變色シタルトスルモ長時間ノ經過ニ依ル自然ノ作用ナル場合ニ於テハ所謂性質上ノ瑕疵ト云フコトヲ得ス從テ變色ノ結果商品トシテ普通ノ價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得ストス

ルモ賣主ハ之カ擔保ノ責ニ任スヘキ義務ナキモノトス(法新六一九號一五頁四十二年十一月六日東地民)

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リ

テ告ケサリシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應シテ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

一 民法第五百七十六條ハ買主カ其買受ケタル財產權ノ全部又ハ一部ヲ追奪セラレタルニ拘ラス賣主カ相當ノ擔保ヲ供セザルニ買主ヲシテ其危險ノ限度ニ應シテ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得セシメタル規定ナレハ買主ノ此權利ト賣主

ノ代金支拂請求ニ對スル抗辯權ニシテ其請求ヲ俟テ始メテ行使シ得ヘキモノトス(三十七年四月二十三日大判)
二 不動産ノ買主カ目的物ニ抵當權ノ設定アルコトヲ了知シテ之ヲ買受ケタル事實ト追奪擔保ノ權利ヲ留保スルコトトハ互ニ相

容レサルモノニ非ス(三十八年十月二十日大判)

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ滯除ノ手續ヲ終ハルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但買主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滯除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ買主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三款 買戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セサリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

- 一 賣買ノ目的物カ全然消滅シタルカ又ハ其他絶對ニ賣買ノ目的物タルコト能ハサルニ至リタル場合ニハ其物件賣買ノ約定書ヲ交付スルノ義務ヲ免ルルト雖モ其物件ヲ他人ニ賣渡シ現時之ヲ所有セサルトノ事ハ未タ以テ其義務ヲ免ルルノ理由トスルニ足ラス(三十二年四卷七六頁大判)
- 二 買戻ハ解除權ヲ留保シタル一種ノ賣買契約ニ外ナラス從テ買戻契約ニ因ル損害賠償ハ其賣買ノ解除セラレタルニ拘ラス買主ノ行爲ニ因リ直接履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニ非レハ之ヲ請求スルコトヲ得ス(三十三年一巻四二頁大判)
- 三 買戻ハ賣買契約ノ解除條件トシテ約スルモノナレハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲ササルヲ得ス故ニ賣買契約後ニ於テハ其性質上買戻ノ豫約ナルモノ存スル理ナシ(三十三年二卷七〇頁大判)
- 四 買戻契約ハ必ラス賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後ニ之ヲ爲ストキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス(三十三年九卷二六頁大判)(同意旨三)
- 五 民法施行前ニ於ケル買戻ニ付テハ特種ノ事情ニ依リ特ニ契約ヲ爲シタルカ又ハ慣習アル場合ヲ除ク外賣主ハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スル義務ナシ(三十三年十一

卷四五頁大判)

- 六 買戻ノ特約ヲ結ビタル場合ニ於テ其買戻權ノ實行ニ依リ買受人ニ損害ヲ生スヘキハ買受ノ豫期スル所ニシテ毫モ賣渡人ノ責ニ歸スヘキモノニ非ス(法新一一號八頁三十四年三月二十三日東控判)
- 七 民法施行前ト雖モ不動産ノ買戻ノ特約ハ賣買ノ時之ヲ締結シ且第三者ニ對シテハ賣買ノ登記ト同時ニ其特約ヲ登記シタル場合ニ非レハ法律上所謂買戻ニ非ス(三十七年四月八日大判)
- 八 民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買ヲ爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及契約ノ費用ヲ返還スルニ於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ(三十八年三月十日大判)
- 九 買戻ノ特約ハ賣買契約解除ノ契約ナリ故ニ賣主カ買戻權ヲ行使シタルトキニハ當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フニ止リ其物ノ所有權ハ當然賣主ニ復歸スルモノニ非スシテ唯タ賣主ハ買主ニ對シテ其所有權ヲ移轉セシムル請求權ヲ有スルニ過キス(法新二八二號一〇頁三十八年五月三日東控判)
- 十 民法第五百七十九條ニ於テ買戻ノ特約ニ基キ賣買契約ノ解除ヲ爲シ得ル者ヲ不動産ノ賣主ニ限リタルハ動産ニ關シテハ買戻ノ約款カ第三者ニ對シテ占有力ニ依リテ不動産ニ關スルモノト同一ノ效力ヲ收メ難キニ由ルモノニシテ動産ノ買戻ハ全然ニ
- 禁止シ當事者間ニ於テモ其契約ヲ無効ナラシムルノ旨趣ニ非ス(三十九年一月二十九日大判)
- 十一 不動産ノ買戻ハ民法施行以前ニ於テモ賣主カ賣買契約ト同時ニ其解除權ヲ留保セルモノニ外ナラス(四十一年二月廿一日大判)
- 十二 民法施行以前ニ於テハ不動産ノ賣主カ買戻權ヲ行使スルニハ賣買代金ヲ返還スルノ義務ヲキテ通例トス(四十一年二月廿一日大判)
- 十三 買戻約款付ニテ不動産移轉ノ登記ヲ爲ス際ニ其賣買代金ヲ眞實ノ賣買代金ヨリモ低價ニ記載シテ登記ヲ受ケアリシ該不動産ヲ賣主ヨリ買受ケタル第三者ハ假令其實際取引セル賣買價格ヲ知ラザリシトスルモ登記面上ノ金額ヲ支拂ヒテ買戻ヲ請求シ得ス必ラス其眞正ノ賣買代金ヲ提供セサルヘカラサルモノトス(法新五二九號二二頁四十二年六月廿六日東控判)
- 十四 買戻約款付ニテ建物ヲ買受ケタル者カ該建物ヲ賣主ニ貸貸シタルニ賣主ハ其後該建物賣買契約ノ履行ヲ爲サスシテ之ヲ取拂ヒタル場合ニ於テハ賣主ニ於テ買主ニ對シテ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責アルモノトス(法新五三六號一六頁東地判)
- 十五 賣主カ買主ノ支拂ヒタル代金ヲ返還スル場合ニ利息ヲ附スヘキ特約ハ買戻契約ノ特約ヲ害スルモノニアラス(法新五四三號一二頁四十二年十一月十七日長崎地判)

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之レヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十

年二短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス
買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 期間ヲ定メサル買戻契約ト雖モ公ノ秩序ニ反スルモノニ非ス
(三十二年一卷五三頁大判)
- 二 無期限買戻契約付ノ不動産買渡ハ公ノ秩序ニ反スルヲ以テ該
契約ハ無効ナリトス(法新一七號二頁橫濱地判)
- 三 民法施行前ニ於テハ買戻期限ニ付キ法律上何等ノ規定ナク期
限後何時ニテモ買戻得ヘシトノ條件ヲ以テ自由ニ買戻ヲ爲シ來
レレ慣習アリテ裁判上ニ於テモ一般ニ之ヲ認許セリ(三十五年
三月五日大判)(同主旨三十四年九月二十三日)
- 四 民法施行前ニ於テハ最初定メタル買戻期間ヲ後ニ至リ變更ス
ルハ裁判上認メラレタル慣例ニシテ其變更セラレタル期間ニ付
テモ別ニ制限ナシ(三十五年六月六日大判)
- 五 民法施行前ニ於テ買戻期間ヲ定メス何時ニテモ買戻權ヲ行使
シ得ヘキ旨ヲ約シタルトキハ民法施行後五年間ノ期限ヲ約シタ
ルモノト看做サルヘク若シ當事者ニシテ永久無限ニ買戻權ヲ行
使シ得ヘキコトヲ約シタルトキハ民法施行後十年間ニ短縮セ
ラルヘシ(法新四八九號九頁四十二年三月大阪地判)
- 六 民法五八〇條ニ所謂買戻期間ヲ定メザリシトキハ買戻ヲ爲シ
得ヘキ期間ヲ定メザリシ場合ヲ云フモノニシテ買戻ヲ爲スコト
ヲ得サル期間ノ如キ場合ハ包含セズ故ニ右ノ如ク適法ナル期間
ノ定ナキモノハ期間又ハ條件ヲ附シタルト否トナ問ハス常ニ買
戻ノ特約ノトキヨリ起算シ五年ノ期間満了ニヨリ買戻期間ハ消
滅ス從テ特約ノ時ヨリ或ル一定ノ年月間ヲ經過シタル後買戻權
ヲ行使シ得ヘキ特約ヲ爲シタルトキハ該期間ハ民法五八〇條ノ
所謂期間ニ該當セザルヲ以テ同條三項ニ從ヒ特約ノ時ヨリ五年
内ニ非レハ買戻權ヲ行使スルノ權利ナシ(最近判六卷一六六頁
四十三年三月三十一日東控判)

第五百八十一條 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ
生ス
登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害ス

ル目的ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 現行民法ニ於テハ買戻權ハ一種ノ債權ナリ然レトモ買戻權ヲ
有スル者ハ不動産ノ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得
(三十二年一卷一二頁大判)
- 二 民法施行前ニ在テハ買戻ノ登記アルカ又ハ轉得者ニ於テ買戻
條件附買戻ナルコトヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ直ニ轉得者
ニ依リ直ニ買戻ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノトス(三十五年
三月五日大判)
- 三 (第五百七十九條 七參照)
- 四 買戻約款ヲ附シ土地ヲ買戻スルニ當リ該特約ヲ登記シタルト
キハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買
戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂
七 一個ノ不動産ニ付キ再度ニ爲シタル買戻ノ特約ハ有效ナリ
(法記十八卷五號三九頁)
- 五 買戻特約ノ目的物ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ノ買戻權ノ實行
ハ第三者ニ對シ買戻權ヲ實行セザルヘカラス(法新一五五號一
七頁三十八年東控判)
- 六 明治九年頃ハ不動産ノ買戻契約ニ付第三者ニ對スル登記方法
ナク民法施行後ハ買戻登記ト同時ニアリサレハ買戻ノ登記ヲ爲
シ得サル規定ナルカ故ニ後日ニ於テ單ニ買戻約款ノモノ登記ヲ
請求スルコトヲ得ス(最近判二卷九八頁四十二年四月六日東控
判)

第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スル
トキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動産ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘ
キ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ
買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十三條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非レハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

買主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ賣主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還ス
ルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

- 一 民法施行前ニ於テ不動産買戻ノ特約ヲ爲シタル場合ニアリテモ契約ノ期日ニ賣渡人カ買戻ノ條件ヲ履行セサルトキハ自ラ買戻權ヲ失却シタルモノトス(法新二六號一二頁宮城裁判)
- 二 民法施行前ニ在テハ地所買戻ノ請求ヲ爲スニハ現實其買戻代金ヲ提供シ又ハ之ヲ供託セシムヘキ規定ナキヲ以テ當時ノ契約ニ因リ買戻權ヲ有スル者ハ之等ノ手續ヲ爲サスシテ買戻ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(三十二年十一月二二頁大判)
- 三 同主旨三十二年七月一頁同三十二年七月一〇頁)
- 四 解除條件ノ成就セラレサル以前豫メ代金ノ提供ヲ爲スハ買戻ナル契約ノ性質上固有ノ必要條件ニ非ス(三十四年十一月十五日大判)
- 五 買戻條件附買戻ニ付キ買主カ期限内ニ買主ヨリ買戻代金ノ内入ヲ異議ナク受領シタルトキハ殘金拂入ノ猶豫ナク買戻ノ意思表示ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス(三十四年十一月十五日大判)
- 六 民法施行前ニ於テハ民法第五百八十三條ノ如キ規定ナク單ニ買戻ヲ爲スヘキ意思ヲ表示シ履行ノ場合ニ至リ代金ト引替ヘニ買戻ヲ遂行スル慣習ニシテ裁判上ニ於テモ之ヲ認許セリ(三十五年三月五日大判)
- 七 不動産ノ賣主カ其買戻解除ノ意思表示ヲ爲スニハ之と同時に其代金及契約ノ費用ヲ現實ニ提供スルノ義務アリ(三十五年四月二十三日大判)
- 八 不動産ノ賣主ニ於テ代金ヲ提供シ買戻解除ノ意思表示ヲ爲スモ買主ニ於テ之ニ應ジ所有名義書換等完全ニ所有權ヲ移轉スルノ手續ヲ履行セサルトキハ賣主ハ代金等ヲ買主ニ交付スルノ義務ナシ(三十五年四月二十三日大判)
- 九 買主カ買戻ノ特約ヲ登記セル不動産ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テハ最初ノ不動産買主カ買戻ヲ爲サント欲セハ其第三者ニ對シテ代金等ヲ提供シ買戻解除ノ意思ヲ表示セサルヘカラス從テ既ニ權利關係ヲ離レタル最初ノ買主ニ對シテ其意思ヲ表示スルモ何等ノ效力ヲ生セス(三十九年七月四日大判)(五四〇條参照)

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣アリタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但買主ニ通知セスシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競賣ノ競賣人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ

所有權ヲ取得ス

他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競賣人ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

買戻 雜部

- 一 買戻ノ契約アル物件ヲ買主ニ於テ第三者ニ轉賣シタル場合ニ買戻權利者カ買主ニ對シ買戻ノ約定履行ヲ請求セスシテ直ニ損害賠償ヲ爲スハ不法ナリ(三十四年七月八日大判)
- 二 買戻權者ノ故意又ハ過失ニ因リ買戻ノ目的物ヲ滅失シタルトキハ買戻權ヲ行使セスシテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス(四十年五月十日大判)
- 三 買戻權アル目的物滅失シタルトキ自己ノ行為若クハ過失ニ基カサル限リハ依然トシテ買戻權ハ消滅セス故ニ相手方ノ過失
- 四 因テ其目的物滅失シタル場合ハ先ツ買戻權ヲ行使シ然レ後原狀回復ノ履行不能ヲ原因トシテ損害賠償ヲ求メサルヘカラス買戻權ヲ行使セスシテ直ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(最近判一卷八五頁四十年五月十日東京裁判)
- 五 擔保ノ目的ヲ以テ不動産ノ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタル者ハ約定ノ金額ヲ支拂ヒ其不動産ヲ取戻スコトヲ得(法記第七卷七號二五頁四十年六月五日委員會第一科決議案)

第四節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財產權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ效力ヲ生ス

- 一 身元保證ニ供スル目的ヲ以テ爲シタル無記名整理公債證書ノ貸借ハ消費貸借ニシテ其所有權ハ公債證書ノ交付ト共ニ貸主ヨリ借主ニ移轉スルモノトス(三十三年三月六日大判)
- 二 金錢ノ消費貸借ハ當事者ノ一方同數量ノ金錢ヲ返還スヘキコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢ヲ受取ルヲ以テ其法律行為ノ要素トスルモノニシテ抵當ノ如キハ貸借契約ニ附隨スル一ノ擔保ニ過キサルヲ以テ假令其順位ニ關シ意思表示ニ錯誤アリトスルモ之カ爲メ貸借契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス(三十三年六月二二五頁大判)
- 三 無記名公債證書ヲ貸借シタル場合ニ於テ其法律行為カ消費貸借トナルヘキヤ否ヤハ當事者ノ意思ニ依リテ定マリ其意思如何ハ裁判所之ヲ認定スヘキモノトス(二十四年三月十三日大判)
- 四 賴母子講ニ於テ當藏者カ講金ヲ領收スルヤ異日掛戻ヲ爲ス義務ヲ負フモノナレハ其辨濟方法ハ普通ノ消費貸借ト異ルコトハ勿論ナリト雖モ其權利關係ノ性質ハ消費貸借ナルヲ以テ通例トス(三十五年六月十二日大判)
- 五 賴母子講ノ當藏ニ基因スル消費貸借ノ權利關係ハ債務者タル當藏者ト未當藏者タル他ノ講員トノ間ニ直接ニ成立スルヤ或ハ其關係ハ當藏者ト會主若クハ世話人等トノ間ニ成立シテ而シテ會主若クハ世話人等ト未當藏者トノ間ニ別ニ權利關係ノ成立スルヤハ當事者間ノ契約ニ因リテ定マルヘキモノニシテ法理上一定シタルモノアリコトナシ(三十五年六月十二日大判)
- 六 民法第五百八十七條ノ所謂金錢其他ノ物ヲ受取ルトアルハ貸主ヨリ借主ニ對シ其消滅物ノ所有權ヲ取得セシムル目的トスルモノナリ而シテ所有權ヲ取得セシムル消滅物ノ特定シタルコトヲ前提要件トス(法新一二二號六頁廿五年十月二十四日大判地判)
- 七 無記名公債證書ト未當藏者トノ間ノ法律關係ハ消費貸借ナルヲ以テ其關係ハ未當藏者ニ對シ個々別々ニ成立スルモノニシテ別段ノ契約ナキ限りハ當藏者ハ會主若クハ世話人トノ間ニ成立スルモノニ非ス(法新一三七號一八頁東地判)
- 八 消費貸借ハ借主カ現ニ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ若クハ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキニ非レハ成立セサルモノトス(三十年十月三日大判)
- 九 甲者カ乙者ニ若干ノ金圓ヲ貸付シ其元利金ノ辨濟ヲ受クル爲メ乙者ノ藝妓營業ヨリ生スル收入ノ全部ヲ取得シ之ト同時ニ乙者ノ營業ニ要スル税金其他一切ノ費用ヲ負擔スヘキコトヲ約シタルトキハ其契約ハ消費貸借ヲ包含セル一種ノ無名契約ナリ(三十七年五月五日大判)
- 十 金錢ノ貸借ハ商業ノ爲ニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ

- 他ヨリ金錢ヲ借入ルルカ如キ場合ニ非レハ之ヲ民法行為ト認ムヘキハ當然ナリ(三十八年十一月四日大判)
- 十一 買主カ賣主ニ支拂フヘキ代金ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲シ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ假令其貸借ノ内容ヲ記載セサルモ之カ爲メニ契約ノ成立ニ影響ヲ及ボスコトナキハ勿論該證書ノ記載事項ヲ目シテ實際ノ事實ニ符合セサルモノト云フヘカラス(四十年四月一日大判)
- 十二 民法第五百八十七條ハ必ラスシモ現實ニ金錢其他ノ物ノ授受スルコトヲ要スル旨趣ニアラス故ニ當事者カ簡易ナル手續ニ因リテ其授受ヲ爲スモ借主ニ於テ經濟上同一ノ利益ヲ受クルトキハ消費貸借成立スルモノトス(四十年五月十七日大判)
- 十三 消費貸借ハ要物契約ナルヲ以テ目的物ノ授受アル場合ニ非レハ成立セス(新七九號五頁三十五年三月五日東地判)
- 十四 消費貸借ハ要物契約ナルヲ以テ金錢ノ消費貸借ノ場合ニ在テハ金錢ノ授受ナキ間ハ其契約ハ成立スルモノニアラス(法新八八號九頁三十五年四月二十八日東地判)
- 十五 代替物ノ給付ヲ爲ス義務ヲ負フ者カ之ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ假令現實ニ物ノ授受ナキモ消費貸借ハ成立ス(法新一一號五頁三十五年十月八日東地判)
- 十六 消費貸借ハ要物契約ナルヲ以テ貸主ヨリ借主ニ對シテ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ非レハ成立セサルモノトス(法新一一二號六頁三十五年十月二十四日大判地判)
- 十七 金錢ノ消費貸借ハ金錢ノ授受ニヨリテ成立スレトモ其授受
- ハ必ラスシモ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要セス相手方ヨリ受取ルヘキ金圓アル場合ニ於テハ之ト貸與スヘキ金圓トナ差引キ相殺シ以テ現實ノ授受ニ代ラシムルコトヲ得(法新四五號一號六頁京城控判)
- 十八 消費貸借ノ成立ニハ當事者間ニ金錢其他ノモノヲ現實ニ授受スルノ必要ナク簡易ノ引渡ヲ以テ之ニ代フルモ妨ケナキモノトス(四十一年五月四日大判)
- 十九 消費貸借ノ事實ナキニ拘ラン公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ其消費貸借ノ效力ヲ生スヘキモノニアラス從テ其消費貸借ニ基ク抵當權ノ設定モ亦效力ヲ有セス(法新五二七號一三頁東地判)
- 二十 當事者カ現ニ引渡スヘキモノヲ所持セサルモ既ニ成立シタル消費貸借及ヒ其不履行ニ因リテ金錢其他ノモノヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立スルモノトス(四十一年五月四日大判)
- 二十一 競落ノ方法ニ依ル無記名公債證書ハ普通金融ノ必要上不利利益ノ競落ヲ爲シ之ヲ借用スルモノナレハ其性質消費貸借ナリトス從テ其拂戻ハ特別ノ事由アルニ非レハ之ヲ以テ各個獨立ノ債務ナリト云フ能ハス(四十一年十月十五日大判)
- 二十二 消費貸借ノ成立ニハ物ノ占有讓渡ヲ必要トスレトモ其所謂占有ノ讓渡トハ必ラスシモ消費貸借成立ノ際當事者間ニ現實物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要セス苟モ法律カ認メテ以テ占有ノ讓渡

同一ノ效力ヲ生ズトナセル事實アレハ足ルモノトス(法新五五七號一頁東地判)

二十三 或ル議會ニ於テ組合類似ノ契約ヲ爲シ各議員ヨリノ掛金ハ各議員ノ共有ナリトスルモ抽籤其他ノ方法ニ依リ役員ノ名ニ於テ其掛金ヲ議員ニ貸付ク一定ノ方法ヲ以テ掛返ヘシテ爲サシムヘク議員間ニ於テ特約ヲ爲シ得ヘキモノトス(法新五七二號一頁四十二年四月廿七日東地判)

二十四 金錢ノ消費貸借ハ金錢ノ授受ニ依リ成立スルモノナルモ必シモ現實ニ之ヲ授受スルヲ必要トセス當事者カ簡易ニ其授受ヲ爲シ借主カ經濟上現實授受ニ同一ノ利益ヲ受クル以上ハ消費貸借ノ成立スルニ於テ毫モ欠クル所ナキモノトス(法新五七五號一〇頁四十二年五月一日東地判)

二十五 多額ノ金額ヲ僅カニ日後ニ辨濟期ヲ定メ借受クルカ如キハ急迫ナル金錢ノ必要アル場合ノ外普通爲ササル所トス又貸金供給契約ノ存在セル場合ニ於テ該契約ノ當事者間ニ貸金アルトキハ反證ナキ限り該貸金供給契約ニ基キ貸與シタルモノト認ムルヲ相當トス(法新五九五號九頁四十二年七月六日東地判)

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

一 舊商法第九百九十九條ニ所謂從來負擔シタル債務トアル中ニハ

民法第五百八十八條ノ如キ法律ノ擬制ヲ以テ消費貸借ト看做ス

ヘキモノト雖モ事實從來負擔セル債務ナル以上ハ總テ之ニ包含スルモノトス(三十四年三月二十七日大判)

二 民法第五百八十八條ノ消費貸借ハ連帶債務者全員カ各消費貸借以外ノ原因ニテ代替物ノ給付ノ義務ヲ負ヒ居ルコトヲ要セス其中一人又ハ數人カ其義務ヲ負ヒ居リテ他人カ之ニ加ハリ連帶債務者ト爲リ一ノ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ全員ニ對シテ消費貸借ノ成立スルモノトス(法新一一號五頁三十五年十月八日東地判)

三 民法第五百八十八條ノ法則ハ民法施行前ニ於テモ一ノ條理トシテ是認スヘキモノトス(三十六年四月三十日大判)

四 當事者間ニ消費貸借以外ノ原因ニ依ル債務カ存在セルモノトシテ之ヲ目的トシテ消費貸借ヲ成立セシメントスルコトヲ約シ而モ原債務カ存在セザリシ場合ニ於テ該契約ノ效力ヲ判定セシムニハ表意シタル當事者ノ意思問題ヲ審究セザルヘカラス從テ其意思ノ如何ヲ確定セス原債務カ存在セザリシトノ一事ヲ以テ消費貸借ノ效力ヲ生セザルモノナリト云フコトヲ得ス(法新五三三號一六頁四十二年十月八日東地判)

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隱レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之

二十六 現實ニ金錢ノ授受セザルモ當事者間ニ授受スヘキ金錢債務ヲ以テ消費貸借ノ目的ニ供シ得ヘキハ民法ノ解釋上疑ヲ容ル所トス(法新六三號一四頁四十二年二月二十四日大阪控判)

二十七 消費貸借ハ要物契約ナリト雖モ當事者ニ於テ簡易ナル手續ニ依リ其授受ヲ爲シ借主ニ於テ經濟上現實ノ授受ト同一ノ利益ヲ得ルニ於テハ消費貸借ハ之ニ因リ完全ニ成立スルモノナリ(法新六四三號一頁大阪地判)

二十八 當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ負擔シタル工事請負金并ニ夫夫貸支拂債務ニ付キ金錢貸借ニ關シ一般ニ作成セル證書ト同一ノ形式ヲ有スル借用證書ヲ差入レタルトキハ右債務ヲ目的トシテ消費貸借ノ合意ヲ爲シタルモノト認定スルコト相當ナルノミナラス其新舊兩債務ニ付キ數額ヲ異ニスヘキ譯合ナキヲ以テ工事請負金并ニ夫夫貸支拂債務ノ總額ハ借用證書記載ノ金額ト同一ナリシモノト認定サルヘシ(法新六四七號一頁鹿兒島地判)

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

五 民法第五百八十八條ハ現物ノ授受ヲ成立要件トスル普通ノ消費貸借ニ對スル例外ヲ示シタルモノニシテ其適用ハ主トシテ現物ノ授受ヲ成立要件トセザル他ノ債務目的ヲ以テ直ニ消費貸借ノ目的ト爲ス場合ノ規定ナレハ消費貸借ニ因ラスシテトアル文句ニ拘泥シテ之ヲ消費貸借以外ノ債務ノ目的物ニ關シテノミ適用スヘキモノナリト解スヘカラス(法新六二〇號一二頁大阪地判)

六 約束手形ノ所持人カ商法第五百二十九條第四百八十七條ノ手續ヲ履行セザル間ニ於テハ裏書人ハ金員ヲ給付スルノ義務ナケレハ民法第五百八十八條ニ依リ其手形上ノ義務ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲スコトヲ約スルヲ得ス(四十二年十二月廿四日大判)

七 消費貸借以外ノ原因ニ依リ金錢其他ノモノヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ現實ニ物ノ授受ヲ要セス右意思表示ノミニヨリテ成立スルモノトス(法新六四三號一頁大阪地判)

ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

消費貸借 雜部

- 一 神社ノ神官若クハ寺院ノ僧侶ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキハ必ラス氏子檀家ト協議ヲ爲シ總代二名以上ノ連署ヲ要ス若シ此連署ナキトキハ該貸借ヲ以テ神官僧侶ノ私債ト看做スヘキモノトス(三十二年一卷四二頁大判)
- 二 消費貸借契約カ消費貸借豫約ノ一部履行ニ因リ成立シ同契約ノ期限ヲ以テ其期限ト爲ス場合ニ於テハ消費貸借豫約ニシテ解除セラレ全ク無効ニ屬スルトキハ別段ナル理由存セサル限り之ニ基キ成立シタル消費貸借契約ノ期限モ亦當然無効ニ歸スルモノトス(三十六年六月四日大判)
- 三 當事者カ利息制限法ニ超過セル利息ヲ授受スヘキコトヲ約スルモ其合意ハ固ヨリ不法ニシテ之ニ基キ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得ス故ニ其債務關係ヲ以テ目的ト爲シタル消費貸借ハ全然無効ナリトス(三十七年十二月二十日大判)
- 四 普通ノ無盡講ニ於テ其世話人タル者ハ一定ノ期日ニ開會ノ手續ヲ爲シ講員ヨリ掛金ヲ徵集シ之ヲ當籤者ニ交付スヘキハ其當然ノ義務ニシテ普通無盡講ニ於テ見所ノ顯著ナル事實トス(法新四九七號一九四四年三月廿七日東控判)
- 五 舊消費貸借ノ元利金ヲ新消費貸借ノ目的ト爲シ消費貸借契約ヲ爲シ得ルモノトス又利息制限法ニ違反セシ利子ト雖モ當事者カ合意上之ヲ元本ニ組入レ其元本ニ對シ更ニ有效ニ制限内ノ利子ヲ附スル契約ヲ爲シタル時ハ該契約ハ有效ノモノトス(法新五八四號九頁四十二年五月十四日宮城控判)
- 六 無盡講ニ於テ雖ニ因ル當籤者カ抽ニ因ル當籤者ニ比シ少額ノ金額ヲ受領スヘキ講則アリトスルモ是レ畢竟金錢ノ需用ヲ感スルコト急ナル者カ多少ノ損失ヲ以テ他人ニ先チ金錢ノ融通ヲ受ケント欲シ自己ノ希望ニ依リ甘シテ少額ノ金額ヲ受領スルニ外ナラザレハ此一事ヲ以テ其損失ヲ招クト否トカ偶然ノ出來事ニ因リテ決セラルヘキ當籤類似ノ者ナリト云フヲ得ス又無盡講ノ會主ト債權者タル他ノ講員全員ト協議上會主カ自己ノ名ニ於テ債務者即チ掛金ヲ忘リタル講員ヨリ掛金債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得ヘク債務者ハ會主ニ對シテ債務ノ履行ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メ債務者之ヲ承諾セル一種ノ法律行為存スル場合ニ於テハ其會主タル者カ自己ノ名ヲ以テ掛金取立ヲ爲シ得ヘキモノトス(法新六〇六號一〇頁四十二年七月十日東控判)

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

- 一 民法第五百九十一條ニハ期限ノ契約ナキ消費貸借ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ヲ求ムルコトヲ得トアリテ別ニ其催告ノ方法ニ定ナキカ故ニ支拂命令ニヨリ十四日ノ期間内ニ辨濟ヲ督促スル場合モ同條ノ相當期間ヲ定メタルモノトシテ有效ナリ(最近判一卷一六六頁四十年十月十五日東控判)
- 二 消費貸借ノ當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ如何ナル方法ニ依ルモ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲シ得ルモノトス從テ督促手續ニ依リ其催告ヲ爲スモ違法ニ非ス(四十年二月七日大判)
- 三 消費貸借ニ付キ返還期限ヲ定メサリシトキハ民法第五百九十一條ニ依リ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ之カ返還催告ヲ爲スヘシト雖モ借金證ニ「右金借用候處云々何時成共返還可仕候」トアリテ其文詞上貸主ノ請求次第何時ニテモ返還スヘキ約諾アリト認メ得ラルル場合ハ同條ノ適用ヲ受ケス貸主ハ之カ請求ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告スルノ必要ナシ(最近判三卷一〇三頁四十年九月廿八日宮城控判)

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用貸借

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或ル物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

- 一 無記名公債證書ヲ貸借シタル場合ニ於テ其法律行為カ消費貸借ト爲ルヤ否ヤハ當事者ノ意思ニ依リテ定マリ其意思如何ハ裁判所之ヲ認定スヘキモノトス(三十四年三月十三日大判)
- 二 無記名公債證書ノ貸借ハ使用貸借ナリトス隨テ其公債證書ノ所有權借主ニ移轉セサルヲ以テ借主ノ所有物トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ス(法新一八號一二頁名古屋控判)

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス
借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出シタル費用ノ

償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 貸貸借

第一款 總 則

第六百一條 貸貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或ル物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方

カ之ニ其貸金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 他人ノ土地ヲ使用スル場合ニ於テ假令地主カ該土地ノ修繕費ヲ負擔スルモ其一事ノミチ以テハ該當事者ノ關係ハ貸貸借ナリト云フヲ得ス(法新八號四頁三十二年十月八日東控判)

二 地所使用ノ權利ニ付テハ其性質如何ニ拘ラス從來概シテ借地ナル文字ヲ使用シ來リタルヲ以テ假令其契約書ニ「貸借致候」ナル文字アルモ該文字アルノ故ヲ以テ直ニ貸貸借契約ナリト云フヲ得ス(法新八號五頁三十二年十月十五日東控判)

三 他人ノ土地ニ工作物ヲ所有スル者ト雖モ當事者間ニ於テ貸貸借契約ヲ爲スノ意思明ナル以上ハ地上權者ト推定スルヲ得ス(三十三年十二月十一日東控判)

四 土地ノ貸貸借契約證ニ借地料ナル文詞ノ使用セラレ居ル一事ヲ以テ該契約ハ貸貸借ナリト云フヲ得ス(法新二二號六頁東控判)

五 借地權ノ性質ハ民法上ノ用語ヲ了解シテ契約シタルモノト認メラルル場合ハ格別ナレトモ單ニ借地證ニアル貸借ノ文字ノニヨリテ之ヲ定ムルコトヲ得ス(三十四年七月五日大判)

六 貸貸借契約ナルモノハ當事者カ或物ノ使用收益ト貸金トヲ互ニ對價トシテ給付スル意思ヲ確然表示スルトキハ假令貸金ノ取極メナキモ成立スヘキモノナリト雖モ當事者ハ貸金ノ取極メヲ爲ササル間ハ貸貸借關係ノ約束ヲ受ケルノ意思ナキヲ普通ノ狀態トスルヲ以テ貸金ノ取極メナキ間ハ當事者ノ約束ヲ爲サントスルノ意思明確ナラサルモノト云ハサルヘカラス故ニ貸貸借契約ナキモノト云フヘキナリ(法新五三號六頁東地判)

七 貸貸借ニ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方ハ之ニ其貸金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リ成立スルモノニシテ貸貸人カ其者ニ對シ所有權又ハ其他ノ權利ヲ有スルト否トハ契約成立ノ要件ニ何等ノ消長ヲ及ボサス(三十九年五月十七日大判)

八 貸料ヲ得テ漁業權若クハ其共有持分ヲ他人ニ貸付スル契約ニハ民法貸貸借ノ規定ヲ準用スヘキモノトス從テ此契約ニ付スルニ貸貸借ノ名稱ヲ以テスルモ妨ケナシ(四十年三月十六日大判)

九 函館港ヨリ露領ヲ經テ東京灣ニ回航スヘキ船舶貸借ノ契約證

書ニ其船舶ヲ使用シ物品ノ運送ヲ約シタル趣旨ノ記載ナク借主ハ其船舶ヲ貸主ニ引渡スヘキ旨ノ記載アルトキハ借主ニ於テ其船舶ヲ占有ノ上使用シ得ヘク且ツ同契約證書中ニ函館ヨリ露領ヲ經テ東京ニ入ルヲ終點トシテ貸借期限ニ一定ノ年月日ヲ定メ期限以後ハ日割ヲ以テ賃料ヲ支拂フ旨ノ記載アルトキハ假令其船舶乘組員ノ食料航海費其他ノ費用ヲ船主ニ於テ負擔スルコトヲ約シ而モ其船長以下乘組員カ船主ノ雇入レタル者ニ係ルトキト雖モ該貸借ハ請負契約ノ性質アル備船契約ニアラスシテ船舶ノ貸借ナリト認ム(最近判三卷七〇頁四十二年五月廿四日東大判)

十 地料貸地料若クハ地代等ノ文言カ證書中ニ存在スルヲ以テ直

チニ其借地關係チ地上權若クハ土地ノ貸借契約ト斷スルコトヲ得サルモノトス(法新五七三號一六頁四十二年五月四日東大判)

十一 賃貸料ナル文字ハ賃貸借ノ關係ニ於テ使用スルヲ正確ナル用例トスルカ故ニ其文字ノ使用如何ニヨリ借地權ノ性質ヲ判斷スルノ一資料タルヲ妨ケスト雖モ普通ノ取引ニ於テハ必スシモ正確ナル用例ニ從フヘキモノニ非サルカ故ニ他ノ事情ヨリ推シテ反對ノ解釋ヲ下シ得ヘキモノトス(法新五八九號一一頁四十二年七月九日東大判)

十二 契約ト同時ニ借貸全部ヲ支拂フモ賃貸借タルコトヲ妨ケス(法記十九卷九號二九頁)

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テ其賃貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借ハ十年
- 二 其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年
- 三 建物ノ賃貸借ハ三年
- 四 動産ノ賃貸借ハ六箇月

一 民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ因リ抵當地所チ賃借スルモ其賃借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルヲ得ス故ニ其

抵當權ノ實行トシテ抵當地所チ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ賃借人ハ其競落ノ通知ヲ受

ケルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス(三十八年一月二十日大判)

二 民法第六百二條ニ掲ケタル賃貸借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス(四十年十月十日大判)

三 抵當權ヲ設定スル土地ニ對シ民法第六百二條ニ定メタル期間

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間滿了前土地ニ付テハ一年內建物ニ付テハ三箇月內動産ニ付テハ一箇月內ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 賃貸借ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

一 民法ニ於テハ賃貸借ノ最長期間ヲ二十年トセラレシヲ以テ家屋ノ存續期間カ之ニ超エ從テ賃貸借契約期間モ二十年ヲ超ユヘキニ至ルトキハ當事者間ノ契約ハ固ヨリ法律ノ認メタル期間

總則 雜部

一 建物ノ賃貸借ト土地ノ賃貸借トハ全然別個ノ法律關係ヲ有ス而カモ建物ノ賃貸借ニハ當然賃借人ニ其敷地及ヒ庭園ノ如キ附屬地ノ使用ヲ爲サシムル結果ヲ生スルモノ之レ只使用ノミニシテ

第二款 賃貸借ノ效力

其間ニ賃貸借若クハ使用賃借等ノ法律關係等ノ成立スヘキモノニ非ス(法新四九號一〇頁四十二年二月八日大阪控判)

ニ短縮セラレ其範圍內ニ於テノミ效力ヲ生スヘキハ論ナキ所トス(法新五七一號一九頁東大判)

チ超過セル賃貸借契約ヲ爲スモ該契約ハ無効ニ非スシテ唯々其超過部分ニ付テノミ抵當權者ニ對抗シ得サルモノトス而シテ右ノ如キ土地ニ對スル抵當權者カ其權利ヲ實行シ該土地カ競賣サレタル場合ニ於テハ競落人ハ其ノ土地ノ賃借人ノ權利ヲ認メサルヘカラサルモノトス(法新五二八號一五頁浦和地判)

第六百五條 不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

- 一 物權若クハ所有者ニ追隨シ得ヘキ權利ニアラサル賃貸借ノ如キハ契約當事者ニ非サル者ニ對シテ對抗スルコトヲ得サルモノトス（法新二號七頁東地判）
- 二 家屋賃借ニ付テハ登記アルニ非レハ賃借人ハ賃借後新ニ其家屋ヲ買受ケタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（法新一四號八頁東地判）
- 三 民法第六百二條第三號ノ期間ヲ超エタル賃貸借ハ假令登記アルモ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（法新一〇六號九頁三十五年八月二十七日東地判）
- 四 賃貸借ハ債權債務ノ關係ニシテ民法第六百五條及ヒ第三百九十五條ノ規定ニ該當スル場合ノ外其效力ハ當事者間ニノミ生ジ
- 五 第三者ニ及ハサルヲ原則トス（三十六年十月三十日大判）
- 六 登記セサル地所ノ賃貸借ハ爾後該地所ニ付キ所有權ヲ取得シタル者ニ對抗シ得サルヲ以テ借地人ハ新所有者ニ對シ爾後其地所ヲ使用スル權利ナキモノトス（法新四七八號四頁四十年一月二十二日東地判）
- 七 借地人ト原所有者間ニ成立セル借地契約カ一ノ債權關係ニ過キサル場合ニ於テハ借地人ハ新所有者カ其借地關係ヲ知悉セリトノ一事ヲ以テ新所有者ニ對シ其借地權ヲ以テ對抗シ得サルモノトス（法新四八八號六頁四十年二月二十一日東地判）

第六百六條 賃借人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ

賃借人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 地主ニ於テ下水道下水工事井戸工事其他本戸便所等ノ建設ニ要スル費用ヲ支出シ來リタル事實アルニ於テハ右地主ト借地人トノ關係ハ地上權ニ非スシテ賃貸借關係ナリ假令三十二年法律第七十五號ニ依リ地上權者ト推定セラレルモ斯ハ反證ニヨリ覆ヘサルモノトス故ニ前掲ノ事實アル以上ハ推定ハ打破セラレ
- 二 賃借人ハ所有者ニ於テ賃貸物ノ修理ヲ擔任スル義務ヲ負フハ通例ナルモ之ニ異ル特約ヲ爲スヲ妨ケス故ニ所有者カ土地ニ對シ修繕ノ修理ヲ加フルモ之カ爲メ賃貸借ニアラスト云フヲ得ス（三十七年十一月二日大判）

三 雙務契約ノ時當事者ノ一方カ自己ノ債務履行ヲ拒ミ得ル場合ハ相手方ヨリ債務履行ヲ受ケサル時ニ限ル故ニ一旦賃借物件ノ引渡ヲ受ケシ以上ハ縱令賃借人カ修繕ノ義務ヲ盡ササルモ契約ノ履行ニ妨ケナシ

ノ賃料支拂ヲ拒ム權利無シ但シ其義務ノ強要損害ノ要債契約ノ解除權ハ別ナリ（最近判一卷二六頁東地判四十年二月十三日判決）

第六百七條 賃借人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ

賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 賃借人カ賃借物ニ付キ賃借人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタルトキハ賃借人ニ對シテ

直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出シタルトキハ賃借人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ

其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃借人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少ナキ收益ヲ得タルトキハ其

收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

- 一 賃借人カ賃料ノ減額ヲ請求シ得ヘキ場合即チ賃借物ノ一部減
 - 失中ニハ賃借人カ賃借物ノ一部ヲ擅ニ奪取シタル場合ハ包含セ
- ス（最近判一卷二五頁東地判四十年二月十三日判決）

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルト

キハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百一十一條 貸借物ノ一部カ貸借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルトキハ貸借人ハ其滅失シタル部

分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ貸借人カ借賃ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ貸借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一 貸借契約ニ於テ貸借人カ物ノ引渡ヲ受ケタル後貸借人カ貸借物ノ占有ヲ奪フモ貸借人ハ貸料減額ヲ請求スルヲ得ス貸借借

第六百一十二條 貸借人ハ貸借人ノ承諾アルニ非レハ其權利ヲ讓渡シ又ハ貸借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

貸借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ貸借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ貸借人ハ契約

ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一 貸借人ハ貸借人ノ承諾ヲ經サレハ其賃借權ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ轉貸スルヲ得ス(三十二年一月八日大判)

二 貸借人カ貸借人ノ承諾ナクシテ貸借物ヲ更ニ第三者ニ轉貸シタルトキハ其法律行為ハ轉賃借トシテハ成立セザルモ賃借人ト第三者トノ間ニハ賃借借トシテ成立シ當然無効ナルモノニ非スシテ唯々貸借人ヨリ賃借人ニ對スル契約解除ノ原因タルモノトス(四十年五月二十七日大判)

三 貸借人ハ貸借人カ賃借物ヲ轉貸シタル上第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ契約ヲ解除シ得ヘキモノニシテ單ニ賃借人カ第三者ヲシテ使用收益ヲ爲サシメタルニ止マリ轉貸ノ事實ナキ場合ニ於テハ契約ノ解除ヲ爲ス權利ヲ有セス(法新四九五號七頁四十一一年二月八日大判)

四 漁業權賃借人カ貸借人ノ同意ヲ得スシテ其權利ヲ他人ニ移轉シタルトキハ貸借人ニ於テ直チニ其賃借契約ヲ解除シ得ル旨ハ假令其實質カ假裝ニシテ内賃借金ノ擔保ニ供シタルモノナリトスルモ之ヲ以テ第三者タル貸借人ニ對抗シ得サルカ故ニ貸借人ハ之ヲ原因トシテ契約ヲ解除シ得ルモノトス(法新四九九號六頁山形地民判決)

五 民法第六百一十二條ニハ貸借人ハ貸借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得スト規定セルヲ以テ貸借人ノ承諾ヲ得スシテ爲シタル轉賃借契約ハ當然無効ナリ(法新五一三號一頁四十一一年七月七日千葉地民)

六 賃借人ハ貸借人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得サルモノナレハ貸借人ノ承諾ナキ轉賃借契約ハ全然無効ナリ(法新五四號一頁四十二年二月五日東地民)

七 賃借人カ貸借人ノ承諾ヲ得スシテ賃借物ヲ第三者ニ轉貸スル場合ニ於テハ貸借人ハ轉借人トノ間ニ直接ノ權利關係ヲ生ゼシムル效力ヲ生ゼサルモ賃借人ト轉借人トノ間ニハ其物品ヲ使用セシムル契約有效ニ成立シ賃借人ハ單ニ賃借人ニ對シ賃借借契約ヲ解除スル權利ヲ有スルニ過キス(法新五五八號一頁四十二年二月九日長崎控民)

八 賃借人ハ貸借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ他ニ讓渡スコトヲ得サルハ民法第六百一十二條第一項ニ明定スル所ナリ然リト雖モ賃借人ニ於テ貸借人ノ承諾ヲ得スシテ賃借借ヲ他ニ讓渡シ得ル旨ヲ特約シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ非ス(法新五五九號一〇頁四十二年二月十三日東地民)

九 民法第六百一十二條第一項ニ所謂賃借人ハ貸借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡スルコトヲ得サル旨ノ規定ハ公益規定ニ非サレハ賃借人カ此ノ規定ニ反シテ其權利ヲ讓渡シタルトキハ當然無効トナルモノニ非ス唯賃借借契約ヲ解除シ得ル原因タルニ外ナラサルモノトス(法新五七四號一頁名古屋控民)

第六百一十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ貸借人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ

此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ貸借人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ貸借人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

一 民法第六百一十三條ノ「賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ貸借人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此ノ場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ貸借人ニ對抗スルコトヲ得ス前項ノ規定ハ賃借人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス」トノ規定ハ轉借人カ適法ニ所有タル事實ヲ知リテ轉借シタル場合ニノミ適用スヘキ規定ナルヲ以テ其事實ヲ知ラサル轉借人ニ對シテハ所有者タル貸借人ハ直接家賃ヲ請求スル權利ナキモ

受人ハ之ニ依リテ完全ニ權利ヲ取得スルモノナルモ其讓渡ニ付
貸貸人ノ承諾ヲ經サレトキハ其讓受人ハ貸貸人ニ付シ其讓受ケ
ヲ對抗スルヲ得サルモノトス然レトモ是レ貸貸人ヨリ賃借人ニ

第六百十四條 借貸ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコ
トヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滞ナク
之ヲ賃借人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃借借ニ
之ヲ準用ス

效力 雜部

一 賃借ノ目的タル家屋カ徵發令ニ依リ使用ノ爲メ徵發セラレ
タル場合ニ於テハ賃借人ノ爲メ賃借契約ヲ解除スルノ權利發
生スルニ止リ當然其契約ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス(三十三
年十卷一三頁大判)

二 徵發令上ノ賠償金ハ徵發ノ爲メ生スル損害ヲ賠償スル目的ヲ
以テ支給セラレルモノナレハ賃借人モ所有者ト同シク徵發ノ爲
メニ損害ヲ被リタルトキハ其賠償金ノ分與ヲ受クル權利アルモ
ノトス(三十三年一〇卷一三頁大判)

三 民法第二百三十四條及ヒ同法第二百六十七條ハ土地ノ所有者

對シ之ヲ原因トシテ賃借契約ヲ解除スルノ權ヲ有スルニ過キ
サレハ之ヲ以テ賃借權ノ讓渡ニ制限ヲ加ヘタルモノト云フヲ得
ス(法新六四〇號十六頁)

四 借地料ニ付キ土地ノ盛衰ニ從ヒ増減スヘキ約束アリタルトキ
ト雖モ其増減ノ額ヲ定ムルニハ物價昇降公課ノ増減及ヒ隣地ノ
比較等ニヨリ之ヲ決スヘキモノナレハ假令賃借人ニ於テ増額ノ
通知ヲ爲スモ賃借人ニ於テ承諾ヲ爲ササルトキハ賃借人ハ其増
額ノ部分ニ付テハ請求スヘキ權利ナキモノトス(法新一八號一
一頁東控判)

五 公課ノ増徴其他ノ理由ニヨリ土地所有者ノ收支相償ハサルト
キ借地人チシテ契約ノ效力ノ變更ヲ爲サシムヘキ權利チ土地所
有者ニ認メタル法律ナシ(法新四一號一九頁東地判)

六 契約ノ變更ハ契約ニ因リテ原則トス故ニ賃借人ノ承諾ヲ經ス
シテ賃借人ノ爲シタル地代増加ハ不法ナリトス(法新四四號一
三頁三十四年六月十三日東地判)

七 賃借人ハ賃借人ニ對シ物件ヲ使用セシムル義務ヲ負フモノナ
レニ賃借人占據ヲ奪ヒ若クハ賃借關係ヲ存續セシメシテ該
物品ヲ第三者ニ賣却シ之カ爲メ賃借人チテ使用ヲ爲サシメサル
ハ賃借人ノ爲スヘキ義務ヲ履行セサルモノトス(法新四六號八
頁東控判)

八 賃借契約ニ基ク債務不履行ニ依ル損害賠償權ハ其使用ヲ爲
サシメサリシ事實ニ因リテ發生スルモノトス從テ將來被告ニ於
テ使用ヲ爲サシムルニ適セシムルトキハ毫モ損害ヲ生スルモノ
ニ非ス(法新四四六號八頁東控判)

九 賃借人ハ賃借契約解除以前ニ於テハ賃借人ニ對シテ敷金ヲ
以テ家賃ノ支拂ニ充當セントテ請求スル權利ナキモノトス又
賃借人ハ賃借契約解除ニ先テ家屋ノ明渡ヲ請求スルハ不當ナ
リ(法新七四號一〇頁三十五年一月二十七日東地判)

十 土地ノ賃借ニ於テ後ニ至リ土地ノ價格又ハ公租カ増加スルト
キハ貸主ハ相當ノ額ニ地代ヲ増加スルコトヲ得借地人カ之ヲ承
諾スヘキ慣習カ東京市内ニ行ハルルコトハ顯著ナル事實トス

(法新九二號五頁三十五年五月三十一日東地判)

十一 土地ノ盛衰ニ從ヒ合意ナキニ地代ヲ増減スルハ東京市内ノ
慣習ニアラス(法新九六號六頁三十五年五月三十日東地判)

十二 無期限ニテ宅地ヲ借受ケタル後租稅ノ増額其他正當ノ事由
生シタル場合ニ於テ地主ヨリ借地料ノ増加ヲ求メ得ヘキコトハ
一般ノ慣例ナリ(三十五年六月十三日大判)

十三 公租公課カ増加シタルトキハ地主ハ比隣ニ準シ相當ノ額ニ
地代ヲ増加スルコトヲ得ルハ東京地方ニ行ハルル一般ノ慣例ナ
リ(法新一一號一三頁三十五年十月四日東地判)

十四 公租公課ノ其他ノ事實變更ニ伴ヒ地主ハ地代ノ増加ヲ請求
シ得ルモノトス(法新四四二號一八頁四十年七月十日大阪地
判)

十五 賃借人カ賃借物ノ引渡ヲ受ケ現實賃借人ノ爲メニ之ヲ占有
スルトキハ不法行為ニ因リテ占有ヲ妨害スル第三者ニ對シ占有
訴權ヲ行使スルコトヲ得(三十八年四月十四日大判)

十六 土地ノ賃借人カ其借地ノ形狀ニ甚大ナル變更ヲ與ヘタルト
キハ土地ノ賃借契約ヲ當然解除スト見得ヘキ規定ナキチテ
斯ル事實アルモ賃借契約ハ法律上當然解除スルモノト云フヲ
得ス(法新四九一號一八頁四十一年三月十一日東地判)

十七 東京市内ニ於テ土地賃借以來其土地カ漸次繁盛ニ趨キ公
租公課亦増加シ且ツ其近隣ノ地代著シク騰貴シタル場合ニ於テ
ハ賃借人ハ賃借人ノ地代相當値上ノ請求ニ應スヘキ義務アルモ
ノトス(法新五六五號一三頁四十二年三月二十九日東地判)

十八 建物ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル借地人ハ其土地ノ比隣地代ノ増加土地ノ繁榮又ハ公租公課ノ増徴ヲ理由トシテ貸主ヨリ相當地代ノ増加ヲ請求サレタル場合ニ於テハ之ニ應スヘキ義務アルコトハ東京市内ニ於ケル慣例ナリ(法新五六九號一頁四十二年四月七日東地判)

十九 差配人ハ其本人ノ代理人トシテ或者ト家屋落成後建築費用ノ多寡ヲ斟酌シ相當ノ家賃ヲ以テ其家屋ヲ貸付クヘキ契約ヲ爲シ得ヘキモノトス而シテ此ノ契約ニ基キ借家人トナルヘキモノカ其差配人ニ對シテ其ノ契約ノ履行ヲ求ムル場合ニ於テハ差配人ハ之ニ應スヘキ義務アルモノトス(法新五九一號九頁四十二年七月九日東地判)

二十 存續期間ノ定ナキ土地賃借契約ノ存スル場合ニ於テ其目的地ノ公租公課増徴セラレ又ハ地價騰貴スル等地利額ヲ定ムル標準タルヘキ重要事實ニ著シキ變動ヲ發生シタル場合ニ於テハ借地人ハ地主ノ地利増加ヲ請求ニ應スヘキ義務アルコトハ一般慣習法ノ認ムル所ナリ(法新五九六號九頁大阪地判)

二十一 貸與人ヨリ賃借物件ノ所有權ヲ讓受ケタル者カ自己ノ權利ヲ主張シ該契約ノ無効ヲ原因トシテ其登記ノ抹消ヲ求ムル場合ニ於テハ登記名義人即チ賃借人ノミカ其抹消登記ノ義務者タルヘキモノトス(法新六二三號一五頁大阪地判)

第三款 賃借ノ終了

第六百十七條

當事者カ賃借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ三箇月

三 貨席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

一 土地ノ明渡ニ一ケ年ノ期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定ハ當事者間ニ賃借關係存在シテ其期間ヲ定メサリシトキ當事者ノ一方ヨリ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノ

一 土地ノ明渡ニ一ケ年ノ期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定トス(三十二年一〇一〇頁大判)

二 建物ノ賃借ニ於テ期限ノ定メナキトキハ賃借人ハ賃借人ノ解約申入告知後三ヶ月ノ期間滿了ニ依リ既ニ終了シタルモノナ

ルニ依リ賃借人ハ明渡ノ義務アルモノトス(法新一三號八頁東區判)

三 民法第六百十七條ノ規定ハ當事者ノ利益ノ爲メニ規定シタルモノニシテ必ラスモ此期間以下ニ下スナササルモノニ非ス當事者カ其利益ヲ拋棄シテ可能ノ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ無効ト爲ササルヘカラストノ主意ニ非ス(法新四七號八頁東地判)

四 入用ノ節ハ速ニ明後スヘシトノ文詞アル賃借契約ニ於テハ相手方何時ニテモ賃借ヲ終了セシムヘキ時期ヲ定メテ解約申入ヲ爲シ得ヘキモノトスル趣旨ト爲ササルヲ得ス(法新五七號七

頁三十四年十月四日東地判)

五 家屋ノ賃借主カ義務履行ヲ爲ササル爲メ賃借主ハ相當ノ期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルニ猶債務者ニ於テ履行ヲ爲ササルコトアルモ契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルニ非レハ賃借主ハ之ヲ以テ直ニ其家屋ノ明渡ヲ請求スルヲ得サルモノトス(法新七一號一一頁三十五年一月十三日東地判)

六 民法第六百十七條ノ規定ハ契約期間ノ定メナキ場合ニ於テ義務ノ不履行ヲ原因トセサル契約解除ノ規定ニシテ債務不履行ヲ原因トシテ契約ヲ解除スル場合ニ適用ナシ(法新四九八號二〇頁四十二年四月廿六日東地民判)

第六百十八條 當事者カ賃借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ準用ス

一 民法第六百十八條ノ規定ハ單純ナル賃借ニシテ期間ノ定メアルモ當事者ノ一方ニ於テ解約ヲ爲スノ權利ヲ留保シ特ニ其條

件ヲ設ケサルカ爲メ殆ト期間ノ定ナキト同一ナル場合ニ適用スヘキモノナリトス(三十七年三月十七日大判)

第六百十九條 賃借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ借用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃借借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ係リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃借借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

一 民法第六百十九條ノ貸借ノ更新アリタリト推定スルニハ前貸借終了後引續キ當事者間ニ於テ引續キ前契約ヲ繼續スル意思アリト推定シ得ヘキ事實アル場合ナルヲ要ス前後ノ貸借期間ニ多少ノ時日ヲ存スルトキノ如キハ該推定ノ根據ヲ失フコトト爲ルヲ以テ新ナル貸借成立シタリト認ムルヲ穩當トス(最近判例二卷一三六頁四十一一年四月十二日東控判)

二 鮭漁ヲ目的トシテ船舶ノ貸借ヲ爲シタルトキハ其鮭漁ニ要スル季節ヲ斟酌シテ期間限ヲ定メタルモノニシテ假令期間後ヲ使用ニ船主カ異議ヲ述ヘサリシトスルモ期間後ハ同趣旨ヲ以テ

契約ヲ更定スルノ意思ナキモノト解スルヲ相當トス故ニ此場合ニ於ケル期限後ノ賃料ハ特別ノ事情ナキ限りハ義務不履行ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求ノ原因ト爲スヘシ(最近判三卷七一頁四十二年五月廿四日東控判)

三 貸借ノ當事者カ契約ノ當時ニ於テモ其期間満了ノ際ニ於テモ契約ヲ更新スル意思ナキトキハ縱令其期間満了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用ヲ繼續シ賃借人カ之ニ異議ヲ述ヘサリシトテ民法第六百十九條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス(四十二年二月十五日大判)

第六百二十條 貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

一 貸借契約解除ノ場合ニ於テ貸借人ヨリ賃借人ニ返還スヘキ敷金ニ對シテハ當然利息ヲ附スルコトヲ要ス而シテ之ヲ附スヘキ時期ハ解除ノ時ヨリトス(三十五年四月十七日大判)

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ貸借ニ期間ノ定メアルトキト雖モ賃借人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入レヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ貸借ニ之ヲ準用ス

貸借ノ終了 雜部

一 土地ノ貸借契約ノ期限中其土地ニ在ル建物ヲ他人ニ賣却スルモ契約ヲ解除セサル以上ハ貸借關係ハ當然消滅スルモノニ

非ス從テ賃借人ノ自ラ其土地ヲ使用セサルモ賃借人ニ對シテ借地料支拂ノ義務ヲ負フモノトス(三十七年九月二十九日大判)

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 一定ノ期間他人ト同居シ一定ノ勞務ニ服スヘキコトヲ目的トシタル契約ハ其結果諸約者ノ自由ヲ束縛スルヲ以テ無効ナリト云フヘキモノニ非ス何トナレハ凡ソ勞働ヲ諸約シタル者ハ其諸約ノ結果トシテ多少自由ノ束縛ヲ受ケサルモノナシ故ニ一定ノ年月間一定ノ場所ニ於テ藝技營業ヲ爲ササルヘカヲサレコトヲ約スルモ該契約ハ無効ニ非ス(三十四年十月十日大判)

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

一 民法第六百二十四條第二項ノ規定ハ勞務者カ約旨ニ基キ勞務ニ服シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ其債務ヲ履行セサルニ拘ラス期間中ノ報酬ノ請求權ヲ有ストノ法意ニ非ス(三十八年五月十日大判)

二 雇傭契約ニ於ケル期間ヲ以テ定メタル報酬ノ請求ヲナスニ付テ其期間内勞務ヲ供セサルニ付キ被傭者ニ過失ナキ限りハ必スシモ已ニ勞務ニ服シタルコトヲ要件トスルモノニアラス(法新六四一號十六頁四十三三年三月二十八日神戸地判)

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコト

ヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ經過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三箇月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ雇傭ハ契約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六箇月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三箇月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知りテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第

六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或ル仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 契約ニ因ル債權ハ契約ニ因リテ發生シ請負契約ハ請負人カ或ル仕事ヲ完成スルコトヲ約シ注文者カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ成立ス(法新一九號九頁東裁判)

二 賣買ハ單ニ賣主ヨリ買主ニ權利ヲ移轉スル目的トシ請負人カ注文者ノ爲メニ仕事ヲ完成スル目的トス從テ注文者監督ノ下ニ機械ヲ製作セシメ其引渡ト同時ニ代金ヲ支拂フカ如キハ請

負契約ナリ(法新五四八號一五頁四十二年十二月廿六日東地判)

三 電氣ノ供給契約ナルモノハ電氣業者カ其需用者ニ對シ一定ノ光力ヲ送付スルコトヲ約シ需用者カ其光力送付ノ結果ニ對シ一定ノ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニヨリテ成立スル契約ナレハ請負契約ナリトス而シテ一般請負契約ニ於テハ請負人ノ負フヘキ義務ハ仕事完成ニ止マルヲ以テ特約ナキ限り送電者ニ何等契約ノ負

増ナキモノトス唯送電者ニ故意又ハ過失ノ責ムヘキモノアリテ
因テ以テ需用者ノ身體若クハ財産ヲ害シタル場合ニ於テハ不法
行為ノ制裁ヲ受クコトアルヘキニ止マリテ決シテ送電契約ノ違
反トナルヘキモノニ非ス尙ホ送電契約ニ於テハ送電ノ不完全仕
事完成ノ充分ナラサル場合ニ契約不履行ノ責アルノミトス又運
送契約ニ於テハ其目的タル指定物ヲ毀損滅失スルコトナク現狀
ノ儘完全ニ一定ノ場所ニ送付スルヲ契約ノ内容トスルモノナレ
ハ物ノ保管ハ之ト離ルルヘカラサル關係ヲ有スルモノトス(法

新六〇一號一三頁四十三年十月廿一日大判)
四 電燈業者カ電燈供給契約ヨリ生スル當然ノ效果トシテ其供給
ノ設備ニ付キ瑕疵擔保ノ義務ヲ負フモノナルヲ否ヤテ判定スル
ニハ先ツ該契約ノ内容特ニ屋內線等ニ付キ如何ナル約定ノ存ス
ルヤテ明カニセサルヘカラス之ヲ以テ單ニ請負契約ナリト論斷
シ去テ事實ヲ顧ミサルハ不法ナリ(四十二年四月二十一日大
判)

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セザルト
キハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

一 工事請負金ニ付テハ特約ナキ限りハ其工事ノ完成スルマテ先
取特權ヲ實行スルコトヲ得ス即チ該債權ハ工事完成ヲ條件トス
ルモノニシテ完成前ニアツテハ未タ完全ナル債權ノ體様ヲ備ヘ
サルモノトス故ニ假令右請負金ノ請求權ヲ讓渡シ注文者タル債

務者カ之ニ承諾ヲ與ヘタリトスルモ其讓渡サレタル債權ハ依然
條件ノ儘移付セラレシモノ故讓受人カ其債權ヲ實行センニハ矢
張リ仕事ノ完成セシ事實ナカルヘカラス(最近判二卷八六頁四
十一年三月十日名古屋控判)

第六百三十四條 仕事ノ目的ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ其瑕疵ノ修
補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ
在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百
三十三條ノ規定ヲ準用ス

一 仕事ニ瑕疵アリタル場合ニ於テ注文者カ請負人ニ對シ其修補
ヲ請求スルトキハ相當ノ期間ヲ與ヘキモノナルモ仕事ノ修補
ニ代ヘテ損害賠償ヲ要スルトキハ相當ノ猶豫ヲ與フルコトナク

直ニ之カ請求ヲ爲シ得ルモノトス(四十二年四月二十七日大
判)

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルト
キハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ
與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ
知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引
渡シタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス
第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ
責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ
第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸

長スルコトヲ得

二九四

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一 民法第六百四十一條ハ請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ請負契約ヲ解除シ得ルモ其解除ヨリ生ズル損害ハ之ヲ賠償ノ責ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ注文者カ
契約ノ解除ヲ爲スノ條件トシテ先ツ其損害賠償ノ提供ヲ爲サ
レハ解除ノ意思ヲ表示シ得サルコトヲ規定シタルモノニ非ス
(三十七年十月一日大判)

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

請負 雜部

一 請負人ノ材料ヲ以テ注文者ノ地上權ヲ有スル土地ノ上ニ建築物其他工作物ヲ設クヘキ請負ヲ爲シタル場合ニ於テハ仕事ノ結果其材料ヲ土地ニ附着セシムルヤ否ヤ當然其所有權カ注文者ニ移
轉スルモノニ非スシテ請負人ヨリ注文者ニ對シテ建築物又ハ工作物ヲ引渡スニ因リテ始メテ移轉スルモノトス(三十七年六月二十二日大判)

二 請負人ニ對シテ工事全部ノ下請負ヲ爲シ内金ヲ受取リタル者カ不當ニ其工事ヲ完成セサル爲メ更ニ他人ヲシテ職工事ヲ爲サシメタル場合ニハ其完成ニ必要ナル費用ニシテ請負人ノ損害ニ歸シタル金額ハ下請負人ニ於テ之ヲ補償スヘキ責務ヲ負フモノトス從テ請負人ハ過渡金ノ取戻ヲ請求スルノ外損害賠償ノ權利ナシト斷定シタル判決ハ不法ナリ(三十九年三月十九日大判)

第十節 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ズ

一 仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生ズ(三十三年一卷四八頁大判)
委任者カ他人ノ取次ヲ以テ法律行爲ヲ爲スコトヲ委任者ニ委任シタル場合ト雖モ其委任ニシテ他人ノ專恣ニ因ラサル限りハ
委任者カ直接ニ委任シタルト同一ニシテ中間ニ立入りタル他人カ委任者ノ代理ヲ任設シタルトノ口實ヲ藉リ委任者ニ於テ其關係ヲ脱シ得ヘキニ非ス(三十七年三月三十日大判)

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

一 多數委任者カ受任者ニ對シ委任事務執行中取得シタル金錢ノ引渡ヲ請求スル場合ニ於テ別ニ反對ノ意思表示アラサル限り多數委任者ノ權利ハ之ヲ平等ノ割合ナリト看做スヘキモノナリトス(三十三年六卷一四三頁大判)

二 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル物ヲ委任者ニ引渡ス義務ノ目的物ハ其性質得替物ノ種類ニ屬スル場合ト雖モ當事者間ニアリテハ既ニ特定シタルモノト同視スヘキハ通例ナリ(三十四年三月五日大判)

三 委任者カ代理人ニ對シ其受取リタル金錢ノ引渡ヲ請求シタル

第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任者カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

一 依頼者カ委任事務ノ中途ニシテ辯護士ヲ解任シタル場合ニ於テ反對ノ契約ナキ限りハ辯護士ハ依頼者ノ爲メニ既ニ費シタル勞力ノ割合ニ應スル報酬ヲ請求スルコトヲ得ルニ止リ委任事務完了ノ場合ニ對シテ豫定シタル報酬全部ヲ請求スルコトヲ得ス(三十一年一巻六四頁大判)

二 民法第六百四十八條第二項ノ規定ハ受任者カ其委任セラレタル法律行為ヲ爲シタル後ニ非レハ其報酬ヲ請求シ得サルノ旨趣ニシテ委任者ニ對スル一切ノ義務ヲ履行シタル後ニ非レハ其請求ヲ爲シ得サルノ旨趣ニ非ス(三十六年十月三十一日大判)

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ終了スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代リテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

一 營業資本借入ノ如キハ營業ニ關シ最モ重大ナル事項ナリト雖モ營業ニ關スル一切ノ事項ヲ委任セラレタル場合ニハ其委任事

項中ニ包含セラレタルモノト認定スルヲ相當トス(法新三號八頁東控判)

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

- 一 辯護士ト依頼者トノ關係ハ委任ニ因リ代理關係タルニ外ナラサルヲ以テ依頼ハ何等ノ理由ヲ明示スルヲ要セス辯護士ヲ解任スルコトヲ得ヘシ(三十一年一卷六四頁大判)
- 二 民法上委任ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノト認ムヘカラサル

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

- 一 受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ若クハ賣却スルニ付

キ何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス(三十八年十一月三十日大判)

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 委任ニ依リ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リ當然終了スヘキモノニシテ受任者ニ於テ其死亡ノ事實ヲ知りタルト否トヲ問フ處ニ非

サルヲ以テ民法第六百五十四條ニ所謂急迫ノ事情アル場合ニ非サルハ受任者カ委任事務ヲ處理スヘキ權限ヲ有セサルモノナル

ニ債權讓渡ヲ通知ノ如キハ特別ノ事情ノ存セサル限りハ同條所定ノ場合ニ該當セス又指名債權ノ讓渡ハ債權者ノ通知又ハ債務者ノ承諾アルニ非サレハ債務者ニ對抗スルヲ許ササル所以ノモノハ債務者ニシテ讓渡ノ事實ヲ知ルニ非サレハ讓渡人ヲ眞ノ債權者ト信シ辨濟ハ勿論更改其他債權ニ關スル種々ノ行為ヲ爲シ

不測ノ損害ヲ蒙ルコトアルヘキヲ感シタルニヨリ從テ債務者ニシテ其事實ヲ知ルニ於テハ右ノ危險ナキヲ以テ債務者カ承諾ノ意思表示ヲ爲スニ債權讓渡人タルト讓受人タルトヲ問ハサルモノトス(法新五六八號一頁名古屋地判)

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知りタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其ノ相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行為ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

委任 雜部

- 一 執達吏カ有體動産ヲ差押ヘ之ヲ保管スルハ債權者ノ委任ニ基クモノナリト雖モ同ト之レ法律ノ規定ニ從ヒ其職務上當然爲スヘキ事柄ニシテ普通ノ代理關係ヲ以テ論スヘキモノニ非サルノミナラン犯罪行為ハ委任事項ノ範圍外ナルカ故ニ執達吏ノ犯罪行為ニ付テハ債權者其責ニ任セス(三十三年六卷六八頁大判)
- 二 取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣買又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ付テハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻害シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス(三十三年六卷一四三頁大判)

- 三 代理委任ハ必ラスシモ書面ヲ以テスルヲ要セス訴訟記録中委任ノ事實ヲ認ムヘキ事實アルヲ以テ足ル(三十四年四卷八六頁大判)
- 四 無盡講員等カ契約ヲ以テ其講ノ會長又ハ世話人ノ如キ役員ヲ定メ之ニ其一己ノ債權トシテ無盡講掛金ヲ裁判上取立ツル權能ヲ付與シタルキハ會社又ハ世話人ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ講員ニ對シ拂込ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス(三十四年六月六日大判)(同趣旨三十四年五月九日、三十七年一月十二日三十七年三月十日)

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 寄託ハ要物契約タル性質ヲ有スルモノニシテ寄託契約ニ因リテ金銭ヲ給付スル債務ヲ負フ者カ之ヲ寄託名義ト爲スノ意思表示ヲ爲スモ之カ寄託ノ關係ハ成立スルコトナキモノトス (法新四七號九頁東裁判)

二 民法施行前ニ在リテハ金銭其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其債務者ト債權者トカ之ヲ以テ寄託ノ目的ト爲スコトヲ契約スルトキハ寄託契約ハ成立シタリ (三十四年十一月二十一日大判)

三 寄託契約ハ履行契約ニ屬スルモノナルヲ以テ目的物ノ交付ナクシテ爲シタル契約ハ寄託契約トシテハ成立セザルモノトス (法新七八號一〇頁三十五年二月二十七日東裁判)

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七百七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責任ニ任ス

一 無償ニテ寄託ヲ受ケタルモノハ其寄託物ノ保管ニ關シテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スノ義務ヲ負フ事ハ法理ノ當

然ナリ (三十二年六卷四三頁大判)

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタル

トキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但

寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラサリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

- 一 記名有價證券ニ名義切換ノ如キ事項ヲ委任セル自紙委任狀ヲ添付シテ他人ニ寄託スル場合ハ寄託者カ反對ヲ立證セサル限りハ其有價證券ヲ擔保ニ差入ルルカ將タ融通通川ヲ認容シタリト認ムヘキヲ相當トスルヲ以テ受任者カ民法第三百六十三條ニ因リ其證券ヲ第三者ニ交付シ之ニ質權ヲ設定スルモ毫モ不法ニ非ス(法新七五號七頁三十五年二月五日大阪地判)
- 二 金錢ノ寄託ハ寄託者ニ於テ特ニ其使用禁止ノ意思ヲ表示セザル以上ハ暗黙ニ其使用ヲ許シタルモノト看做スヘキモノトス(法新九四號五頁三十五年六月六日東控判)
- 三 民法第六百六十六條ハ既ニ成立シタル寄託ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ消費寄託ノ成立ニ關シテモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ(三十六年七月七日大判)

寄託 雜部

一 寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中等ノ物質ヲ有スル物ヲ以テ返還スヘキモノナリトノ法則又ハ寄託物ハ中等ノ物質ヲ有スルモノト推定スヘシトノ法則

二 契約上ノ債務者ハ契約ノ本旨ニ從ヒ之ヲ履行スル義務アルコトヲ得ス(三十五年十二月二十日大判)

- 一 以テ共有物ノ受寄者カ契約ニ關係セサル受寄者ノ一人ニ其物ヲ引渡シタリトテ其債權者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ消滅セシムル效力ヲ生ゼス(三十七年四月二十一日大判)
- 三 受寄ノ金錢ヲ費消シタル者ハ其金錢カ何人ノ所有ニ屬セシヤチ問ハス寄託者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フニ過キヌ又從テ其眞所有者ハ被告ニ對シテ賠償ヲ請求スルノ權ナシ(三十七年六月七頁大判)
- 四 受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ返還スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非レハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス(三十八年十一月三十日大判)

五 物品ノ寄託契約ニ於テ寄託者ノ指圖ニヨリ其倉庫及ヒ設備等ヲ定メ而シテ物品ノ寄託ヲ受ケタル場合ニ其物品カ腐敗若クハ毀損シタルトキハ保管者ニ於テ其保管ニツキ不適當ナル倉庫又ハ設備ナルコトヲ知得セルニ不拘之ヲ告知セサル場合ハ格別然ラサル場合ニ於テハ其責任ヲ負フヘキモノニ非ス(法新五一五號二三四四一年七月十日東控判)

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財產ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

- 一 組合契約ニ於テハ組合員ノ出資ハ總組合員ノ共有ニ屬スルヲ以テ組合員ハ其支出シタル出資ニ付テハ組合財產トシテ唯々之ニ適應スル持分ヲ有スルニ過キヌ又組合員ノ持分ノ處分ニ付テハ民法第六百七十六條(民法第六百七十六條組合員カ組合財產ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其ノ處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス組合員ハ清

算前ニ組合財產ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス)ニ於テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルヲ得ストノ制限ヲ設ケシヲ以テ總シ組合契約ニ於テ組合員カ他ノ組合員ニ對シ違約賠償トシテ其ノ持分ヲ無償ニ讓與スルコトヲ約スルモ其ノ持分ハ清算ニ至ルマテハ依然組合財產トシテ存續シ毫モ組合ノ運命ニ影響ヲ及ボスカ如キ結果ヲ生スルコト無キモノトス(法新五三二)

號一三頁四十二年九月十九日靜岡地判)

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ業務ハ前二項ノ規定ニ拘ラス各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

一 組合員ノ一人ト第三者トノ間ニ成立シタル法律行為ヲシテ他ノ組合員ニ對抗スル效力ヲ生セシメンニハ組合員間ニ特別ノ意思表示アラサル限り必ラスヤ民法第六百七十條ノ規定ニ依ルヘキモノトス(四十年六月十三日大判)

二 組合ニ屬スル債權ハ組合員ノ一人ニテ其履行ノ訴ヲ提起スルヲ得サルハ勿論ナルモ若シ組合規約ニヨリ其一人ヲシテ自ラ債權者トシテ債權ヲ實行セシムルコトヲ定メタルトキハ此ノ規約ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得(法新五三三號一五頁名古屋控判)

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ

正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得又解任セララルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ

狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應ジテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラサリシトキハ各組

合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合

ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

一 組合契約ニ於テハ組合員ノ出資ハ總組合員ノ共有ニ屬スルヲ以テ組合員ハ其支出シタル出資ニ付テハ組合財産トシテ唯之ニ適應スル持分ヲ有スルニ過キス又組合員ノ持分ノ處分ニ付テハ民法第六百七十六條(民法第六百七十六條)組合員財産ニ付キ其ノ持分ヲ處分シタルトキハ其持分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス)ニ於テ組合及組合ト取引

ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルヲ得ストノ制限ヲ設ケシテ以テ總シ組合契約ニ於テ組合員カ他ノ組合員ニ對シ違約賠償トシテ其持分ヲ無償ニ讓與スルコトヲ約スルモ其ノ持分ハ清算ニ至ルマテハ依然組合財産トシテ存續シ毫モ組合ノ運命ニ影響ヲ及ホスカ如キ結果ヲ生スルコトヲナキモノトス(法新第五三三號一三頁四十二年九月十九日靜岡地判)

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續

スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル

場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メタル時ト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アル時ハ脱退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 死亡

二 破産

三 禁治産

四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況

ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲

ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準

用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

組合 雜部

一 株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ過キサルヲ以

テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラルヘキモノニ非ス
(三十一年一一卷一一頁大判)

二 組合員相互間ニ於テハ各利害關係ヲ異ニスル場合ニハ當事者ノ一方カ相手方又ハ當事者雙方ノ代理人トナリ一人ニテ其意思表示ヲ爲シ契約ヲ締結スルコトハ民法第八條ノ禁止スル所ナリ從ツテ一人ノ者カ組合全員ヲ代表シテ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ該公正證書ハ無効ナリ(法新五二一號一五頁大阪地判)

三 當座組合ニ於テハ清算手續ヲ爲スヘキ法規存セサレハ組合員ハ此ノ如キ清算手續ヲ履マズシテ各自組合ノ損益ヲ計算シ以テ組合關係ニ基ク自己ノ債權ヲ主張シ得ヘキモノナレハ其債權ハ組合事業タル請負工事ヲ完成シ請負金ノ全部ヲ收得シタル日ヨリ行使シ得ヘキモノナリ(法新五四三號一五頁四十二年十一月二十六日大判)

四 事務管理ハ管理者ト本人トノ關係ニ於テハ債務發生ノ原因ニ

過キスシテ管理者ノ爲シタル行爲ニ付テノ第三者ト本人トノ關係ハ一ニ代理ノ法則ニ依リ支配セラルルモノトス而シテ商行爲ノ代理ハ代理人ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示スヲ要セスト雖モ代理人ニ於テ本人ノ爲メニスル意思ヲ以テ其行爲ヲ爲スニ非サレハ本人ニ對シ其效力ヲ生セシムルヲ得ス(法新五六〇號一頁四十二年一月廿七日長崎地判)

五 組合員ノ出資ハ組合員相互ノ權利義務ニ關スルモノナルカ故ニ其出資額ニ付キテモ組合契約ニ別段ノ定メナキトキハ更ラニ組合員間ニ於ケル契約ヲ以テノミ之レヲ確定シ得ヘク組合ノ業務ヲ執行スヘキ權利ノミヲ有スル業務執行者ハ其ノ執行ノ範圍ニ屬セサル出資額ヲ確定スルカ如キ重且大ナル權利ヲ有スルモノニ非ス(法新五七九號一〇頁四十二年六月三日東地判)

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期金、金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨ

リ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 損害賠償事件ハ人事訴訟ニ於ケル婚姻事件ノ如キ和解ヲ許シ得サル性質ノモノニ非サルヲ以テ假令其事件カ如何ニ錯雜ナ極ムルモ和解ヲ許ササルノ限ニ非ス(三十七年四月十五日大判)

二 債權者及ヒ債務者カ互ニ讓歩スルコトナク唯々債務者ハ既ニ負擔セル債務ノ殘存ヲ承認シ債權者ハ其辨濟延期ノ承諾ヲ爲シタル場合ニハ民法上ノ和解ニ該當セス(三十九年六月八日大判)

三 株式讓渡人カ株式競賣ノ違法タルコトヲ知ラスシテ其競賣不足額ハ當然支拂義務アルモノト信シ債務ニ付キ毫モ爭フ所ナク會社ニ對シ專ラ減額ノ懇談ヲ試ミ其承諾ヲ得タル場合ハ民法ノ所謂和解ニ該當セス(四十年十一月一日大判)

四 普通使用スル示談ナル語辭ニハ和解ノ如ク當事者雙方カ其主張スル所ヲ互ニ讓歩シテ爭ヲ止ムルコトノ外當事者ノ一方ノミ

其主張ヲ抛棄又ハ減殺シ裁判ニ依ラスシテ事件ヲ完結スルノ意
義ヲモ包含セルモノトス(四十一年一月廿日大判)

第六百九十六條

當事者ノ一方カ和解ニ依リテ争ノ目的タル權利ヲ有スル者ト認メラレ又ハ相手方カ

之ヲ有セサル者ト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有

セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

一 和解契約ニシテ苟モ有效ニ成立シタル以上ハ假令後日ニ至リ
解ノ效力ヲ失フコトナシ(三十七年十月一日大判)

其和解ニ關スル事實ニ錯誤アルコトヲ發見スルモ之カ爲メニ和

和解 雜部

八日大判)

一 和解ハ當事者ノ能力ニ欠缺アルカ又ハ其目的カ法令ニ違背ス
ル場合ニ於テハ何等ノ效力ヲ生スルコトナシ(三十七年七月

第三章 事務管理

第六百九十七條

義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人

ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知りタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲

スコトヲ要ス

第六百九十八條

管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務

ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル

責ニ任セス

第六百九十九條

管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ

之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條

管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續

スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ

此限ニ在ラス

第七百一條

第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

トヲ得

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノ前二項

ノ規定ヲ適用ス

一 第三者カ買主ノ爲メ賣買代金ノ一部ヲ事務管理的ニ辨濟シタ

ル後ニ至リ該買買契約カ解除セラレタルトキハ買主ニ對シテ事

務管理ニ基ク有益費用償還ノ請求權ヲ有スルモ賣主ニ對シ不當
利得ニ基ク債權關係ヲ有スルモノニ非ス(法新三五五號七頁三

十九年二月七日東控判)

二 他人ノ爲メニ株金ノ拂込ヲ爲シタル者カ其任意ニ基ツキタル場合ニ於テハ民法第六百五十條第一項ノ規定ニ依リ其株金ノ拂込ヲ爲シタル日ノ翌日ヨリ其ノ利息ノ償還ヲ請求シ得ルモノナ

事務管理 雜部

一 事務管理人ハ管理行爲ノ外必要ノ場合ニ於テ本人ノ意思ニ反セサルトキハ處分行爲モ亦之ヲ爲スコトヲ得(三十二年一一卷一一八頁大判)

二 民法上事務管理ニ關スル規定ハ公法人ニ適用スヘカラサル旨ノ規定ナキノミナラス町村制ニ於テモ亦之ヲ除外シタリト認ムヘキモノナシ(三十六年十月二十二日大判)

三 事務管理人カ自己ノ名ヲ以テ其相手方ト爲シタル法律行爲ノ直接ノ效力ハ常ニ兩者間ニ止リ相手方ト本人トノ間ニ及ブコト

レトモ若シ事務管理ノ爲メナルトキハ必要費ヲ支出シタル場合ニ於テモ其ノ支出ノ時ヨリ立替金ニ對シテ利息ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス(法新五〇七號一三頁四十二年六月十五日大判)

ナシ(三十七年五月十二日大判)

四 事務管理ハ管理者ト本人トノ關係ニ於テハ債務發生ノ原因ニ過キスシテ管理者ノ爲シタル行爲ニ付テノ第三者ト本人トノ關係ハ一ニ代理ノ法則ニ依リ支配サルルモノトス而シテ商行為ノ代理ハ代理人ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示スヲ要ヤスト雖モ代理人ニ於テ本人ノ爲メニスル意思ヲ以テ其行爲ヲ爲スニ非サルハ本人ニ對シテ其效力ヲ生セシムルヲ得ス(法新五六〇號一一頁四十二年一月二十七日長崎地判)

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及

ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

一 債權者カ債務者ノ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利益ヲ取得シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ廉アリシ爲メ損害ヲ被ムリタルモノアレハ不法行爲ト云フヲ得ヘキ

モ不當利得ト云フヲ得ス(三十二年九卷一一五頁大判)

二 不當利得ノ返還ハ請求ノ當時現存スル利益ノ限度ニ依ルヘキモノニ非スシテ其得タルトキノ利益ノ存スル限度ニ依ルヘキモノ

ノトス(三十三年一卷一一頁大判)

三 債權者ニ於テ抵當地ヲ買受ケ債務ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ其ノ買價カ無効ニ歸シタルトキハ債權者ハ無償ニテ其地所ヲ返還スルモ其債權ハ自然ニ復活シ抵當權ノ復舊ヲ求ムルコトヲ得從テ債務者ハ不當ノ利得ヲ受ケルモノニ非ス(三十三年一卷六八頁大判)

四 確定判決ノ執行ニ因リ支拂ヒタル金額ハ該確定判決カ再審ノ訴ニ因リ取消サレサル限りハ假令其金額ハ訴訟前既ニ支拂ヒタル確定アルモ不當利得ヲ理由トシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス(三十五年九月二十九日大判)

五 法律上ノ原因ナクシテ他人ヨリ金錢ヲ取得シタルトキハ其金錢ハ之ヲ消費スルト否ト其消費ノ方法ハ生産的ナル否トニ關セズ其取得シタル利益直接又ハ間接ニ存スルモノト看做スヘキモノトス(三十五年十月十四日大判)

六 民法第七百三條ニ謂フ法律上ノ原因トハ權利ノ得喪變更ノ原因タルヘキ法律行爲若クハ占有時効等ノ如キモノヲ指シタルモノニシテ支拂命令又ハ之ニ基ク假執行命令ノ如キハ之ニ包含スルコトナシ(三十五年十月三十日大判)

七 支拂命令ニ基キ給付ヲ受ケタルモノト雖モ異議ヲ申立ニ依リ其命令カ效力ヲ失ヒ且命令ノ基因シタリシ事由存在セザリシ以上ハ其給付ハ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナルヲ以テ之ヲ返還スヘキモノナルヲ勿論ナリ(三十五年十月三十日大判)

八 他人ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テハ抵當

權設定ノ無効ナルハ勿論假令抵當權者カ抵當物件ヲ競賣ニ付シ競落代金ヲ受領スルモ其競賣ニ因リテ所有權移轉ノ效力ヲ生スル筋合ナク從テ眞ノ所有者ニ損害ナクシテ眞ノ所有者ト抵當權者トノ關係ハ不當利得ノ規定ニ該當セス(三十六年七月十日大判)

九 地上權者カ土地所有者ニ地代ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔セル場合ニ其支拂ヲ爲サスシテ土地ヲ使用スルモノヲ以テ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ利得シタルモノト謂フヲ得ス從テ此ノ場合ニハ不當利得ノ法則ヲ適用スヘキモノニ非ス(三十六年十二月二十三日大判)

十 指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セスシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ボシタルモノトス(三十七年五月三十一日大判)

十一 確定判決ハ確定ノ債務名義ニモテ其強制執行上金錢ヲ支拂フモ法律上ノ原因ナクシテ支拂ヲ爲シタルモノニ非レハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(三十八年二月二日大判)

十二 受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其實却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス(三十八年十一月三十日大判)

十三 受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スヘキ權利ハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非レハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス(三十八年十一月三十日大判)

十四 法律上ノ原因ナクシテ現ニ受ケタル金錢上ノ利益ハ後日減少シタル事實ナケレハ依然存在スルモノト推定スヘキモノトス(三十九年十月十一日大判)

十五 第二順位ノ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ抵當不動産ヲ競賣シ第二ノ順位ニ於テ競落代金ノ配當ヲ受ケタル場合ニハ其所得ハ法律上正當ナル事由ニ基キタルモノトス故ニ第一順位ノ抵當權者ハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス(三十九年十一月十五日大判)

十六 抵當不動産ノ第三取得者ハ各不動産ノ價格ニ應ジ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位スヘキモノトス從テ債權者カ他ノ第三取得者ノ不動産ニ對スル抵當權ヲ拋棄シタル後尙債權金額ニ付キ抵當權ヲ實行スルニ於テハ該不動産ノ價格ニ相當スル金額ハ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ之カ利得シタルモノナリ(四十年五月十六日大判)

十七 主タル債務者ノ無能力ニ依リ取消原因ノ存スルコトヲ知リテ保證契約ヲ締結シタル保證人カ其親戚アル主タル債務ノ取消サレサル以前ニ於テ法律上ノ推定ニ基ク獨立債務ノ辨濟トシテ債權者ニ辨濟シタルトキハ主タル債務者ハ法律上ノ原因ナクシ

テ保證人ノ財産ニ因リ自己ニ利益ヲ受ケタルモノナレハ主タル債務者ハ其利益ノ存スル範圍内ニ於テ保證債務者ニ對シテ利益金返還ノ義務アルモノトス(法新四七三號四頁四十年十二月十七日大阪控判)

十八 不當利得ノ返還請求權ノ原因ハ他人ノ得タル利益ト自己ノ失フタル損害トノ因果關係カ必要ナリ故ニ無權代理者カ代理權アリト詐リ他人ヨリ借入金ヲ爲シタリトスルモ債務名義者ニ對シテハ何等ノ效力ヲ生スルモノナキ故其間ニ不當利得ノ關係ノ生セサルハ勿論假令其債務名義者カ後日其借入金ヲ辨濟シタリトスルモ其ハ無權代理者カ利得シタルヨリ生セシ直接ノ結果ニアラスシテ唯タ債務名義者カ無効ノ借入金ヲ返濟シタル結果ニ外ナラサル故是亦不當利得ノ關係ヲ生セス(最近判二卷百頁四十二年三月廿八日名古屋控判)

十九 公法人ト雖モ私法上法律ノ原因ナク他人ノ財産又ハ勞務ニヨリ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損害ヲ及ホシタルトキハ利益ノ存スル限度ニ於テ之カ返還ノ義務ヲ負フ(最近判三卷三頁四十二年六月五日東控判)

二十 市價相當ニテ偽造ノ株券ヲ賣買セシトキハ反證ナキ限りハ買主ハ眞實ノ株券ト信シテ買受ケタルモノト認メサルヲ得ス從テ其實買契約ハ要素ノ錯誤ヲ蒙リテ無効タリ故ニ之カ代金ヲ請取リタル賣主ハ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ得タル者即チ不當利得者タルノ責任ヲ負フ右偽造株券ノ買主カ之他ノ轉賣シテ代金ヲ得タル事實アルモ特別ノ事情ナキ限りハ轉賣人ニ對シ

其代金返戻ヲ要スルモノナルカ故ニ轉賣ノ事實ヲ以テ直チニ損失ナシト認ムルヲ得ヌ又賣主カ買主ヨリ受取リタル代金ヲ他ヘ支拂消費スルモ其利益ハ現ニ存スルモノトシテ返還ヲ爲ササルヲ得ス(最近判三卷八七頁四十二年十月一日東控判)

二十一 共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニ因リテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其所爲ハ不法行爲ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ他ノ共有者ニ損失ヲ及ホシタルトキハ不當利益ト爲ルモノトス(四十二年十月一日大判)

二十二 他人カ法令ニ違背シテ擅ニ水利組合ノ爲ニ工事ヲ爲シ其費用ヲ支辨シタル場合ト雖モ該組合ニ於テ之カ爲メ現ニ利益ヲ受ケタルトキハ其利益ノ多少ヲ論セス民法ノ規定ニ從ヒ不當利得ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス(四十二年十一月二日大判)

二十三 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

一 約束手形ノ裏書ヲ目的トシテ金錢ノ交付ヲ爲シタル者カ其約束手形カ法律上ノ形式ヲ具備セサルカ爲ニ無効ニ歸シタル場合ニハ其金額返還ノ義務ヲ負フ然レニ被告ハ惡意ノ受益者ニ非サ

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキハ其

ルヲ以テ其受ケタル金額ニ對シテ利息ヲ附シテ返還義務ヲ負フモノニアラス(法新六三號八頁三十四年十月廿九日東地判)

爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其損失ヲ及ホシタル時期カ利益ヲ受ケタル時期ノ後ナルト否トヲ問ハス其利益ノ現存スル限リ之ヲ返還スル義務アルモノトス(四十二年十一月二日大判)

二十四 本訴ハ上告人カ實價七萬圓ノ債權ヲ時價四萬圓ヲ出テサレ株式五千株ト交換シテ其差額三萬圓ノ損失ヲ蒙リタルハ其實被上告人ニアリトシテ其賠償ヲ請求スルモノニシテ原院ハ上告人ニ於テ一時ニ株式五千株ヲ買收スルモノトセハ勢ヒ價格ノ昂騰ヲ致シ一株十四圓以下ニテハ買收スルヲ得サルヲ以テ總株ノ價格ハ債權ニ相當スト判定シ因テ以テ上告人ノ請求ヲ却下シタリ然レ而上告人ニ於テ株式五千株一時ニ買收スルモノトセハ幾何ノ價ニテ買收シ得ヘキヤヲ豫想シ其價格ニテ債權トノ交換ヲナシタルモノナランニハ格別ナルモ否ヲサルニ於テハ株式ノ價ハ時價ニヨリ定ムヘキヲ至當トス何トナレハ時價ハ株式ノ實價ヲ表示スルモノナレハナリ(四十二年十二月十四日大判)

給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

會社設立ノ登記前ニ爲シタル株式ノ賣買ハ無効ナルヲ以テ該

代金支拂ノ債務ナキコトヲ知リナカラ金員ヲ讓渡人ニ給付シタルハ給付ノ當時債務ノ存在セサルコトヲ知リ既ニ自ラ損失ヲ被ルコトヲ承諾セルモノナレハ之ヲ返還ノ請求ハ許スヘキモノニ非ス(法新九七號一八頁大坂控判)

二 裏書人カ手形ノ無効ナルコトヲ知ラス所持人ニ對シ償還ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(法新二〇八號八頁三十五年九月二十九日東地判)

三 債務ノ存在セサル事實ヲ知リナカラ債務ノ辨濟トシテ或ル給付ヲ爲シタル者カ其給付シタルモノヲ取戻シ得サルコトハ民法施行以前ニ於テ既ニ存在シタル法則ナリ(三十五年十二月十三日大判)

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

四 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其債務ノ存在ヲ知ラザリシ故ニ以テ給付シタル物ノ返還ヲ請求スル場合ニハ唯々其債務ノ存在セザリシ事ヲ證明スルヲ以テ足り更ニ其存在ヲ知ラザリシ旨ヲ證明スルノ要ナキモノトス(四十年二月八日大判)

五 民法第七百五條ニ於テ債務ノ存在ヲ知ルニ拘ラス其辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ返還ヲ請求スルコトヲ得ストノ文詞中ニハ給付者カ債務ノ辨濟ニ因テ既ニ其債務ノ存在ト爲レルヲ知リ居ルモ其辨濟ノ事實ヲ證明スル能ハサル爲メ裁判上ノ訴追及強制執行ヲ受クルノ虞アリテ其利益ヲ避ケンカ爲メニ餘儀ナク再ヒ給付ヲ爲シタルカ如キ場合ハ之ヲ包含セザルモノトス(法新五〇七號二一頁四十二年五月十二日東控判)

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

一 民法第七百七條ハ錯誤ニ因リテ辨濟ヲ無シタル債務ニ付キ同一ノ請求原因ヲ以テ第三者ニ請求スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於ケル規定ナリトス(三十四年三月二十八日大判)

其證書ニ續續ニ施シ或ハ債務者名下ノ印影ヲ塗抹シタルカ如キ場合ハ勿論其他證書ヲ債務者又ハ辨濟者ニ返還スル等債權者カ自由ニ之ヲ立證方法ニ供スルコト能ハサルニ至リタル場合ヲ包含含ス(三十七年九月二十七日大判)

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

一 自己ノ爲シタル不法行為ノ原因トシテ其給付ヲ爲シタル金圓ノ返還ヲ求ムルハ法律上許スヘキモノニアラス(法新五號一〇頁東地判)

二 賭博ノ爲メ給付ヲ爲シタルニ因リ發生シタル債權ノ如キハ不法ノ原因ニ基ク權利ナルヲ以テ裁判上請求スルコトヲ得ス(三十一年九月八頁大判)

三 不法ノ原因ヲ濫據トスル請求ハ法律ノ保護スヘキモノニ非ス(三十二年二卷五六頁大判)

四 債務者カ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ所有地ノ保管ヲ他人ニ託シ名ヲ賣買ニ假リ之ヲ隱匿スルカ如キハ不法行為ナルヲ以テ其地所ヲ取戻ス爲メ法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス(三十八年四卷八一頁大判)

五 不法ノ原因ニ基ク權利ハ債權者カ訴ヲ起シテ債權ノ履行ヲ請

七 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ストハ不當利得ノ場合ニノミ適用スヘキ法則ナリ從テ之ヲ以テ不法行為ニ因ル損害賠償場合ニ適用スルコトヲ得ス(三十四年四卷一七頁大判)

八 禁止法若クハ善良ノ風俗ニ反スル事項ニ基キテ給付ヲ爲シタルモノハ不法ノ原因ノ爲メニ給付ヲ爲シタルモノニ外ナラザレ

ハ斯ル給付ヲ爲シタルモノハ其給付ノ返還ニ付キ保護ヲ求ムル
訴權ヲ有セス故ニ登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ法律ノ禁スル
所ナルヲ以テ右行爲ニ基キ給付シタル物ノ返還ヲ請求スルコト
ヲ得ス(法新三三號五頁三十四年四月十一日東地判)

九 株式會社ノ設立登記以前ニ株式ノ讓渡ヲ爲スハ公ノ秩序ヲ害
スルモノト認メ之ヲ禁制シタルモノナレハ斯ル規定アルニ拘ラ
ス控訴人ハ被控訴人ヨリ買受ケタルモノナレハ控訴人ハ自己ノ
爲シタル不法行爲ヲ原因トシテ其給付シタル金額ノ返還ヲ求ム
ルハ法律上許スヘキモノニアラス(法新九七號一八頁東地判)

十 訴訟ノ勝敗ヲ左右スル爲メ裁判官ニ賄賂スルノ不法ナルコト
ハ云フナ俟タサル所ナレハ之ヲ原因トシテ給付シタル物ノ取戻
ヲ請求スルコトヲ得サルハ勿論ナリトス(法新九八號四頁三十
五年七月三日東地判)

十一 民法第七百八條ノ規定ニ違反シテ不法ノ原因ノ爲メニ給付シ
タルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ反スル法律行爲ニ
シテ無効ナリト雖モ給付ヲ受ケタルモノヲ買買贈與等ノ法律行
爲ニ基キ其給付ヲ爲シタル者ニ對シ更ニ給付スルハ毫モ不法ニ
非ス(三十六年五月十二日大判)

十二 詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル
者ハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(三十六年一八四三頁大
判)

十三 民法第七百八條ノ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其
給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシ
テ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラルヘキモノナリ(三十六年
一八四三頁大判)

十九 不動産ノ買買及ヒ抵當權ノ設定カ虛偽ノ意思表示ニ出テ
ル場合ト雖モ登記簿上賣主ヨリ買主ニ其所有名義ヲ移シ又ハ所
有者ヨリ抵當權ノ登記ヲ爲スハ民法第七百八條ノ所謂給付ニシ
テ不動産ノ眞所有者カ之ヲ舊態ニ復スル爲メ所有名義ノ書換及
ヒ抵當權登記ノ抹消ヲ求ムルハ其給付ノ返還ヲ請求スルモノニ
外ナラス(三十九年十二月二十四日大判)

二十 土地所有者カ他人ニ買買ヲ濫用セラレ不知ノ債務成立シタ
ル場合ニ於テ強制執行ヲ避クル爲メ該土地ニ付キ假裝ノ買買及
ヒ抵當權ノ設定ヲ爲スニ當リ其債務ハ自己ノ負擔ニ屬スルモノ
ト信セザリシ以上ハ之ヲ以テ不法ノ原因ノ爲メニ給付ヲ爲シタ
リト云フコトヲ得ス(三十九年十二月二十四日大判)

二十一 他人ヲ害サントスル意思ヲ以テ或者ニ財產等ヲ交付シタ
ルトキハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタ
ル者ニ該當シ之ヲ取戻サンカ爲メ法律ノ保護ヲ受ケルコトヲ得
サルモノトス(法新四八九號一一頁四十二年三月二十日大判)

二十二 民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル
者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ストハ給付ノ
原因カ法令中ノ公益規定ニ違背シタル場合若クハ直接法令ニ違
背セザルモ公序良俗ニ反シタル場合ニ限ルモノトス又權利株賣
買ノ豫約ハ法令ノ公益規定ニ違背セルモノニシテ此豫約
ニ基キ金員ヲ給付シタルトキハ民法第七百八條ノ不法ノ原因ノ
爲メ給付シタルモノニ該當ス然レトモ此不法ノ讓渡ノ豫約ヲ爲

テ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラルヘキモノナリ(三十六年
一八四三頁大判)

十四 相互間ニ於テ定メタル利率ニ從ヒ既ニ支拂ヒタルモノニ付
テハ假令其利息カ法律ノ制限ニ超過スルモ、又既ニ支拂ヒタル
利息ノ割合カ月歩ヲ以テ計算スル結果法律ノ制限ニ超過スルモ
利息制限法ヲ適用スヘキ限リニアラス(法新三三三號八頁三十
八年十一月長崎地判)

十五 本店ノ所在地ニ於テ登記以前ニ發行シタル株式ノ讓渡ハ法
律上無効タルニ過キサルモノニシテ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ
反スルモノニアラザレハ不法ノ原因ニ基キ給付ナリト云フコト
ヲ得ス(法新三三五號二三頁三十九年一月十六日東地判)

十六 民法施行前ニ於テハ法制ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ基キ給
付ハ常ニ必ラスシモ之ヲ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ
其取戻シ得ヘカラサル給付ハ行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ニ
限ルモノトス(三十九年二月二十六日大判)

十七 民法第七百八條ノ規定ハ單ニ不當利得ノ返還請求權ニノミ
之ヲ適用スヘキモノニアラスシテ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シ
タル者カ其給付ニヨリテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲
ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラルヘキモノト
ス(三十九年六月五頁大判)

十八 利息制限法ニ違背シタル利息ニシテ既ニ當事者間ニ授受セ
ラレタルモノハ債務者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス
(三十九年四月二十八日大判)

二十三 詐欺ニ依ル意思表示ハ之ヲ取消シタルトキハ初メヨリ無
效ト看做スカ故ニ買買ニ託シテ人ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル詐
欺取財ノ場合ニ於テ被害者カ取消ノ意思表示ヲナシタル以上ハ
買買ハ初メヨリ無効ニ歸シ從テ被害者ハ欺罔者ニ對シ不法行爲ニ
因ル損害賠償ヲ請求シ得ヘキハ勿論ナルモ欺罔者ハ欺罔手段ト
シテ買買名義ヲ以テ被害者ニ給付シタル物ヲ不當利得ノ理由ト
シテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス何トナレハ其物ハ欺罔者カ
自己ノ犯罪ノ用ニ供シタルモノ即チ不法ノ原因ノ爲メニ給付シ
タルモノニ外ナラザレハナリ(法新四九六號一三頁四十二年四
月廿七日大判)

二十四 民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因トハ其原因タル行爲カ
公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル場合ノ謂ナ
リ(四十二年五月九日大判)

二十五 法律ノ規定ニ反スル行爲ハ必スシモ公ノ秩序又ハ善良ノ
風俗ニ反スルモノノミニ限ラザレバ以テ不當ノ行爲ハ常ニ不
法ノ原因ナリト論スルヲ得ス(四十二年五月九日大判)

二十六 債務ノ履行ヲ免カレン爲メ所謂詐害行爲ノ方法トシテ其
所有財產ヲ賣買ニ假裝シ他人ノ所有名義ニ登記ノ上之ヲ隱匿ス

ルカ如キハ民法七〇八條ノ所謂不法ノ原因ニ該當スルヲ以テ之
カ給付ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス(最近判例四十一年七月六日
宮城控判)

二十七 民法第七百八條(不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノ
ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因
カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此ノ限ニアラス)ニ所謂不
法原因トハ行爲ノ性質カ當然醜惡ナル場合即チ行爲カ法令ノ強
行規定ニ違反スルノミヲ以テ足レリトセス斯カル行爲ノ存在ヲ
主張セシムルコトカ公共ノ安寧ヲ害シ風俗ヲ亂スヘキ程度ノモ
ノヲ意味スルモノトス(法新五三九號一一頁四十二年十一月二
十五日東地判)

二十八 所謂權利ノ賣買ハ商法一四九條但書ニ反シ法律上當然
無効ナリト雖モ敢テ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル不法行爲
ニ在ラサルヲ以テ之カ爲メ給付セシメ代金ハ不當利得ヲ原因トシ
テ取戻ヲ求ムル權利ヲ有ス(最近判例四卷四十七頁四十二年一月廿
二日大阪控判)

二十九 民法第七百八條ノ規定ニ依レハ給付ヲ爲シタル原因ノ不
法ナル場合ニ在ラサレハ其適用アラサルコト極メテ明白ナルヲ
以テ若シ給付ノ原因ハ法律行爲ナリトセンカ必スヤ其行爲ハ公
ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反シ即チ民法第九十條ノ規定ニ依リ

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル
責ニ任ス

一 賣買名義ヲ假裝シ其實貸金ノ抵當ニ取置キタル地所ノ債權者
カ押ニ他ニ賣却シタルトキハ其所有者タル債權者ニ於テ惡意ノ
買主ニ對シ之ヲ追索シ或ハ不法行爲ニ基キ債權者ニ損害賠償ヲ
求ムルモ其隨意ニ屬ス(三十二年九卷二五頁大判)

二 田家用ノ堰水ハ其水利組合ニ於テ之カ所有權ヲ有セス唯其使
用權ヲ有スルニ過キサルカ故ニ其使用ノ餘水ニシテ堰ノ下流ニ
流レタル水ヲ他ノ者ガ使用スルモ權利侵害ト云フヲ得ス(三十
一年一〇卷二四頁大判)

三 證書偽造行使ノ如キ犯罪行爲ヲ以テ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタ
ル者ハ之ヲ賠償スルノ責任ヲ有ス(三十二年五卷二四二頁大
判)

四 債權者ハ債務者ノ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利
益ヲ取得シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ瑕疵
アリシカ爲メ損害ヲ被リタル者アレハ不法行爲ト云フヲ得ヘキモ
不當利得ト云フヲ得ス(三十二年九卷一一五頁大判)

五 過失ニ因リ不當ノ中立ヲ爲シタル爲メ裁判所ヲシテ事實ノ認
定上錯誤ニ陥テシメ以テ破産ノ決定ヲ爲サシメタル結果他人ニ
損害ヲ被ラシメタルトキハ賠償ノ責任ニキモノトス(三十
二年一〇卷八八頁大判)

六 何人ト雖モ創傷ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ治療ヲ加

テ無効ナル場合ナラサルヘカラス(法新五五九號一八頁四十二
年二月二十七日大判)

三十 不動産ノ賣買行爲カ虛偽ノ意思表示ナリシ事實ヲ主張シテ
其所有權轉登記ノ抹消ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ民法
第七百八條ヲ適用シテ之ヲ排斥シタルハ不法ナリ(四十二年二
月廿七日大判)

三十一 債務者カ債務ノ履行ヲ免レンカ爲メニ其不動産ヲ賣買ニ
假裝シテ所有權轉ノ外觀ヲ裝ヒタル行爲ハ家資分散ノ際ニ在
ラサル限り之ヲ目スルニ不法ノ原因ヲ以テスルヲ得ス(四十二
年二月廿七日大判)

三十二 利息制限法制限ヲ超過スル利息ノ契約ハ不法ナルヲ以テ
裁判上之ヲ請求スルコトヲ許ササルト同時ニ當事者カ既ニ授受
ヲ了シタルトキハ之ヲ制限内ニ引直シ計算ヲ爲スヘキモノニ非
ス(四十二年七月三日大判)

三十三 權利ノ賣買契約ハ法ノ禁止スル所ナリト雖モ未タ以テ
公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ナリト認ムルヲ得ス從テ
其實代金ハ不法ノ原因ノ爲メ給付シタルモノニシテ返還ヲ求
ムルコトヲ得スト謂フコトヲ得ス(最近判例五卷二五三頁四十二
年十月十四日大阪控判)

フヘキハ當然ナリ從テ治療宜シキヲ失テ重患ニ陥リタルトテ
其責任ヲ加害者ニ嫁スルコトヲ得ス(三十四年四卷一一頁大判
判)

七 他人ノ債權證書ヲ保管シタル者カ何等ノ原因オケテ不法ニ且恣
ニ之ヲ債務者ニ返還シタルトキハ此ノ返還ノ一事ヲ以テ法律
上其債權ヲ消滅セシメタルモノト爲シ直ニ其保管者ヲシテ債權
額賠償ノ責任ヲ負ハシムルコトヲ得ス(三十四年七月三日大
判)

八 扶助料ナル名義ヲ以テ負傷ノ日ヨリ向十年間ノ生活費ヲ請求
スルト雖モ生活費ハ本件被害ノ有無ニ拘ラス必要トスル所ノ費
用ニシテ負傷ヨリ生シタル損害ト看ルコトヲ得ス故ニ生産力ノ
喪失ニ因リ將來ニ於テ得ヘキ利益ヲ失ヒタルコトヲ一ノ損害ト
シテ請求スルハ格別生活費用トシテ賠償ヲ求ムルハ正當ナラス
(法新五七號一一頁三十四年十月一日東地判)

九 原告ハ被告ニ對シ看護費用ヲ支拂ヲ請求スル權利アリトスル
モ十年間ノ費用ヲ一時ニ支拂ヲ求ムルハ正當ニアラス何トカ
ハ原告中途ニ死亡シタルトキハ不條理ノ結果夫生スベケレハ尤
モ依テ此ノ金額ハ負傷ノ日ヨリ十年間原告ノ生存ヲ條件トシテ
支拂ハシムヘキモノトスルヲ相當トス(法新五七號一一頁三十
四年十月二日東地判)

- 十 權利行使ノ爲メ他人ニ損害ヲ加フルモ賠償ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス(三十五年五月十六日大判)
- 十一 明治三十二年法律第四十號ハ専ラ家屋ノ失火ニ付キ規定シタルモノニシテ船長カ管轄ヲ怠リタル爲メ船中ノ燒失セシメタル場合ニ適用スヘキニアラス(法新一〇一號九頁三十五年六月二十日大判)
- 十二 船舶ニ付キ假差押ノ命令アリタルノミニテ未タ其執行ナキ場合ニ所有者カ執行アランコトヲ慮リ備船契約ヲ取結ハサリシカ如キハ法律上所有者ノ爲スヘキ當然ノ責務ニ非ス從テ之カ爲メニ損害ヲ生スルモ該命令ヲ發セシメタル者ノ不法行為ニ基クモノト云フヲ得ス(三十六年一月二十六日大判)
- 十三 支拂ヲ停止シタル債務者ノ支拂ヲ受ク其結果財團ノ損害ニ歸シタルトキハ未タ支拂ヲ受ケサル他ノ債權者ノ權利ヲ少クモ過失ニヨリテ侵害シタルモノナレハ不法行為ノ原則ニヨリ賠償ノ責任ヲ有スヘキモノナリ(法新一三三號七頁三十六年二月十三日大判)
- 十四 法律ニ認許スル方法ニヨラスシテ私力ヲ以テ擅ニ他人ノ行為不行爲ヲ強制スルハ假令實體上ニ於テ其行為不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スル場合ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル不法ノ行為ナリトス(三十六年七月九日大判)
- 十五 甲カ權利ナクシテ乙ノ所有地内ニ建設シタル土藏ニシテ甲ニシテ之ヲ收去スルノ義務ヲ負フ場合ニ於テハ其土藏ハ一ノ不動産トシテ何等ノ價值ヲ有スルモノニ非ス從テ假令乙ニ於テ不法ニ之ヲ取毀テタルニモセヨ乙ニ對シテ其價格全部ノ賠償ヲ命ジタル判決ハ不法ナリ(三十六年七月九日大判)
- 十六 夫ハ妻ニ對シテ貞操ヲ守ラシムル權利アルモノナレハ其妻ト姦シタル者ハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナリ從テ夫權ノ損害ニ對スル賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス(三十六年一四二五頁大判)
- 十七 民事訴訟費用法ニ損害賠償ノ率ヲ定メタルモノニ付テハ訴ノ提起ニ關スル過失ヲ原因トシテ其規定ノ範圍外ニ於ケル賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(三十七年四〇一頁大判)
- 十八 他人ノ特許權ヲ侵犯シ其特許品ヲ偽造スルモ之カ爲メニ損害ヲ生セシメサル以上ハ賠償ヲ爲スノ責任ナシ(三十七年一六一六頁大判)
- 十九 賃借人カ其借家ニ失火シタル場合ニ於テ失火者ニ重大ナル過失ノ存セサル限りハ賠償ノ責ヲ負ハシムヘカラス(三十八年二月十七日大判)
- 二十 不當ナル差押處分ニ基キ財產ヲ低價ニ賣却シタル場合ニ於テ其差押カ差押債權者ノ故意又ハ過失ニ出ツルトキハ該債權者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラス(三十八年四月十二日大判)
- 二十一 強制執行ノ爲メ所有權ヲ侵害セラレタル第三者ハ民事訴訟法第五百四十九條ニ依リ異議ノ訴ヲ爲サシテ民法第七百九條ニ基キ不法行為ヲ原因トシテ損害賠償ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノトス(三十八年六月五日大判)

- 二十二 債權者カ誤テ第三者ノ所有ニ係ル石炭ノ差押ヲ爲シ探炭ノ貯蓄ヲ妨ク之ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害ハ不法ノ差押ヨリ直接ニ發生シタルモノナレハ假令執達吏カ殊更ニ注意ヲ爲シ適當ノ場所ニ石炭ヲ移積セサルモ之ヲ以テ其賠償責任ヲ免ルルノ理由ト爲スコトヲ得ス(三十八年十一月一日大判)
- 二十三 故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルハ即チ不法行為ニシテ其他人ノ權利ハ必ラスシモ法令ノ明文ヲ以テ認許セラレタルモノナルコトヲ要セス(三十九年三月二十三日大判)
- 二十四 田地ノ所有者カ田用ノ爲メ各自ノ反別ニ應シテ河川ノ流水ヲ平等ニ使用シ得ヘキ慣習上ノ權利ヲ有スル場合ニ於テ其一人カ他ノ所有者等ノ分水權ヲ侵害シタルトキハ民法第七百九條ノ不法行為ヲ以テ論斷セサルヘカラス(三十九年三月二十三日大判)
- 二十五 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ其身分ノ官吏タルト否トナ論セス民法第七百九條ニヨリ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(三十九年五月十四日大判)
- 二十六 債權者カ債務者ノ營業用有體動産ヲ不法ニ差押ヘ其營業ヲ爲スコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ之ニ因リテ生スル損害ヲ賠償スル責アルモノトス(三十九年六月十三日大判)(同主旨三十三卷九卷七二頁)
- 二十七 有體動産ノ差押ヲ受ケタル者カ之ヲ使用シテ營業ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ更ニ同種ノ他品ヲ買入レ繼續シテ損害ノ減少ヲ圖ルト否トハ一ニ其者ノ自由ニ屬ス故ニ其

資ヲ宥恕シ重大ナル過失アル場合ニ限リ其實ニ任スヘキモノトス(四十年三月二十七日大判)

三十四 不法行爲ニ基ク損害賠償ノ請求權ハ故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキニ於テ發生スルカ故ニ其請求ノ原因ニシテ不法行爲ヲ成ス事實關係ナル以上ハ故意ニ非ストスルモ過失ニ因ル不法行爲アリトスルニ妨ケナキモノトス(四十年六月十九日大判)

三十五 公ノ營造物タル公道ヲ通行スルハ唯公法關係上通行ヲ許ササルニ止リ之ニ因テ個人ハ何等私法上ノ權利ヲ付與セラルルモノニ非ス從テ公道ヲ損壞シ又ハ之ニ妨害物等ヲ置キテ通行ヲ妨害スル者アルモ個人ハ爲メニ私權ヲ害セラレタリト云フコトヲ得ス(四十年六月二十五日大判)

三十六 固ヨリ公道通行ハ個人ノ自由ナルモ之レ公法上ノ關係ヨリ來ルモノニシテ私法上權利ヲ附與セラレタルモノニ非サルカ故ニ公道ヲ損壞シ通行ヲ妨ケル妨害物ヲ置ク者アリテモ直ニ私權侵害アリト云フヲ得ス(最近判一卷一二九頁四十年六月廿七日東控判)

三十七 夫力離婚ノ原因ト爲ルヘキ虐待ヲ行ヒ妻ヨリ離婚ノ請求ヲ受ケタルモ之ヲ拒ミ訴訟ノ結果遂ニ夫力敗訴ノ判決ヲ受ケタリトスルモ爲メニ其妻ノ嫁期ヲ失ハシメタリト爲スコトヲ得ス又其虐待侮辱等ノ爲メニ被メタル精神上ノ苦痛ハ既ニ離婚ノ判決ニ依テ回復セラレタルモノト認メラルルカ故ニ慰養料及ヒ損害賠償ヲ請求スルヲ得ス(最近判一卷一七九頁四十年十月二

十三日東控判)

三十八 人ノ妻ニシテ而モ體胎セルモノヲ強姦シ其結果婦女胎内ニ異常ヲ來シテ月足ラスノ子ヲ分娩シ其嬰兒ハ間モナク死亡シタル場合ニ於テハ加害者ハ被害者及其夫ニ對シ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ヲナスヘキ義務アルモノトス(法新四八三號一七頁四十年二月五日前橋地判)

三十九 詐欺ニ因ル意思表示ハ取消ニ依リ法律上始メヨリ無効ナリシモノト看做スヲ以テ民事原告人カ取消ノ意思表示ヲシタル以上ハ被告方自己ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ハ不法行爲ノ時ヨリ發生ス(法新四八七號一〇頁四十年三月十二日大判)

四十 自己ノ所有物件ヲ賣却シタリトシテ不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償タル遲延利ヲ請求スルニハ自己カ其請求ヲ爲シタル日ヨリ辨濟スル日ニ至ルマテノ利ヲ請求スヘキモノニシテ賣却者カ其實買ヲ爲シタル日以後ノ利ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス(法新一二頁四十二年三月十八日大判)

四十一 民法上ノ不法行爲ノ規定ハ國ノ權力行爲ニ原因セシ場合ニ適用サルルモノニアラス國ノ營造物ナル橋梁及道路ヲ國カ公共ノ利益安全ヲ保護スル爲メ之カ修築改修ヲ爲スハ之レ國ノ權力作用ニシテ公法人ノ私法行爲ニアラス故ニ是等ノ行爲ヨリニテ他人ノ權利ヲ害スルコトトナルモ民法上ノ不法行爲ノ規定ヲ以テ律スヘキニアラス(明治四十一年三月廿七日最近判)

四十二 他人ノ不法行爲ニ因リ土地ノ所有權ヲ失ヒタルタメ其土存セサル場合ニ於テハ之ニ番人ヲ置キ看守セシムヘキ義務ナキモノナリ從テ同條第二項ノ規定モ亦交通類繁ナル事情ノ存スル道路ノ踏切ニ限リ適用ス可キモノナリトス(法新四九七號七頁四十年五月四日長控判)

四十六 故ナク他人ノ船舶ヲ差押ヘタルモノハ之ニ因リテ直接生シタル損害ハ勿論船舶所有者カ第三者ニ對スル買賣契約ノ履行トシテ該船舶ヲ引渡シ爲シ能ハサリシ結果ヨリ生セシ違約金モ亦賠償スヘキ責任ヲ負フ(四十年五月二十三日東控判)

四十七 一、債權者ノ委任ニヨリテ執行スル執達吏ハ民法上ノ委任ト異リ債權者ノ代理人トシテ之ヲナスモノニ非ス法令ノ規定ニ從ヒ司法機關トシテ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ執行上執達吏ニ過失アルモ債權者ハ其責ヲ分タス

一、特ニ差押物ノ保存上特別處分ヲ要スル時ハ執達吏カ適當ノ方法ヲ以テ之カ處分ヲ爲スヘキ職責ヲ有ス從テ其保存ノ方法宜キヲ得ス損害ヲ生シタル時ハ執達吏第一ニ其責ニ任スヘク債權者ニ對シ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(最近判三卷三四頁四十年六月二日大判)

四十八 一、民法七〇九條ニ規定セル不法行爲ノ損害責任ハ通常生スヘキモノナルト否ト又豫見シ得ヘキ損害ナルト否トヲ區別セシ故ニ故ナク他人ノ財産ヲ差押ヘ爲メニ其物件ヲ第三者ニ引渡シ能ハサル結果ヨリ生セシ違約金ニ付テモ賠償ノ責任ヲ負フ一、右差押物カ特定物ニ非スシテ他ノ同質ノ物品ヲ買入レ引渡シ得ヘキ場合ナリシト雖既ニ不法ノ差押ヲナシ損害原因ヲ加ヘ

地ノ小作人ヨリ受取ルヘキ小作料ヲ受取り得サリシ時ハ其不法行爲者ニ對シ之カ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(法新四九五號十三頁四十年四月六日大判)

四十三 借金ノ依頼狀ハ金圓領取ノ委任狀トハ其性質カ違ヒ消費貸借成立ノ證據トナラスタダ借金ノ依頼狀ヲ發スルカ如キハ人事正當ノ行動ヲ取リタルニ過キサルカ故ニ偶依頼狀ヲ利用スル惡漢アリテ損害ヲ生シタリトスルモ依頼狀ヲ發シタルモノニ於テ毫モ過失上ノ責任ヲ負フヘキ謂ハレナシ(四十年四月廿一日名古屋控判最近判)

四十四 詐欺ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消シタルトキハ初メヨリ無効ト看做スカ故ニ賣買ニ託シテ人ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル詐欺取財ノ場合ニ於テ被害者カ取消ノ意思表示ヲナシタル以上ハ賣買ハ初メヨリ無効ニ歸シ從テ被害者ハ欺罔者ニ對シ不法行爲ニ因ル損害賠償ヲ請求シ得ルハ勿論ナルモ欺罔者ハ欺罔手段トシテ賣買名義ヲ以テ被害者ニ給付シタルモノニシテ不當利得ヲ理由トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス何ントナレハ其物ハ欺罔者カ自己ノ犯罪ノ用ニ供シタルモノ即チ不法ノ原因ノタメニ給付シタルモノニ外ナラザレハナリ(法新四九六號一三頁四十年四月二十七日大判)

四十五 明治三十三年八月逕信省令第三十四號鐵道運轉規定第四條第一項ノ規定ハ交通類繁ナル特別事情ノ存スル道路ノ踏切ニハ其事情ノ存スル場合ニ限リ之ニ番人ヲ置キ看守セシムヘキ責任ヲ負ハシメタルモノニシテ同一場處ノ踏切ナリト雖右事情ノ

タル以上ハ被害者カ自ラ其結果ヲ避クル方法ヲ講セザリシトノ理由ヲ以テ責任ヲ免カラルコトヲ得ス(最近判三卷四七頁四十四年六月十六日宮城控判)

四十九 實際上或ル權利ナ有セサル債權者カ法律ノ規定ヲ知ラス若クハ之ヲ誤解シテ其權利アリト確信シ債務者ニ對シテ財産ノ假差押ナシ之ニ損害ヲ生セシメタル時ハ一應ハ債權者ニ過失アル者ト見ルヲ當然トス然レトモ債權者ノ玆ニ出テタル相當ノ理由存スル時ハ過失アリト云フヲ得ス(四十一年七月八日大判)

五十 債務ノ執行保全トシテ故意又ハ過失ニヨリ執達吏ニ委託シ或物件ノ假差押ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ一般不法行為ノ原則ニ從ヒ是ニ因リテ生シタル損害ヲ差押物件ノ所有者ニ賠償スヘキ責任アルモノトス(法新五二七號一七頁宮城控判)

五十一 共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニヨリテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スル時ハ其所爲ハ不法行為ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケケカ爲メニ他ノ共有者ニ損失ヲ及ボシタル時ハ不當利得トナルモノトス(四十一年十月一日大判)

五十二 山林ヲ買受ケタルモノ其ノ地域ノ判然セザリシヨリ超エテ隣地ノ立木ヲ伐採シタルトスルモ故意若クハ過失ナラザル限リハ民法上不法行為トシテ損害賠償ノ責ヲ負ハス(最近判三卷一三七頁四十四年十一月十日東控判)

五十三 雜資ニ對スル防害ナカリセハ或ル價額ニ賣却シ得ヘカリシニ其妨害ノタメニ該價額ヨリモ少額ニ賣却シタル場合ニ於テ

ハ妨害者ハ其差額ヲ賠償スル責ヲ負フモノトス(法新五三八號一五頁四十四年十一月二十日大判控判)

五十四 凡ソ不法行為ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルニハ權利ヲ侵害セラレタルコト及ヒ損害ハ權利侵害ノ結果生シタルモノナルコトヲ要スルモノトス(法新五四六號一〇頁四十四年十一月三十日大判控判)

五十五 自己所有ノ立木ヲ他ヨリ買受ケタリト稱シ其一部ヲ伐採若クハ皮剥シタル者アルニ於テハ之ヲ原因トシテ其伐採行為ノ差止并ニ伐採及皮剥ニヨリテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘク其差止ト損害ノ賠償トハ法律上相率連スル者トス(法新五四七號一一頁四十四年十一月三十日東控判)

五十六 不法行為ノ原因タル過失ハ普通人ノ注意力ノ及フヘキ範圍ニ限定セラレヘキモノナルカ故ニ縱令或事實ノ發生ニツキ原因力ヲ與ヘタル場合ト雖其事實ノ發生カ普通人ノ豫見シ得ヘキ事項ニシテ而モ之ヲ豫見セザリシ場合ニ非サレハ不法行為ノ責任ヲ負フヘキ過失アリト云フヲ得ス從テ縱令官廳ノ許可ヲ得スシテ軌道ヲ敷設シタルトノ事ノミナシテ原因トナシタル時ハ其請求ハ法律上理由ナキモノトス(法新五五二號札幌地判)

五十七 娼妓カ情死ヲ企テタレハトテ此事實ニ依リテ直ニ樓主ニ過失アリト認定スルヲ得ス從テ娼妓ノ自殺ヲ補助シタル客ハ娼妓ノ死亡ニヨリ樓主ニ蒙ラシメタル損害ヲ賠償スル責ニ任ジ樓主ニ過失アリト立證ナキ限リハ其賠償額ヲ算定スルニ付キ斟酌スヘキモノニ非ス(法新五五八號九頁四十四年一月二十日

賠償スヘキ義務アルモノトス(法新五八一號一二頁四十二年四月二十三日宮城控判)

六十二 河川ノ官有堤防ニ接續スル土地ノ所有者カ特別ノ法令又ハ慣習ニ依リテ非スシテ其堤防ニ官ノ許可セル範圍ヲ越エテ増築工事ヲナシタルカタメ對岸ニ接續スル他人ノ田地ニ水害ヲ及ボシ又ハ其危險ヲ加フルニ至リタル時ハ被害者ニ對シテ損害ヲ賠償スル外一般慣習法ニ依リ尙水害ノ排除又ハ豫防ニ必要ナル行為ノ責ニ任セサルヘカラス(四十二年五月十七日大判)

六十三 贓金タルコトヲ知ツテ之ヲ收受シ費消シタル時ハ自己ノ犯罪ニヨリ贓金返還ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得サラシメタルモノナルカ故ニ其損害ヲ賠償スヘキ義務アルモノトス(法新五七八號一七頁四十二年六月十七日大判)

六十四 民法第七百〇九條ニ所謂過失トハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲サザリシ場合即過失ヲ包含スルモノトス從テ輕過失ニ依リ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テモ不法行為ノ責ニ任セサルヘカラス(法新六〇一號一〇頁四十二年七月一日東控判)

六十五 債權ノ外部關係ハ物權其他所謂絕對權ト同一ニシテ第三者ハ他人ノ債權關係ヲ尊重スルノ義務ヲ負フモノトス若シ第三者カ其外部關係ニ於ケル義務ニ違反シ債權ヲ侵害シテ損害ヲ加ヘタル時ハ民法七〇九條ノ所謂他人ノ權利ヲ侵害シタル不法行為ニ該當シ之カ損害賠償ノ責任ヲ負ハサルヘカラス(最近判第六卷五頁四十二年十月廿九日宮城控判)

六十六 夫カ妻ヲ虐待シ侮辱シ爲メニ精神上ニ苦痛ヲ感受セシメタル時ハ夫ハ妻ニ對シ之カ損害ヲ賠償セサルヘカラス尙又故意又ハ過失ニヨリ婦人ヲシテ婚姻ヲ失ハシメタル時ハ之カ損害ヲ

賠償スヘキ義務アルモノトス(法新五八一號一二頁四十二年四月二十三日宮城控判)

六十七 債權ノ外部關係ハ物權其他所謂絕對權ト同一ニシテ第三者ハ他人ノ債權關係ヲ尊重スルノ義務ヲ負フモノトス若シ第三者カ其外部關係ニ於ケル義務ニ違反シ債權ヲ侵害シテ損害ヲ加ヘタル時ハ民法七〇九條ノ所謂他人ノ權利ヲ侵害シタル不法行為ニ該當シ之カ損害賠償ノ責任ヲ負ハサルヘカラス(最近判第六卷五頁四十二年十月廿九日宮城控判)

六十六 不法行為ニ因リテ生シタル損害額ハ其行為當時ノ價格ニヨリ算定スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ其價格算定ノ標準時期ハ如上ノ時期ニ限ラレタルモノニ非ス何ントナレハ不法行為ニ因ル損害賠償ハ其行為ニヨリ生シタル現實ノ損害ニ止マラス尙其行為ニ因リテ被害者カ他日受クヘキ利益ヲ侵害セラレタルニ於テハ行為者ハ之ヲ賠償セサル可カラザレハナリ是ヲ以テ他人ノ不法行為ニ因リテ損害ヲ受ケタルモノハ行為當時ノ價格ヲ標準トシテ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論尙ホ其後ニ於テモ受ケヘカリシ利益ニシテ不法行為ノタメニ受ケルコト能ハサルニ至リタルモノアラハ判決ヲ受ケル迄ノ間ニ於テ其利益額ヲモ請求スルコトヲ得ヘキモノトス(法新六二五號一七頁四十二年二月三日大判)

六十七 負傷者カ從前親族其他ノ給養ニヨリ生活シ居タルトノ反證ナキ限りハ當然自己ノ勞務ニヨリ生活シ居タル者ト認定スルシテ加害行為ニ因リ被害者カ將來自活スルコト能ハサルニ至レル損害ハ已ニ加害ノ當時ニ發生シタルモノナルカ故ニ將來ニ於

第七百十條

他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合ト問ハズ前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 負傷ハ直ニ精神上ノ苦痛ヲ生スルコト顯著ニシテ假令財産上ノ損害ニ非サルモ被害者ハ之ニ對シ賠償ヲ求ムル權利アルコト
- 二 一般ノ法理ナリ(法新五七號一頁三十四年十月一日東地判)
- 三 人名譽ヲ害シ因テ生シタル財産以外ノ損害ニ付テハ其性質

上損害額ヲ證明セサルモ裁判所ハ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス(三十四年一〇五頁大判判)

三 不法行為ニ因リ財産權以外ノ權利ヲ侵害シタル場合ニ於テ其要償額ノ當否ヲ判斷スルニ付テハ須ク當事者ノ身分實力生活ノ

程度被害ノ模樣其他諸般ノ狀況ヲ參酌シテ之ヲ決セサルヘカラス(法新一四號一頁三十五年十月十六日大阪地判)

四 毆打創傷ニ因リ苦痛ヲ蒙ル者ハ民法第七百九條第七百十條ノ規定ニ基キ加害者ニ對シ其苦痛ニ對スル損害賠償ヲ要求スルハ當然ナリ而シテ其賠償額ハ被害者ノ身分創傷ノ程度其他諸般ノ狀況ヲ斟酌シテ定ムルモノトス(法新一七號一〇頁三十五年十一月二十日奈良地判)

五 人ノ妻ヲ姦シタルモノハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノニシテ之ニ因リ本夫カ名譽ヲ毀損セラレ精神上悲痛ヲ感スルニ至リタル時ハ姦夫ニ於テ慰籍料ヲ支拂フヘキ義務ヲ有ス(法新四九六號一二頁四一三三〇頁大判)

六 詐欺取財ノ罪名ヲ以テ不實ノ告訴ヲ爲シ官廳ノ取調ヲ受ケルニ至ラシムルトキハ其被告人タル者ノ名譽毀損トナルハ勿論被害者カ警テ村ノ名譽職ヲ勤メ相當ノ信用アル者ニ對シテ告訴ヲ爲セハ世間ノ惡評ヲ受ケ傷心痛苦ノ境遇ニ立タシムルモノナ

第七百十一條

他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財產權ヲ害セザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條

未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行為ノ責任ニ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサリシトキハ其行為ニ付キ賠償ノ責任ニ任セス

- 一 犯罪行為ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者カ刑事上ノ責任ヲ負フニ必要ナル識別心ヲ有スル以上ハ其知能ハ同一行為ヨリ生

スル民事上ノ責任ヲ辨識スルヲ得ル程度ニ達シタルモノト認ムヘキモノトス(三十四年十二月二十七日大判判)

二 高等小學校第三學年級位ノ學童カ其附近ニ人ノ居ルヤ否ヤニ注意セズ銃ヲ弄ヒテ發砲シテ二人ヲ傷ケタル場合ニ於テ其者カ法律上ノ制裁及ヒ責任ニ關シ充分精密ナル智能ヲ有セザリシトスルモ此等ノ事實ニ關スル一應ノ智識ヲ備ヘ居ルモノナレハ其

加害行為ヲ以テ無責任ナル未成年者ノ行為ト云フヲ得ズ從テ其損害ヲ蒙レルモノニ對シテ之カ賠償ノ責任アルモノトス(法新四八三號七頁廣島控判)

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但シ故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

(前條參照)

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス監督義務者ニ代リテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

一 父カ民事擔當人トシテ其子ノ行為ニ對スル責任ヲ定ムルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ怠リタルト否トニヨルモノトス(三十三

年四卷八二頁大判)

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代リテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

一 電氣鐵道會社ノ使用人カ過失ニ因リ他人ニ創傷ヲ負ハシメタリルルハ會社ニ損害賠償ノ責任アリ(法新七號一〇頁名古屋地判)

二 新聞紙ヲ發行スル株式會社ノ代表者タル專務取締役ハ編輯人印刷人及ヒ發行人カ新聞發行事務ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ニ對シテハ專務取締役ハ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(三十四年十二月二十日大判)

三 新聞紙ノ編輯人カ編輯ノ上新聞紙ニ掲ケタル記事ニシテ偶々誹毀ニ關スル刑律ニ觸ルルコトアルモ之ヲ職務ノ執行ヲ爲ニアラスト云フヲ得ス(四十年一一八頁大判)

四 人ノ生命身體ニ安危ノ關係アル重要ノ任務ニ服スル駈者ヲ充分修習セシメシテ車體ヲ縱橫セシメ以テ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ使用者ニモ賠償ノ責任アリ(最近判一卷六七頁四十年四月五日東控判)

五 或ル事業ノタメ他人ヲ使用スル者又ハ使用者ニ代リテ其事業ノ監督ヲナスモノカ被用者ノ行為ニツキ其責ニ任スルハ被用者ノ行為カ其事業ノ執行ニ付キ不法行為ナルヲ一要件トス而シテ

七 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スルモノカ民法第七百十五條ニ依リ第三者ヨリ損害賠償ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ被用者ノ選任及ヒ其事業監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタル事實ヲ主張セザル時ハ同條但書ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス(四十三年四月四日大判)

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文者又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ竹木栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

一 民法第七百十七條第一項ニ所謂占有者トハ必スシモ私ノ人又ハ法人ニ限リタルニ非スシテ水利組合ノ如キ公ノ法人ト雖モ工作物ヲ占有スル場合ニハ其占有スル私法上ノ關係ニ於テ存在ス

ルコトアルカ故ニ亦同條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス(三十九年七月九日大判)

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行為中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ
教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行為者ト看做ス

一 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキ各自連帶シテ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(三十年八卷一〇頁大判)

如キ行為ヲ爲スニ當リ之ニ共謀加功シタル第三者ハ本人ニ對シテ其損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノトス(四十年六月二十二日大判)

第七百二十條 他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ加害行為ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行為ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス
第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一 不法行為ニ依ル損害賠償ハ金錢以外ノ賠償ヲ許サス故ニ續業人カ境界線ヲ踰越シテ他人ノ所有地中ニ坑路ヲ侵掘シタル事實ニ基キ不法行為ヲ以テ單純ナル損害賠償ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ坑路填塞ノ請求ヲ許容シタルハ不法ナリ(三十七年十二月十九日大判)

者ノ不法行為ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行為ト相俟テ損害ヲ發生シタルカ如キ場合ニ於テ加害者ノ責任ヲ宥恕スヘキ事情存スルトキハ之ヲ適用スヘキモノトス(四十一年四月十三日大判)

二 民法第七百二十二條第二項ノ規定ハ被害者ニ過失アル場合ニハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得
見込ニ一任シ全然其職權ニ屬セシムルモノトス從テ裁判所カ被害者ニ過失アリタル事實ヲ認メナカク何等損害賠償額ヲ斟酌セサルモ不法ニ非ス(三十九年一三一五頁大判)

六 船舶貸借ノ終了期限ニ之カ返濟ヲ爲シ能ハサル事由カ船主ニ於テ航海ニ適セサル船具ヲ備付ケタル爲メ航海ノ遲滞ニ及ヒタル場合ハ損害賠償ノ責任及其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス(最近判三卷七一頁四十二年五月廿四日東控判)

三 被害者ニ過失アリシトキ損害賠償額ヲ斟酌スル規定ハ其過失ノタメ不法行為ヲナシタル者ノ責任ヲ輕減スヘキ事情アル場合ニ適用セラルル唯一部監督ノ嚴重ナラサリシニ乘シテ公金ヲ費消シタル者等ニ對シテ適用スルノ限リニアラス(最近判二卷五三頁四十二年一月廿七日東控判)

四 不法行為ニ因ル損害賠償ハ必ス金錢ヲ以テ其額ヲ定メサルヘカリス不法ニ取毀チタル材料ヲ以テ原形ト一致スル家屋ノ建築ヲ請求スルコトヲ得ス(最近判二卷五四頁四十二年二月十八日名古屋控判)

五 民法第七百二十二條第二項ノ規定ハ被害者ニ過失アリテ加害

八 自殺ヲ企テタルモノカ娼妓營業者ナリシトスルモ之カ爲メニ直ニ損害賠償額ニツキ斟酌スルノ理由ナリト爲スヲ得ス(最近判四卷四四頁四十二年一月廿日大阪控判)

ヲ免除スル原因ナラス(最近判六卷一九三頁四十三年三月十六日東京控判)

第七百二十三條

他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

- 一 登録商標ニ類似セル商標ヲ類似ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣スルトキハ之方爲メ商標主ニ財産上ノ損害ヲ加フルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限りハ被害者ノ名譽毀損シタルモノト云フヲ得ス(三十七年五卷四七頁大判)
- 二 或ル行為カ他人ノ名譽ヲ毀損スルモノナルヤ否ヤヲ決スルニハ單ニ其行為ノ性質上一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ定ムルヲ以テ足レリトセス尙名譽ヲ毀損セラレタリトスル人ノ社會ニ於ケル位置狀況等ヲ參酌シ以テ其行為カ特ニ其人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ審查セサルヘカラス(三十八年十二月八日大判)
- 三 名譽トハ各人カ社會ニ於テ有スル位置即チ品格名聲信用等ヲ指スモノニシテ畢竟各人カ其性質行狀信用等ニ付キ世人ヨリ相當ニ受クヘキ評價ヲ標準トスルモノニ外ナラス(三十八年十二月八日大判)
- 四 人ノ信用ニ關シ不當ニ虛無ノ事實ヲ社會ニ表白シテ其信用ヲ害スルカ如キハ人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス(三十九年二月十九日大判)

第七百二十四條

不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサル時ハ時効ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

- 一 民法第七百二十四條ノ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者カ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサル時ハ時効ニ因リテ消滅ストアリテ被害者カ不法行為ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサル時ハ時効ニヨリ消滅ストノ謂ニ非ス(法新五五六號一頁大阪控判)
- 二 民法施行前ニ於ケル不法行為ニ基ク民法第七百二十四條ニ依リテ消滅スルモノトス(法新六二四號一五頁四十二年十二月十七日大判)

- 三 會計法第十九條ニハ「政府ニ納ムヘキ年度經過後五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ルルモノトス」トアルモ其但書ニ「特別ノ法律ヲ以テ期限免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル」トアリテ所謂特別ノ法律トハ同法以外ノ一切ノ法律ヲ指稱スルモノナルヲ以テ國カ不法行為ノ被害者トナリ加害者ニ對シテ民事裁判所ニ損害賠償ヲ請求スルトキハ其請求權ハ一私人カ被害者タルト同シク民法第七百二十四條ニ依リ國カ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ起算シ三年ノ時効ニ因リテ消滅スルモノトス(法新六二四號一五頁四十二年十二月十七日大判)
- 四 不法行為ノ被害者タル國カ加害者ニ對シテ民事裁判所ニ損害賠償ヲ請求スル時ハ其請求權ハ民法第七百二十四條ニ依リ國カ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ起算シ三年ノ時効ニヨリテ消滅スルモノトス(四十二年十二月十七日大判)

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之ヲ親族トス

- 一 六親等内ノ血族
- 二 配偶者
- 三 三親等内ノ姻族

一 血族ノ親族タル身分ハ戶籍ニ登錄スルニ因リテ其效力ヲ生ス
ルモノニアラス未タ戶籍ノ登錄ヲ經スト雖モ父母ノ認知ヲ得サ

ル私生兒ノ外事實上血族タルモノハ即チ親族ノ身分ヲ有スルモ
ノナリ(三十五年十一月二十一日大判)

第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム

傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ
世數ニ依ル

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親
族關係ヲ生ス

第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生

- 一 繼父トハ嫡出子若クハ庶子ノ父カ死亡シ又ハ家ヲ去リタル後入夫ト爲リタル者ヲ謂フ故ニ寡婦ノ私生子ニシテ適法ノ認知ヲ受ケザリシ者ハ入夫婚姻ノ後ト雖モ依然其母ノ親權ニ服スヘキモノトス（三十七年五月二十三日大判）
- 二 遺妻カ前夫ノ兄弟ト戸内婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ前夫ノ子ト後夫トノ間ニハ繼親子ノ關係ヲ生セサルモノニシテ依然伯父甥ノ關係ニアルモノトス（法新四七八號九頁四十年十二月二十三日秋田地判）
- 三 父死亡シ又ハ離婚シテ家ヲ去リタル後母カ同一戸籍ニ在ル先夫ノ兄弟ト結婚シタル時ハ他ヨリ夫ヲ迎ヘタル場合ト同シク其後夫ヲ指シテ子ノ繼父ト稱スヘキモノナリ（四十二年十二月十三日大判）
- 四 父死亡シ又ハ其家ヲ去リタル後母カ後夫ヲ迎ヘタルトキハ子カ戸主タル場合ト否トテ論セス其後夫ト子トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生スルモノトス（四十三年二月十日大判）
- 五 繼母ト繼母ノ後夫トノ間ニ生シタル子ハ繼子ト兄弟ノ親族關係ヲ生ス（法記十八卷七號六二頁）
- 六 戸主ノ母婚姻ヲ爲ス場合ハ常ニ出テテ夫ノ家ニ入レヘキヲ以テ其後夫ト戸主トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生セス（法記十八卷十一號三四頁）
- 七 未婚ノ女戸主カ養子縁組ヲ爲シタル後入夫婚姻ヲ爲シタル場合ニ入夫ト養子トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生ス（法記十八卷十一號三四頁）
- 八 前夫妻ノ兄弟姉妹ト戸内婚姻ヲナシタル場合ニ於テ前配偶者ノ子ト後夫又ハ後妻トノ間ニハ繼親子關係ヲ生ス（法記二十卷四號四一頁）

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離縁ニ因リテ止ム

養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト

養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

一 養親カ隱居シテ婚姻ニヨリ他家ニ入りタル場合ニ於テハ養家ニアル養親ノ血族ト養子トノ間ノ親族關係ハ消滅セス（法記十

九卷四號四三頁）

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相續、分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス

一 夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキハ繼父母ト繼子トノ親族關係ハ消滅スヘキモノ（民法第七百二十九條第二項）分家ノ場合ニハ其親族關係ハ消滅スヘキ

モノニ非ス（三十四年七卷一一頁大判判）

二 民法施行前ニ於テモ繼親子ノ親族關係ハ分家ニ因テ絶止スヘキ法則存生シタルコトナシ（三十九年一月十八日大判判）

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス

戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戸主及ヒ其家族ハ新戸主ノ家族トス

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル

父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル

父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

一 民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルトト指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルトモ即チ親子ノ同様ヲ云フニアラス(三十二年二卷三二頁大判)

二 私生子カ認知サレタルトキハ父ノ家ニ入ルハ民法ナリ然レトモ已ニ戸主タル身分ヲ得シ者ハ私生子トシテ認知サレシ場合ニハ戸主タル身分ハ喪失セズ繼令戸籍吏カ右認知ニ基キ誤ツテ之ヲ除籍シ他ノ者ヲシテ代テ相續戸主ト爲ルモ私生子ハ依然トシテ戸主權ヲ保有スルモノナリ(最近判一三三頁東控判四十年一月廿九日判決)

三 民法第七百三十三條ニ依レハ子ハ父ノ家ニ入ルヘキモノナル旨規定シアルヲ以テ謂レナク他人ノ戸籍ニアル子ニ對シ父ハ之ヲ自己ノ戸籍ニ入籍セシムル手續ヲ爲スノ義務アルモノトス又

民法施行法第六十二條第六十三條ノ規定ハ民法施行前ニ於テ當時ノ法律ニ從ヒテ其戸籍ノ定マリタルモノハ民法ノ施行ニ因リテ之カ變更ヲ受ケサル旨ヲ規定シタルモノニシテ其然ラサル場合ニ於テハ斯ル效果ヲ生セス民法ノ規定ニ支配サルモノトス(法新五三八號一三頁四十二年十一月十日東控判)

四 嫡出子ハ當然其父ノ戸籍ニ入ルヘキモノニシテ故ナク他人ノ戸籍ニアル時ハ父家ノ戸籍ニ入籍スルノ權利ヲ有ス繼令民法施行前ヨリ他家ニ在ル場合ト雖當時ノ法律ニ從ヒテ定マリタル戸籍關係ニ非ラサル限りハ民法施行法六二條同六三條ヲ適用セズ依然トシテ嫡出子ハ父ノ家ニ入ルノ權利ヲ有スルモノトス(最近判三卷一三八頁四十二年十一月十日東控判)

第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

一 父カ離縁ニ因リ子ノ懷胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テハ子ノ懷胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相続開始スルモノハ法定ノ推定ノ家督相続人トシテ相續又ハ代承

相續ノ權ナシ(四十年十月二十五日大判)

二 父母トモニ養子ニシテ子ノ出生前ニ離婚離縁ニ因リ相前後シテ各養家ヲ去リタルトキハ出生子ハ父ノ家ニ入ルヘキ養家ニ入ルヘキモノニアラス(法記二十卷四號三四頁)

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス

庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル

私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

一 家族ノ庶子ハ戸主ノ同意アルニ非レハ其家ニ入ルコトヲ得サルヲ以テ認知シタル父カ戸主ニ非スシテ家族ナルトキハ其庶子ヲ其戸主ノ家族ト爲スノ法律上ノ義務アルモノニ非ス(法新一一三號九頁三十五年十一月十九日東控判)

二 庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ母ノ家ニ入ル場合ハ母ノ家ノ戸主ノ同意ヲ要ス(法記十八卷八號五四頁)

第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル

但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

一 入夫婚姻ノ場合ニ於テ當事者カ入夫ヲ戸主ト爲サス依然女戸主ヲ其繼續權セント欲セハ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示セサルヘカラス而シテ婚姻ハ戸籍吏ニ届出スルニ因リ始メテ其效力ヲ生スルモノナレハ其反對ノ意思表示モ亦婚姻ト同時ニ届出シヘキモノトス(法新一一三號四頁三十五年十月二十八日東控判)

五年十月二十八日東控判)

三 入夫婚姻ヲ爲シタル當時其婚姻届書ニ入夫カ戸主タラサルノ意思表示ヲ表ササルトキハ入夫ハ當然戸主トナルヲ原則トス故ニ繼令右當事者間ニ於テ反對ノ意思表示ヲナスモ届書ニ其旨記載セサリシ時ハ法律上何等ノ效力ヲ生セス(最近判三卷二二四頁四十二年十月十五日東控判)

二 入夫婚姻ノ場合ニ於テ特ニ反對表意ノ届出ナキ限りハ入夫婚姻ノ届出ト同時ニ入夫ハ當然女戸主ノ家督ヲ相續シ其家ノ戸主ト爲ルモノナルヲ以テ家督相續ノ届出ヲ取消シタルハトテ入夫ハ戸主タル資格ヲ喪失スルモノニ非ス(法新一一三號五頁三十五年十月十五日東控判)

四 女戸主ニ入夫婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テハ反對ノ意思表示ナキ限り其者ハ戸主トナルモノニシテ其反對ノ意思表示ハ必ス登記セサル可ラサルモノトス(法新五三四號一頁四十二年十月十五日東控判)

第七百三十七條 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得但其者カ

他家ノ家族タルトキハ其家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ニ掲ケタル者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 戸主ノ親族タルト否トヲ論セス他家ニ在ル者ハ法令ノ明文ナキ以上ハ戸主ノ同意ヲ得ルニ非レハ其家ニ入ルコトヲ得サルハ民法施行以前ニ於テモ法理トシテ認メラレタル所ナリ(三十七年十一月一日大判)

二 戸主ノ親族ニシテ甲家ヨリ乙家ニ轉籍セント欲スル場合ニ於テ兩家ノ戸主ノ同意ヲ缺クカ如キ違法アルトキハ其轉籍ハ後日之ニ關スル登記取消ノ手續ヲ爲シタルト否トニ拘ラス兩家ノ戸主ニ對シテ無効ナリトス(三十八年六月五日大判)

三 民法第七百三十七條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ於テハ法定ノ推定家督相續人ナルカ故ニ其家ヲ去ラシメントスルニハ廢除ヲナスコトヲ要ス(法記十九卷四號四六頁)

四 單身戸主カ他家ニ在ル自己ノ女及ヒ其女孀ヲ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ自己ノ家ニ入籍セシメタル場合ニハ家督相續人ハ其女孀ニアラスシテ其女ナリ右ノ場合ニ於テ戸主ハ其女孀ヲ養子トナスコトヲ得(法記十九卷十一號三六頁)

第七百三十八條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト爲サント欲スルトキ亦同シ

一 民法第七百三十八條第一項ニ依リ養家ニ入籍シタル養子ノ干ハ養親ノ法定推定家督相續人ト爲ラス(法記十九卷一號三五頁)

第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ササリシ戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

一 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ甲家ヨリ乙家ニ入リタル後更ニ丙家ニ入リタル者カ離婚又ハ離縁ヲ爲シタルトキハ乙家ニ復籍スヘキモノトス(法記十七卷六號一四頁四十年六月十五日委員會第一科決議案)

第七百四十二條 離縁セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入リタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戸主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコトヲ得(二十五年法律第三十七號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス(同上)

- 一 戸主ノ同意ナクシテ届出ハ私法上何等ノ效果ヲ生セサルヲ以テ公法上ノ效果（即チ戸籍吏カ届出ノ受理若クハ却下ヲ爲スヘキ職務ノ發動）ヲ生スルモ其届出ヲ取消シ得ヘキモノニアラス（法新五八號一〇頁三十四年十月十一日東地判）
- 二 分家ノ行爲ハ廢嫡ト異リ任意行爲ナルヲ以テ其分家者ノ意思ニ反シテ爲スコトヲ得ヘキモノニアラス（三十五年二月一日大判）
- 三 家族ノ分家ニ對スル戸主ノ同意權ハ戸主ノ絶對的自由ノ權能ニ屬シ契約ヲ以テ之ヲ拘束シ得ヘキモノニ非ス從テ戸主ハ一旦分家ニ同意ヲ爲シタル後ト雖モ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス（法新四五七號五頁仙臺地判）
- 四 分家ハ他家ノ家族タル者ハ其家ノ戸主權ヲ脱シテ別ニ一家ヲ

新立スル行爲ニシテ從ツテ分家者ノ身分上重大ナル利害關係ヲ及ボスモノナレハ其分家者ノ自由ナル意思ニ依リ之ヲ爲スヘクシテ決シテ其意思ニ反シテ之ヲ爲サシムヘキモノニ非ス而シテ分家者ノ自由ナル意思ハ其届出ヲ爲ス際ニ存スルコトヲ要ス故ニ家族カ戸主或ハ他家族其他ノ第三者ニ對シテ後日分家チナサンコトヲ契約スルモ其契約ハ無効ナリ又分家ノ效力ハ分家者カ自由ナル意思ヲ以テ分家チ戸籍吏ニ届出テタル時ニ發生スルモノニシテ此以外ノ場合ニハ發生スルコトナシ（法新五〇二號一〇頁四十二年四月廿八日大阪控判）

五 本家ノ法定ノ推定家督相續人ハ分家ノ家族ト爲ルコトヲ得ス（法記第十七卷十號二三頁）

第七百四十四條 法定ノ推定家督相續人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

- 一 法定ノ推定家督相續人ハ廢嫡離籍等ノ手續ニヨラスシテ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得サルハ民法第七百四十四條ノ規定スル所ニシテ同條ハ公益規定ナレハ同條ニ違背スル分家届出ハ縱令戸籍吏ニ於テ之ヲ受理シテ登記シタリトスルモ法律上何等ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス（法新五六八號一〇頁福岡地判）
- 二 養子縁組カ民法第七百四十四條ノ強行的規定ニ違反セリトノ理由ノミチ以テ直ニ公ノ秩序ニ反スル無効ノ縁組ナリト云フヲ得ス（法新六三五號一四頁大阪地判）
- 三 法定推定家督相續人カ民法第七百四十四條第二項及第七百四十九條第二項ニ依リ離籍セラレタルトキハ後日家督相續開始ノ際相續人ト爲ルコトヲ得ス被相續人ノ孫ニシテ相續開始前分家
- 四 養子ノ直系卑屬ハ養子ノ離縁ニ因リ之ト共ニ當然養家チ去リヘキモノニ非サルヲ以テ其直系卑屬ニ付テハ民法第七百四十四條第一項ノ適用アルヘク又其入籍ニ關シテハ入籍手續ニ依ラサルヘカラス（法記廿卷四號三八頁）

- シタル者ハ相續開始ノ際相續人トナルコトヲ得ス（法記十九卷一號三九頁）
- 四 法定ノ家督相續人ハ戸主ノ意ニ反シテ他人ノ養子又ハ婿養子トナルコトヲ得ス（法記十九卷七號二七頁）

第七百四十五條 夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

總則 雜部

- 一 一旦戸主ト爲リタル以上ハ如何ナル事實證據アリト雖モ之ヲ廢退セシムルコトヲ得ス（三十三年二卷六二頁大判）

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

- 一 絶家再興者ハ其家ノ氏ヲ稱シ得ヘキモ其絶家ノ戸主ニ屬シタル處ノ財産權ヲ承繼シ得ヘキモノニアラス（法新一一八號一三

頁三十五年十二月四日東控判）

第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ

- 一 家族カ其戸主ニ對シテ有スル扶養ノ請求ノ正當ナルニハ扶養義務者タル戸主カ家族ヲ扶養スルニ足ル資力ヲ有スルコトヲ要

件トス（法新二五號八頁三十四年二月二十一日東控判）

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

- 一 戸主又ハ家族ノ就レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ戸主ノ財産ト推定ス

- 一 家族カ戸主ト別居セル事實ヲ證據トシテ其住所ニ存在スル財產ハ家族ノ特有財産ナリト推定シタル場合ニハ民法第七百四十

八條第二項ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス(四十二年四月四日大判)

二 民法第七百四十八條第二項ノ規定ハ同一ノ家ニ屬スル戸主ト家族トノ間ニ於ケル財産關係ニ適用セラルヘキモノニシテ或家

ノ戸主ト他家ノ家族トノ間若シクハ或家ノ戸主ト他家ノ戸主トノ間ニ於ケル財産關係ニ付キ適用サルヘキモノニ非ス(法新六二五號一六頁長崎地判)

第七百四十九條

家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

一 家族ニシテ民法施行後ニ至リ戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得(三十三年三卷一頁大判)

二 戸主ハ一旦家族ニ對シテ他ニ寄留スルコトヲ認許セル後ト雖モ一家ノ整理上之ヲ歸家セシムルノ必要生ザルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ其居所ヲ轉スヘキ催告ヲ爲シ之ニ應セサルトキハ戸主ハ其家族ニ對シテ扶養スルコトヲ停止シ又ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモ強テ歸家セシムルコトヲ得ス(三十三年三卷六五頁大判)

三 推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ヘキモノニ非ス(三十三年八卷八頁大判)

四 離籍ヲ爲スノ權ハ戸主ノ家族ニ對スル特權ノ一ナレハ戸主以外ノ者ニ於テハ或ル家族ニ對シ離籍又ハ其ノ取消ノ手續ヲ爲スノ權能ナキモノトス(法新八號六頁三十三年十月二十四日東地判)

五 離籍ハ戸主ノ權利ニシテ其離籍セラルル家族カ自活シ得ルモノタルト否トハ固ヨリ其間ヲ所ニアラス(法新一號七頁三十

三年十一月十三日東地判)

六 民法第七百四十九條第三項ノ催告後爲シタル離籍ノ實質ニ本法ノ點アリテ離籍カ取消サレ更ニ之カ手續ヲ行フヘキ場合ニ在テハ改メテ催告ヲ爲スノ必要ナシ(三十三年十一月十三日大判)

七 七百四十九條ニ規定シタル戸主權ハ一家整理ノ必要上付與シタルモノニシテ絕對無限ノモノニ在ラス(三十四年十一月二十一日大判)

八 家族タル繼母カ戸主タル繼子ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受ケ止ムヲ得ス他家ニ寄留スルニ至リタル場合ハ所謂戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルモノト云フコトヲ得ス(三十四年十二月一日大判)

九 家族カ戸主ノ指定權ニ服セス勝手ノ場所ニ住居セルモ強制執行ヲ以テ戸主ノ指定シタル場所ニ轉居セシムルコトヲ得ス(法新二八七號一五頁三十八年六月十日長野地松本支部判)

十 民法第七百四十九條ニ所謂戸主カ離籍シ得ヘキ家族中ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ包含セス(法新三三三號一三頁三十八年十一月二十八日大阪地判)

十一 戸主カ民法第七百四十九條ノ規定ニ違背シテ家族ヲ離籍シ之ヲ戸籍吏ニ届出テタルトキハ其家族ハ戸主ニ對シ身分登記原狀回復ノ手續ヲ爲サシムルノ權利アリ(四十年二月十六日大判)

十二 民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ絕對無限ニ行

使スルヲ得スシテ一家ノ整理ニ必要ナル範圍内ニ於テノミ行使スルヲ得ヘク戸主ノ同意ヲ得テ家族ノ居所ヲ定メタル場合ニ其居所ヲ轉セシムルニハ一家ノ整理上止ミ難キ相當ノ理由ノ存スルコトヲ必要トス(法新四三三號九頁四十年七月二日長崎地判)

十三 民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ家族ニ對スル居所指定權ハ絕對無限ニ行使スルコトヲ得ルモノニ非ラスシテ一家ノ整理ニ必要ナル範圍内ニ於テノミ行使スルヲ得ヘキモノナルヲ以テ戸主ハ何等ノ理由ナク隨時ニ之ヲ行使スヘキモノニ非ス(法新四九三號一七頁四十二年三月二十六日大阪地判)

十四 家族カ或事情ニヨリ戸主ノ同意ヲ得テ別居シタル場合ニ於テ戸主ハ正當ノ事由アルニアラスハ該家族ニ對シ安リニ同居ヲ求メ得ヘキモノニ非ラス(法新五三二號一五頁四十二年九月二十一日長崎地判)

十五 法定推定家督相續人カ婚姻ニヨリ他家ニ入ラントスル場合ニハ戸主ノ同意ノ有無ニ拘ハラズ戸籍吏ハ絕對ニ其届書ヲ處理スヘカラサルモノトス(法新五四四號一二頁四十二年十一月三十日長崎地判)

十六 未成年者ノ爲メニ設ケタル親族會ノ補缺員選定ノ申請ハ民法第九百四十九條列記ノ者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得(法記十八卷五號四四頁)

十七 未成年ノ養子カ養家ニ在ル間ニ設ケタル親族會ハ其者カ離縁ニ因リ實家ニ復籍シタル場合ニ於テハ消滅ス(法記十九卷七

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ離婚ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離婚セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス

一 一人ノ身分ニ關スル戸主權ノ如キハ戸主カ之ヲ行フコト能ハサル場合ノ外契約ハ勿論親族會ノ決議ヲ以テスルモ其權利ノ行使ヲ左右シ得ヘキ性質ノモノニ非ス(法新一一號七頁三十三年十一月十三日東控判)

二 民法第七百五十一條ニ戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ云々トアルハ戸主アルモ事實上其權利ヲ行使

戸主及家族ノ權利義務 雜部

一 家族カ其特有財産ヲ自由ニ處分シ得ヘキハ臺灣島ノ習慣ナリ又螟蛉子(螟蛉子トハ養子ヲ云フ)ハ臺灣島ノ慣習上之ヲ買斷シ其契約ノ成立スルト同時ニ螟蛉子ト實家トノ身分關係斷絶ス

スルコト能ハサル場合ハ勿論戸主ナク從テ戸主權ヲ行使スル者ナキ場合ニ於テモ親族會ハ戸主權ヲ行フトノ注意ナリト解釋スヘカラス又同條ニ云ヘル親族會ハ家族ノ親族會ニ非スシテ其戸主又ハ其家ノ親族會ナリトス(法新三〇二號一〇頁三十八年八月二十一日東控決)

ルモノナルヲ以テ繼令其届出テ了セス又實家ニ父母アリトスルモ其親權ニ服スヘキモノニ非ラス(法新五三三號一四頁四十二年八月七日覆審法院判)

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ヲ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス

一 滿六十年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト

第七百五十三條 戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再與其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲナスコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキモノヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

一 戸主カ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲサントスルニ當リ法定ノ推定家督相續人ナキトキハ豫メ相續人タルモノヲ指定シ其承諾

ヲ得ルコトヲ要ス(法新六二三號一六頁長崎地判)

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコトヲ得

戸主カ隱居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隱居ヲ爲スコトヲ得

有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同

意ヲ拒ムコトヲ得ス

一 女戸主カ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ民法第七百五十五條第七百五十二條ノ規定ニ依リ隱居ヲ爲スコトヲ妨

ケス(法記二〇卷四號三九頁)

第七百五十六條 無能力者カ隱居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

一 未成年者カ隱居ヲ爲スニハ自ラ其事ノ利害得失ヲ判斷スル能カヲ具備スレハ足ル而シテ未成年者ニ如上ノ能力アルヤ否ヤヲ

判定スル事實ハ承審官カ年齡其他ノ狀況ヲ考察シテ定ムヘキ事實問題ニ屬スルモノトス(四十二年十一月一日大判)

第七百五十七條 隱居ハ隱居者及其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ルニ因リテ其效力ヲ生ス

一 戸籍吏ニ於テ隱居ノ届出ヲ受理シタル以上ハ縱令届出手續ニ

其届出ニ署名捺印セシムヘキコトヲ規定シアルモ右ハ何モ普通

親統アルモ特別ノ明文ナケレハ其届出ハ當然無效ニ歸スヘキモノニ非ス(三十七年十月一日大判)

二 民法第七百五十七條ニハ隱居ハ隱居者及其家督相續人ヨリ届出シヘキコトヲ定メ戸籍法第二百一十一條ニハ家督相續人ヲシテ

ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ法定ノ推定家督相續人アル戸主カ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲナス如キ特別ノ場合ヲ豫見シタルモノニ非ラス(法新五五九號一三頁四十二年二月二日札幌地判)

第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居届出ノ日ヨリ三箇月内ニ第七百五十二條又ハ第七百五

十三條ノ規定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間内ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

一 民法第七百五十八條ニ於テ隱居者ノ親族ニ隱居取消ノ請求權ヲ許可シタル以上ハ當然隱居者ノ親族ニ隱居無效ノ確定ヲ請求

スル權利ヲ認容シタルモノト解釋スルヲ至當トス(法新四七六號五頁四十年十二月二十四日大阪控判)

第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキハ隱居者

又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隱居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス

前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ハ其取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得但家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ對シテノ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人カ家督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付キ亦同シ

一 民法第七百六十條ノ規定ハ同法第七百五十九條ニ所謂隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル

後其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタルトキニ於テ隱居ノ届出ヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノトス(三十二年十卷四〇頁大判)

第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者

三及七債務者ニ其通知ヲ爲スニ非レハ之ヲ以テ其債權者及七債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

一 民法第七百六十一條ノ規定ハ慣習法ニ無キ所ナルヲ以テ民法
「施行前ニ生シタル事項ニ適用スルヲ得ス」(三十二年四卷四六頁
大判)

二 民法第七百六十一條ニ隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失
ハ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者債務者ニ其通知ヲ
爲スニ非サレハ之ヲ以テ其債權者及債務者ニ對抗スルヲ得スト
アルカ故ニ債權者及債務者ニ對シテハ隱居ニ因リ前戸主ノ債權
債務ハ當然家督相續人ニ移轉スルモノトシ之ニ對抗スルコトヲ
得サルノミナラス民事訴訟法中隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於
テ訴訟ヲ手續中斷スヘキ規定アルナシ故ニ隱居ニ因ル家督相續

ノ場合ニ於テ訴訟手續中斷ノ規定即チ當然訴訟行爲不能ノ效果
ヲ生スヘキ規定ヲ適用スヘキモノニ非ラス(法新五四六號一三
頁四十二年十二月十六日大判)

三 隱居ニ因ル戸主權ノ喪失ハ之カ通知ヲ爲スニアラサレハ前戸
主ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ前戸主又ハ其家督相
續人ト前戸主ノ債權者トノ關係ニ於テハ前戸主ヲ以テ依然債權
者ト看做ササルヘカラス從ツテ其前戸主カ更ニ分家シテ後チ死
亡ニ因リ家督相續開始セハ分家後ノ家督相續人ヲ以テ債權者ト
看做ササルヘカラサルハ必然ノ結果ナリ(最近判五卷五號四十
二年五月一日名古屋控判)

第七百六十二條 新ニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但本家ノ相續又ハ再與其他正當ノ事
由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十三條 戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル

第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創
立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ、他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家
ニ入ル

前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

戸主權ノ喪失 雜部

一 隱居家督相續等ノ如キ身分ノ得喪ニ關スル行爲ノ無效又ハ取
消請求權ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外債務
者ハ之ヲ有シ若クハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス(三十六年
七月七日大判)

二 隱居ハ本人ノ自由ナル意思ニ出ツルコトヲ要ス故ニ親權者カ
意思能力ナキ幼者ヲ代表シテ爲シタル隱居ハ法律上無效ナリ
(法新四七六號五頁四十年十二月二十四日大阪控判)

三 隱居者ニ於テ或ル一定ノ日ニ於テ隱居セント欲スルノ意思ア
リトスレハ其届出ヲ爲スノ意思ヲモ之レアリタリト説明スヘキ
ハ當然ナリ故ニ他ニ特殊ノ理由アルニ非サレハ其日ニ於テ戸籍
吏ニ届出タル隱居届ハ一應隱居者ノ意思ニ出テタルモノト推定
スヘキ筋合ナリ(法新五四一號一八頁四十二年十一月八日大判)
四 戸主權ハ民法施行前ニ於テモ拋棄スルコトヲ得サル權利ニ屬

スルヲ以テ或ル者ニ對シテ之ヲ主張セサル旨ノ契約ヲナシタリ
トスルモ戸主ノ有スル戸主權ノ確認并ニ相續ノ無效確認ヲ求ム
ル權利ヲ失フモノニ非ラス(法新五八四號一〇頁大阪地判)

五 戸主カ隱居ヲ爲スヘキヤ否ヤノ如キハ戸主カ自ラ其自由意思
ヲ以テ決定スヘク他人ヲシテ代之ヲ決セシムルノ必要存セ
サルニ依リ如上ノ權利ハ常ニ戸主ノ一身ニ專屬セシムヘキモノ
トス反之戸主權ノ實行ハ一家ノ經營上一日モ缺クヘカラサルノ
ミナラス他人ヲシテ代之ヲ實行セシムルモ戸主ニ重大ノ不
利益ヲ生スルモノニ非サレハ戸主カ無能力者ナル場合ニ於テハ
法定代理人ヲシテ代之ヲ實行セシメ得ヘキモノトス又民法
第八百九十五條ニ所謂戸主權ノ實行中ニハ隱居ヲ爲ス如キ行爲
ヲ包含セサルモノトス(法新六一六號一〇頁德島地判)

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

一 十四歳ノ婦女ハ婚姻ヲナス事實上ノ能力ヲ絕對ニ缺如スルモノト斷定スルコトヲ得ス又民法施行前ニアリテハ事實夫婦トシテ同様シ親族隣佐モ亦之ヲ夫婦ト認メ其事實アリタル以上ハ戶籍上婚姻ノ届出ヲナスト否トニ拘ハラズ婚姻ノ效力ヲ生シタル

モノナリ而シテ民法施行前ニ爲シタル婚姻ト雖民法施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生スルモノナルヲ以テ妻ハ夫ト同居ノ義務アルモノトス(法新四九六號一〇頁四十二年四月二日長崎地判)

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十年女カ滿

二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 父母十五年未滿ノ場合ニ於テ其子カ養子縁組ヲ爲スニハ民法第七百七十二條第三項ヲ準用シ子ノ爲メニ親族會ヲ設ケ其親族會ニ於テ縁組ノ承諾ヲ爲スヘキモノトス(法記十九卷二號四一頁)

二 父カ豫メ婚姻ニ同意ヲ與ヘタル場合ニ於テ婚姻ノ届出ヲ爲スニ際シ父死亡シタルトキハ同意ノ意思表示ハ無効ナリ(法記二十卷四號二九頁)

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲ス

コトヲ得

第七百七十四條 禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス

コトヲ要ス

一 婚姻ハ戶籍吏ニ届出テサル限りハ縱令儀式ヲ擧ケ事實上ノ婚姻アリトスルモ法律上成立セサルモノトス(法新一一號八頁三

十三年十一月十一日大東裁判

二 民法施行前ニアリテハ婚姻ハ戸籍ニ其登記ナキモ實際夫婦タル事實ノ存スル以上ハ婚姻ハ完全ニ成立ス從テ實際婚姻シタル年月日ト戸籍簿上ノ婚姻年月日ト相違アルトキハ之カ變更ヲ申請シ得ヘキモノトス(法新五二二號一三頁四十二年八月二十一日東地判)

三 民法施行前ニ於テハ實際夫婦タル事實ノ存スル以上ハ法律上之ヲ婚姻シタルモノト看做シ又離別ノ意思ヲ以テ事實上夫婦關係ヲ絶タル時ハ之ヲ離婚シタルモノト看做シ共ニ届出ヲ俟タスシテ有效ニ成立シタリ(法新五三三號一四頁四十二年十月十五日東地判)

第七百七十六條 戸籍吏ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百五十四條第一項、第七百六十五條乃至第七百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス但婚姻カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十四條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラス當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十七條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

婚姻ノ要件 雜部

一 婚姻ノ豫約ナルモノハ法律上無効ノモノナリ從テ其豫約ヲ履行セサレハトテ敢テ違約ノ責ニ任スヘキモノニ非ス(法新二九號六頁三十四年三月二十二日東地判)

方ノ自由ナル意思ノ存スルヲ必要トスルカ故ニ將來婚姻ヲ爲スヘシトノ豫約ノ如キハ法律ノ認許セサル所ナリトス(三十五年三月八日大判)

二 婚姻ニ付テハ民法施行ノ前後ヲ問ハス婚姻ノ時特ニ當事者雙方ニ贈與スルモノナレハ假令其婚姻カ成立スルニ到ラスシテ止ミタリトスルモ之カ爲メ其結婚品ノ取戻ヲ請求スルヲ得サルモノトス(法新九〇號四頁三十五年五月十一日東地判)

年以後ノ制度ニシテ其以前ハ單ニ届出ノ形式ノミニテ足レリ而シテ民法實施前ニ於テ願濟嗣子届出嗣子養嗣子ノ制度アリトスルモノヲ以テ直ニ相續權ヲ發スルトノ事ハ當時ノ法規又ハ慣習上之ヲ認ムル者ナシ又宮内大臣ニ對スル届出ハ單ニ爵位局ノ事務整理上ノ處置ニ過キスシテ之カ爲メニ相續權ヲ取得スヘキモノニ非ラス尙法定ノ相續順位ハ父母ノ結婚届出ト同時ニ發生スルモノニシテ民法施行前ト雖裁判上認メラレタル慣習ナリ(法新五四八號一一頁東地判)

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲スノ意思ナキトキ
- 二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止ルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

一 民法施行前ト雖モ人違其他ノ事由ニ因リ當事者カ婚姻ヲ爲スノ意思ナキトキハ假令届出及ヒ登録アルモ法律上婚姻ノ效力ヲ發生スルコトナシ(三十七年十月八日大判)

ルニモ拘ラス裁判所ニ對シテ當事者間ノ婚姻ヲ無効トスルノ創設的宣言ヲ求ムルハ請求自體ニ於テ不當ナリ(法新三三八號九頁三十九年二月一日東地判)

姻スルノ意思ニテ届書ニ連署スルモ其届出ヲ了セスシテ止ミタルトキハ後日ニ至リ其届書ノ年月日ヲ訂正シテ戸籍吏ニ届出ツルモ爲メニ法律上夫婦關係ハ生セス(最近判二卷一三七頁四十年四月十六日東控判)

六 夫婦間年齢ノ相違甚ダシキ事ニ因リ婚姻ノ意思ナキモノト斷定スルコト能ハス而シテ婚姻届ニ署名捺印セザリシトスルモ已ニ婚姻ノ意思ヲ有シタルモノト認メ得ルニ於テハ民法第七百七

十八條第二號但書ニ依リテ婚姻ハ無効トナルヘキモノニ非ス又夫カ妻ニ著シキ不行跡アリト確信スヘキ相當ノ理由ヲ有シタル場合ニ於テ公然之ヲ他人ニ暴露スルニ非ラス單ニ妻ノ實父母ニ對シ其確信シタル事實ヲ書面ニテ通報シ胸中ノ煩悶ヲ訴フルハ妻及其直系尊屬ニ對シ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルモノト認ムル能ハス(法新五四六號一頁大阪控判)

第七百七十九條 婚姻ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百八十條 第七百六十五條乃至第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者其戸主親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタル後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六十六條乃至第七百六十八條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得

一 民法第七百八十條ニ因リ檢事カ婚姻取消ノ訴ヲ提起シタル後ト雖モ其判決前ニ於テ離婚アリタルトキハ不法婚姻ハ解消セテ

レタルヲ以テ檢事ノ取消訴權ハ自ラ消滅スルモノトス(三十三一年一〇卷八二頁大判)

第七百八十一條 第七百六十五條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三箇月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追

認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

一 根本的不成立ノ婚姻ハ取消ヲ爲スヘキモノニアラサレハ民法第七百八十一條ヲ適用スヘキモノニ非ス(法新二六號八頁東控判)

第七百八十二條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十三條 第七百七十二條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六箇月ヲ經過シタルトキ
- 二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ
- 三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ

第七百八十五條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三箇月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタル

トキハ消滅ス

一 民法第八百五十九條及七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯タ縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯

誤チ來シタル場合ヲ規定セルモノトス(四十年十二月十三日大判)

三六〇

第七百八十六條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後二箇月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百八十七條 婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ホサス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要ス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七百八十九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ス

一 妻ハ夫ト同居ノ義務ヲ有スサレトモ其夫ニシテ妻ニ對シ同居ニ堪ヘサル暴行ヲ加フルニ於テハ妻ハ別居ヲナシ得ヘシ而シテ其暴行ヲ理由トシテ別居ノ請求ヲナサントスルニハ其暴行カ現ニ爲サレタルコトヲ要スルモノニシテ過去ノ暴行ヲ理由トシテ別居ヲ請求シ得サルモノトス(法新四九六號二〇頁四十二年三月廿五日東地判)

二 婚姻ノ最大目的ハ異性ノ同棲ニアルヲ以テ苟モ婚姻ヲ持續スル限リ夫婦同居ヲ異ニスル如キハ我民法ノ認メサル所ナリ從テ夫婦同居ノ義務ヲ履行スル爲メ偶戶主權ノ行使ヲ妨クル結果ヲ生スルコトアルモ是レ夫權ノ戶主權ニ優越スル所以ノ一現象ニ外ナラス是ヲ以テ公ノ秩序ニ悖戻スルト云フヲ得ス(法新五二九號一四頁四十二年九月二十六日長崎地判)

第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲナス義務ヲ負フ

第七百九十一條 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

一 民法第七百九十一條ハ未成年ノ女カ婚姻スルトキハ親權者ノ存スルト否ト後見ノ開始スルト否トナ間ハ婚姻ノ效力トシテ成年ノ夫カ直ニ其後見人ノ職務ヲ行ヒ民法第九百二十一條ニ定メタル權利義務ヲ有スヘキ旨ヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス(三十六年二月二十日大判)

二 成年ノ夫カ未成年者ナル妻ニ對シ後見ノ職務ヲ行フニハ民法

中後見ノ事務ニ關スル規定ニ從フヘキモノトス隨テ未成年ノ妻カ借財ヲ爲シ抵當權ヲ設定スル場合ニ於テ成年ノ夫カ同意ヲ與フルニハ民法第九百二十九條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ要スルモノトス(法新四〇五號八頁三十九年十二月二十六日長崎地判)

第七百九十二條 夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ

取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第三節 夫婦財產制

第一款 總則

第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ非レハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危クシタルトキハ他ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得

第七百九十七條 前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共有財産ノ分割ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二款 法定財産制

第七百九十八條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タルトキハ妻之ヲ負擔ス
前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

一 法律上夫妻關係生セストスルモ事實上婚姻關係ヲ持續スル以上夫ハ一家ノ生活費用ヲ負擔セサルヘカラス從テ家事費用融通ノ爲メ一時妻ノ所有物ヲ借受ケ入質流用シタル場合ニ於テハ夫ハ之カ返還ヲ爲スヘキ義務アルモノトス(法新六二五號一四頁 四十二年十二月十五日東地判)

第七百九十九條 夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス
夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス

一 妻ノ財産ニ對スル夫ノ收益權ハ夫婦關係ノ繼續中ニ限り存立ス(解消後ト雖モ夫タリシ者之ヲ取得スヘキ權利ヲ有スルハ當然ナリ(四十年一月二十一日大判))

第八百條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

一 民法第八百一條ハ妻ノ財産ニ對スル夫ノ管理權ヲ認メ同第八百二條ハ夫カ妻ノ爲メニ又妻ノ財産ニ付キ同條列記ノ法律行爲ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ必要トスル規定ニシテ妻ノ爲シタル法律行爲ニ付キ夫カ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス(三十九年六月一日大判)

第八百二條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ妻ノ財産ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超

エテ其貸貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラ

ス
(第八〇一條三十九年六月一日大判参照)

第八百三條 夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

一 離婚判決確定前事實上別居中タリトモ反證ナキ限り夫婦關係ノ存續中ニ受取リシ貸料ヲ妻カ家事費用ニ當テタル事實ヲ否定スルコトヲ得ス(最近判一卷五一頁四十年三月十四日東地判)

第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スル事ヲ得ス

第八百五條 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲナスコトヲ要ス

第八百六條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八百七條 妻又ハ夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

一 夫婦間ノ財産關係又ハ戸主家族間ノ財産關係ハ其妻又ハ其家族ノ特有財産タルコトノ反證ナキ場合ハ其夫又ハ戸主ノ特有財産ト推定セサルヘカラス唯々其財産カ婦人用ノ物件ナリト云フ
ノミテ以テ他ニ特有財産タル反證ナキニ拘ラス直ニ妻ノ財産ナリト認ムルコトヲ得ス(最近判一卷一六六頁四十年十月十日東地判)

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

一 離婚ハ戸籍吏ニ届出ツルニ非レハ其效力生スルモノニアラス
從テ離婚ヲ爲ス旨ノ合意ヲ爲ス事アルモ法律上無効ナルヲ以テ
之ニ基キ離婚ヲ爲スヘシトスルノ請求ハ不當ナリトス(法新八五號七頁三十五年三月十二日東地判)

第八百十一條 戸籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラレルコトナシ

第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス

父カ離婚ニ因リ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ屬ス

前二項ノ規定ハ監護ノ範圍内ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ

一 當事者間ニ協議上母ヲシテ監護セシムルコトヲ定メサリシ限リハ離婚ノ結果子ノ監護ハ父ニ屬ス(注新三七號一〇頁東控判)

第二款 裁判上ノ離婚

第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三 夫カ姦淫罪ニ因リ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條、第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受クタルトキ

- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
- 十 婚養子縁組ノ場合ニ於テ縁縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ縁縁若クハ縁組ノ取消アリタルトキ

一 民法第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄ハ扶養義務ノ如何ニ關セス夫婦ノ一方カ惡意ヲ以テ他ノ一方ヲ遺棄スルヲ云フ(三十二年一〇卷一六頁大判)

二 我國古來ノ慣習上夫カ私カニ他女ト通シタレハトテ直ニ其妻ヲ侮辱シタリト云フヲ得ス(注新九三號五頁三十五年五月三十日大阪地判)

三 民法第八百十三條第八號ニ所謂重大ナル侮辱トハ配偶者ノ一方ノ他ノ一方ノ直系尊屬ニ對シテ爲シタル行爲自體ノ狀態ニ基キ判斷スヘキモノニシテ行爲ノ場所ニ第三者ノ存在スルト否トハ毫モ相關スルコトナシ(三十六年二月七日大判)

四 侮辱行爲ハ其行爲者カ苟モ云爲スル意思アリテ云爲スルトキハ之ヲ構成スルニ足ルモノニシテ侮辱ヲ加フル意思アリシヤ否ヤハ必ラスシモ之ヲ審究スルノ要ナシ(三十六年二月七日大判)

五 離婚ノ原因アル場合ニ於テ其請求權アル者ハ之ヲ請求スルト

否トノ自由ヲ有スルト同時ニ假令離婚ノ判決確定スルモ之ヲ執行スルト否トハ亦其自由ナルヲ以テ請求者ニ對シ離婚ヲ強要スルコトヲ得ス(三十六年十二月七日大判)

六 夫カ重病ニ罹リ起居進退不自由ナルヲ願ス家ヲ出テ看護ヲ爲ササル妻ノ行爲ハ惡意ノ遺棄ヲラサルトキト雖モ夫ニ對シテハ同居ニ堪ヘサル虐待ト爲ルコトアルヲ妨ケサレハ裁判所カ如上ノ事實ノ存在ヲ認メタル以上ハ當事者ノ關係ニ於テハ所謂虐待ト爲ルヘキ事實ナリヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス(三十六年十二月十二日大判)

七 夫婦ノ際一時憤怒ノ情ニ堪フルコト能ハスシテ夫若クハ婦カ其配偶者ヲ毆打スルコトアルモ粹ニ指シ以テ同居ニ堪ヘサル虐待ナリト云フヲ得ス(三十七年九月十七日大判)

八 夫カ正當ノ理由ナク竹棒ヲ以テ妻ヲ毆打シ其倒ルルニ乘シ足ヲ擧ケテ之ヲ蹴リタル行爲ハ一時ノ憤怒ニ出テタルト將タ夫婦

問ノ不都合ニ原因シテ生シタルト否トヲ論セス民法第八百十三條第五號ニ謂フ同居ニ堪ヘサル虐待ニ該當セルモノトス(三十八年五月三十日大判)

九 夫カ妻ニ對シテ窃盜ノ汚名ヲ負ハシメ他人ノ面前ニ於テ裸體ト爲ラシムルカ如キハ婦人ヲ辱ムルノ甚ダシキモノニシテ其當事者ノ身分職業ノ高下ヲ問ハス妻ニ對シ重大ナル侮辱行為ヲ構成スルモノトス(三十八年六月十七日大判)

十 民法第八百十三條第五號ノ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受ケタルトキハ繼續的ナルト一時的ナルトヲ問ハス其所謂苛酷ニシテ到底夫婦ノ關係ヲ持續シ同居スルニ堪ヘサル場合ヲ謂フモノトス(四十年五月二十四日大判)

十一 夫カ他人ノ面前ニ於テ妻ニ對シ窃盜ノ行為アリタリト云フカ如キハ其實質ノ有無ヲ問ハス妻ニ汚名ヲ被ラシメタルモノニシテ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノトス(四十年十一月六日大判)

十二 妻カ夫ヨリ虐待侮辱ヲ受ケタル時ハ之ヲ原因トシテ離婚ノ請求ヲナスノ外其虐待侮辱ノ爲メ精神上苦痛ヲ蒙リタル場合ニハ之カ慰藉料ヲ請求シ得ヘキモノトス如上ノ場合ニ於テハ妻ノ精神上ノ苦痛ハ必スシモ離婚判決ノミニ依リテ回復セラルヘキモノニ非ス從テ該判決ニ因リ精神上ノ苦痛方回復セラレタリトスルニハ特ニ其理由ヲ説示セサルヘカラス(四十一年三月二十六日大判)

十三 夫カ妻ニ對シ時ニ懲戒的腕力沙汰ノアルコトノ當否ハ固

リ別論ニシテ世上其論ナキニ非スト雖其苦痛ヲ與フル程度カ餘リニ苛酷ニ涉リ言動殘忍ナル所爲ニ及ヒ散見ノ事例ト同一視スルコト能ハサル場合ハ同様ニ意ナキ虐待的暴行ト認メラレ離婚ノ原因トナル

右虐待ニ及ヒタルハ動機カ妻カ無斷家出ヲナシ夫ト同居ヲ肯セサリシ所爲ニ出テタリトスルモ法律ハ虐待ヲ加フルニ至リタル原因ハ之ヲ問ハサル故矢張離婚ノ原因トシテ妨ケナシ(最近判二卷九六頁四十二年四月十七日大阪控判)

十四 墮胎ノ事實ナキ自己ノ妻ニ對シ其所爲アリトシテ再度マテ警察官ニ之ヲ申告シ其取調ヲ受ケシメタル如キ事實アルトキハ其妻ハ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ヲ原因トシテ裁判上ノ離婚ヲ請求スル權利アルモノトス(法新五〇一號一九四一年五月十四日東控判)

十五 民法第八百十三條第五號ニ所謂同居ニ堪ヘサル虐待トハ虐待者ニ望ムニ同居ノ繼續ヲ以テスルヲ得サルノ結果ヲ伴フ虐待ヲ謂ヒ而シテ果シテ如何ナル虐待カ如上ノ結果ヲ生スルヤハ之ヲ定ムヘキ一般的标准アルニ非ス各場合ニ於テ配偶者ノ性質地位其他ノ事實ヲ斟酌シテ定ムヘキモノトス(法新五三三號一八頁四十二年十月十日大判)

十六 現ニ正妻アルニ拘ハラズ先妻ト猶其關係ヲ持續シ剩ヘ其婦女方ニ同様シテモ正妻ヲ顧ミサルカ如キハ正妻其者ヲ侮辱スルノ重大ナルモノナルカ故ニ離婚ノ原因アルモノトス(法新五五七號九頁大阪地判)

十七 妻カ姦通シタルカ如キ事情ノ存スル場合ニ於テ夫カ之ヲ公然他人ニ暴露セスシテ妻ノ實父母ニ對シ其確信シタル事實ヲ書面ニテ通報シ胸中ノ煩悶ヲ訴フルカ如キハ假令夫カ激昂ノ餘リ其書面ニ多少過激ノ文詞ヲ使用スルモ相當ノ理由アリテ確信シタル事實ニツキ妻ヲ戒諭スヘキ地位ニアル其實父母ニ對シ機密ノ通信ヲ爲ス者ト謂フコトヲ得ルヲ以テ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當セス(法新五六〇號一六頁四十二年三月五日大判)

十八 婦ニ於テ姦通ノ事實ナキニ拘ラス其夫カ其事實アル如ク揚言シテ憚ラサルハ民法第八百十三條第五號ノ配偶者ニ對スル重大ナル侮辱ニ該當ス(法新五六四號一八頁四十二年三月二十三日大阪控判)

十九 正妻アルニ不拘他家ニ留連シ剩ヘ娼妓ヲ身請シテ之ト同様セル所爲ハ甚シク其妻ヲ侮辱シテ其夫ト婚姻關係ヲ持續スル觀念ヲ杜絶セシムルニ充分ナレハ民法ニ所謂重大ナル侮辱ニ相當シ離婚ノ原因アルモノトス(法新五六六號一三頁橫濱地判)

二十 妻カ其家ニ白痴盲目ナル子女アルニ拘ハラズ俳優等ニ親ミ娯樂ニ耽リ遂ニ逃亡シテ數ヶ月ヲ經ルモ歸來セスモ其夫ヲ顧

第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方カ他ノ一方ノ行為ニ同意シタルトキハ

離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行為ヲ宥忍シタルトキ

亦同シ

第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ由ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

一 虐待又ハ侮辱ヲ請求ノ原因トスル離婚ノ訴ニ於テ請求者ハ其事ヲ知リタルトキヨリ一年内ニ訴ヲ提起シタル事實ヲ確定セ

スシテ其請求ヲ容レタル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ
(三十四年十月二十二日大判)

第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離婚又ハ縁組取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ由ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ縁組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三箇月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ

付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判上ノ離婚 雜部

一 協議上ノ離婚ニ因ル復籍ハ戶籍法第九條所定ノ方式ヲ履踐シ離婚當事者ニ於テ之ヲ戶籍吏ニ届出テタルトキ離婚ト相俟テ復籍ノ效果ヲ生スヘキモノナレハ離婚届ヲナサスシテ直ニ復籍

ノ手續ノミヲ強要スルコトヲ許ササルモノトス(法新五七四號
一四頁德島地判)

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

一 民法施行前ト雖モ嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律ナシ(三十三年三卷四二頁大判)

第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタルトキヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

一 夫カ子ヲ嫡出ニ非ストシテ否認スルニハ民法第八百二十五條ノ規定ニ依リ其出生ヲ知リタルトキヨリ一ヶ年內ニ訴ヲ起ササ

ルヘカラス(法新五號一〇頁三十三頁十月四日東控判)

第八百二十六條 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタルトキヨリ之ヲ起算ス但夫カ

成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタルトキヨリ之ヲ起算ス

嫡出子 雜部

一 血族ノ親族タル身分ハ父母ノ認知ヲ得タル私生子ノ外事實上血族タル者ハ即其身分ヲ有スルモノニシテ必スシモ戸籍ニ登錄スルコトヲ要スルモノニ非ラス從テ戸籍簿ニ登錄シテアラサルノ一事ヲ以テ血族ニ非ストスルコトヲ得ス(三十五年十一月二十一日大判)

サルカ如キ又ハ届出ヲ爲サス若シクハ不實ノ届出ヲナシタルカ如キ場合ニハ唯其關係ヲ認メ得ルニ過キス(三十八年四月二十日大判)

二 實親子ノ關係ハ自然ノ血縁ニ因ルモノナルカ故ニ其血縁アルモノノ間ニ親子ノ關係存スルハ勿論ニシテ血縁アルコトノ知レ

三 嫡出子ノ認知ナルモノハ法律ニ規定スル所ナキヲ以テ其語辭ハ法律上一定ノ意義ヲ有スルモノニ非ス故ニ訴訟ニ嫡出子認知ト題スルモ其意或ハ嫡出子タル既存ノ身分關係ノ確認ヲ求ムルニ在リト解スルヲ得タリ必スシモ新ニ嫡出子タル身分關係ヲ發

生セシムル爲メノ意思表示又ハ他ノ行爲ヲ求ムルニ在リト解セサルヘカラス(法新五一四號一五頁四十二年七月二日大判)

四 父ノ死亡後母カ入夫ヲ迎ヘタルトキハ其入夫ト子トノ間ニ繼父子ノ關係生スルハ勿論ナリ而シテ其母ノ後夫トナリタル者カ始メヨリ母ト同一家籍ニ在リタル場合ニ於テモ亦繼父子ノ關係ヲ生ス隨テ父ノ弟カ父ノ死亡後母ノ入夫トナリタル場合ニ於テハ其子トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生スルモノトス(法新五六二號一三頁四十二年二月二十三日東控判)

五 父死亡シ又ハ離婚シテ家ヲ去リタル後父ノ妻即チ母ニ於テ他ヨリ夫ヲ迎ヘテ結婚スルトキハ其夫ヲ稱シテ子ノ繼父ト云フハ我國古來ノ慣習ナルモ母カ他ヨリ夫ヲ迎フルニアラスシテ同一戸籍ニ在ル先夫ノ弟ト結婚スルトキハ其夫ヲ以テ子ノ繼父トスルコトヲ許ササルカ如キ法規ナキハ勿論又其慣習アルナシス

第二款 庶子及私生子

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

一 明治九年頃ニアリテハ法律上妾ナルモノノ公認セラレテ戸籍ニ登錄セラレタル時代ナルヲ以テ戸籍上妾トシテ登錄セラレサル妾ノ分娩シタル子ハ庶子ノ身分ヲ有セサルモノトス(法新五一

一號一三頁四十二年七月八日大判)
二 繼母ト繼母ノ後夫トノ間ニ生シタル子ハ繼子ト兄弟ノ親族關係ヲ生ス(法記十八卷七號六二頁)

第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ

得ルコトヲ要セス

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非ラサレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎内ニアル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

トヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

一 民法第八百三十一條ノ規定ハ唯ダ父ニ胎兒ヲ認知スル權利アルコトヲ規定シタルニ止マリ其義務アルコトヲ規定シタルニ非ス其他父ニ胎兒ヲ認知スヘキ義務アルコトノ規定存在セス故ニ

母ハ父ニ對シ胎兒ノ認知ヲ請求スルコトヲ得ス(法新四三號二頁東地判)

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

ヲ得ス

第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

一 民法第八百三十四條ニハ子其他利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得トアルカ故ニ若シ認知ニシテ眞實

ニ反スル場合ニ於テハ子其他利害關係人ハ反對ノ事實ヲ主張シ眞實ニ反スルコトヲ證明シテ認知ノ取消ヲ請求メ得ルモノトス(法

新五三六號一四頁四十一頁十一月六日大阪地判)

二 民法第八百三十四條ニ所謂認知ニ對シ主張スヘキ反對事實トハ認知其ノ自體カ本來眞實ノ關係ヲ認ムト云フ意味ニ對スル反

對眞實親子ニ非スト云フ事實ヲ指スモノト解スルチ相當トス而シテ同條ノ利害關係人中ニハ認知者ヲ包含セサル者トス(法新五九六號一四頁大阪地判)

第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルヲ得

一 認知ヲ求ムル權ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限リ行使スルコトヲ得ルモノトス(三十二年一卷七頁大判)

四年十二月十七日大判)

二 子ノ法定代理人ハ特ニ法律ノ許容ニ依リ父又ハ母ニ對シテ認知ノ請求ヲ爲シ得ルト雖モ其法定代理人タル母カ獨立ノ訴訟行爲ヲ以テスルニアラスシテ子カ認知ノ請求ヲ爲シ其母カ法定代理人トシテ其子ヲ代表シ代理資格ヲ以テ其認知ヲ求ムルカ如キハ法律ノ認容セサル所ナリ(法新二七號一〇頁東地判)

六 民法第八百三十五條ノ法定代理人ノ資格ニ於テ即チ未成年者ヲ代表シテ爲スヘキモノニシテ法定代理人固有ノ資格ニ因リテ爲スヘキモノニ非ス(法新七二號六頁三十四年十二月二十七日福島地白川支部判)

三 民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格自己ノ權利ニ因リテ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力者タル子又ハ直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意ニ解釋セサルヘカラス(三十四年十二月十七日大判)

七 民法第八百三十五條ハ認知ノ請求ニ付キ法定代理人カ無能力者ヲ代理スルコトヲ特ニ規定シタルモノナリ(三十五年一月二十五日大判)

四 民法第八百三十五條ノ規定ノ子ノ代理人ハ無能力者タル子ヲ代表シテ認知ヲ請求スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ身分上ノ事項ニ關シテハ代表權無キコトヲ通則トスル法定代理人ニ代表權ヲ附與シタル特別規定ナリト解釋スルチ相當トス(法新四二號十三頁東地判)

八 民法第八百三十五條ノ認知請求權ハ法定代理人ノ固有ノ權利ニアラスシテ子又ハ其直系卑屬ノ權利ヲ代表シテ認知請求ヲ爲スコトヲ得ルニ過キサルモノトス(法新八〇號一〇頁三十五年二月十三日東地判)

五 民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格又ハ自己ノ權利ニ因リテ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意ニ解釋セサルヘカラス(三十四年十二月十七日大判)

九 民法第八百三十五條ノ場合ニ於テハ法定代理人ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ請求スルモノニシテ父又ハ母カ子ヲ代表スルハ親權ノ效力ニ外ナラス故ニ私生子ノ母タル未成年者ノ親權者カ其未成年者ニ代リテ親權ヲ行ヒ私生子ノ認知請求ノ提起スルハ不法ニ非ス(三十八年四月一日大判)

十 民法施行後ニ出生セル私生子ハ母ハ勿論父ニ對シテモ認知請求ノ權利アリ然レトモ施行前ニ出生セル私生子ハ其父ニ對シテ

十 民法施行後ニ出生セル私生子ハ母ハ勿論父ニ對シテモ認知請求ノ權利アリ然レトモ施行前ニ出生セル私生子ハ其父ニ對シテ

認知ヲ請求スル權利ナシ(最近判一巻五三頁四十年四月十日東地判)

十一 私生子認知ノ訴ニ付キ私生子ノ母カ未成年者ナル時ハ其母ノ親權者ハ代理シテ起訴スルハ適法ナリ(最近判三巻七頁四十年五月二十七日長崎控判)

十二 未成年者ノ親權者ハ未成年者ノ父又ハ母ニ對シ其私生子認知ヲ要スルコトヲ得ヘシト雖モ其親權者モ亦未成年者ナルトキハ其親權者タル未成年者ヲ代表スル法定代理人ニ於テ私生子認知ノ訴ヲ提起スヘク未成年者タル親權者ノ出訴ハ適法ニ非ラス(最近判四巻六二頁四十年十一月十三日大阪控判)

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

庶子及私生子 雜部

一 認知ノ請求ニ付キ法定代理人ハ無能力者ヲ代理シ又未成年者ノ親權者ハ自己ノ親權ノ作用トシテ直接ニ未成年者ノ子ノ母カ未成年者タル以上ハ其親權者ハ私生子ヲ代理シテ認知ノ訴ヲ提起シ得ルモノトス又扶養權利者カ其扶養ヲ受ケサルヘカラサルノ狀態ニ在ルコトヲ義務者ニ通知シ其義務ノ履行ヲ求メ義務者ヲ遲滯ニ付シタル時ハ過去ノ扶養料ト雖モ之カ請求ヲナシ得ル

ルモノニシテ假令其後ニ於テ扶養權利者カ他ノ方法ニ依リ事實上生活シタリトスルモ扶養ヲ要スル事情ニ變化ナキ以上ハ扶養權利者ハ義務者カ遲滯ニ付セラレシ時以後ノ扶養料ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノニ非ス(法新五〇七號十一頁四十年五月二十七日長崎地判)

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタルモノハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

第八百三十九條 法定ノ推定家督相続人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲スル爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

一 民法施行前ニ在リテハ法定家督相続人タル男子アル場合ト雖モ單純ノ養子ヲ爲スコトハ當時ノ法令者クハ慣習ニ違背スル所

ナシ(三十二年二巻三二頁大判)

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終

ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非レハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

一 民法第八百四十一條第一項ノ規定ハ配偶者ノ一方ノミニ對シテ養親子ノ關係ヲ生セシムルノ結果ヲ防リニアリト解釋スヘキヲ以テ養親ノ一方ノミニ對スル縁組ハ勿論規定ノ精神ニ反スル

モノニシテ當然之ヲ許可スヘカラサルモノトス(法新一二七號一一頁東地判)

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表スルコト能ハサルトキハ他ノ一方

ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ